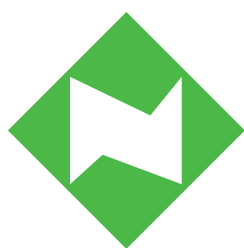


公第3卷 (通算第14卷)



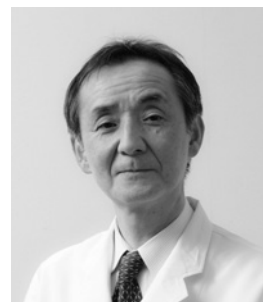
公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

平成26年4月～平成27年3月

vol.3

平成26年度 日生病院年報の発刊にあたって



院長 笠山 宗正

日生病院年報（公第3巻：平成26年4月～平成27年3月）をお届けいたします。どうぞ、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

平成26年は（公財）日本生命済生会が創立90周年を迎えた記念すべき年でしたが、消費税増税に加え診療報酬の実質マイナス改定など病院経営の点では厳しい時代のはじまりの年でもありました。今後さらに厳しくなることが予想される医療環境にも適応するため、また平成30年春に開院することが決定した新病院の新設に向けて、変革4ヶ年計画を策定しこれを実行するための取り組みを開始しました。

新設した「病院業務改革推進本部」では、①診療、②予防と治療の融合、③効率化・標準化、④医療連携、⑤情報システム、⑥アートと医療の融合、⑦広報・情報発信強化、の観点からさまざまな検討を行いました。毎朝の部長・師長連絡会、訪問リハビリテーション、ベッドコントロール状況やDPC入院期間の開示、院長特別表彰・月間MVP賞による職員の顕彰などは平成26年度より新たに開始したものです。

さらに「外来・病床運営管理部」を新設し、断らない医療、高い病床稼働の実現をめざした取り組みを推進しました。また「救急診療センター」「女性骨盤底センター」「糖尿病・内分泌センター（糖尿病センターを改組）」を新設し、救急患者の受け入れ体制の整備、在宅患者緊急受入れの対応、骨盤内臓器脱メッシュ手術件数の増加、ウィークエンド糖尿病精査入院の開始などの実績をあげることができました。

平成26年5月には新しい電子カルテをはじめとする新情報システムの稼働を開始しました。さらに、地域の医療機関のために土曜日午前中の診察・検査受付を開始したほか、連携医療機関が当院の電子カルテの診療情報を共有しオンラインで診療や検査の予約が可能となる「日生病院地域医療NETWORK」の導入もスタートしています。

平成26年度は『みんなで「素晴らしい病院」をつくろう！～安心・安全・信頼の地域No.1病院を目指す～』をスローガンに、当院職員が高い意識を持ち変革の努力を行った結果、ほぼすべての項目で前年度を上回る業績をあげることができました。

わたしたちは、予防から治療・在宅まで一貫した最優の医療サービスを提供し、「済生利民（生命や生活を救済し人びとのお役に立つ）」の精神に基づき、地域・社会から愛され、そして信頼される病院をめざして努力を重ねていきます。これからも当院に対しましてさらなるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

平成26年度日生病院年報の発刊にあたって 院長 笠山 宗正

第Ⅰ章 軌跡

1. 日生病院理念と基本方針	1
2. 患者様の権利について	1
3. 施設概要	2
4. 学会認定状況	3
5. 主要医療機器	4
6. 日本生命済生会組織図	5
7. 会議・委員会	6
8. 平成26年度業績概要	7
9. 日本生命済生会の沿革	8
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長	11

第Ⅱ章 病院統計

1. 全体統計	12
1) 一日平均外来患者数	12
2) 一日平均入院患者数	13
3) 患者年齢・診療圏構成	14
4) 病床稼働率	15
5) 救急患者数	16
6) 退院患者医療評価指標	17
①退院患者統計	17
②診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数	18
③疾病統計	19
④悪性新生物統計	20
⑤診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	21
7) 手術件数統計	22
①診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）	22
②診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）	23
2. 医事統計	24
1) 診療科別医療収入	24
2) 医療行為別医療収入	26
3. その他統計	28
1) 病院従業員数	28
2) セカンドオピニオン外来件数（年間計）	28

第Ⅲ章 部門別概要

1. 診療科・センター・部（室）別概要	29
循環器内科	29
消化器内科	31
総合内科	33
血液・化学療法内科	36

神経内科	38
神経科・精神科	39
小児科	42
消化器・一般外科	43
乳腺外科	45
整形外科	46
皮膚科	47
泌尿器科	49
産婦人科	51
眼科	56
耳鼻咽喉科	58
放射線科	60
麻酔・緩和医療科	61
病理診断科	63
がん治療センター	65
女性骨盤底センター	66
糖尿病・内分泌センター	67
消化器内視鏡センター	70
救急診療センター	71
臨床研修部	72
輸血管理室	73
化学療法室	74
リハビリテーション室	75
中央臨床検査部	77
中央放射線部	80
栄養管理室	81
薬剤部	84
治験管理室	86
医療安全対策室	87
感染対策室	89
あったかサポートセンター	90
日生訪問看護ステーション	97
日生ケアプランセンター	98
看護部	99
ニッセイ予防医学センター	106

第IV章 諸活動

1. 診療科別教育	108
2. 全体教育	109
3. 日生医学賞・日生医学奨励賞	118
4. 院長特別表彰・月間MVP賞	119
5. 地域活動	120
6. ボランティアの活動	120
7. CS・ES推進取組	121
8. 院内行事	122
9. 広報関係（新聞、雑誌記事 他）	124

1. 日生病院理念と基本方針

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 社会に学び、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 上記5項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者様の権利について

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にいたします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針などを自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

なお、患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

3. 施設概要

1. 名 称 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院
2. 所 在 地 大阪市西区立売堀 6 - 3 - 8
3. 開設年月日 昭和57年 3 月11日
4. 構 造 病院本館／鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階 （搭屋1階）
病院別館／鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階
予防医学センター・寮／地上5階
5. 設 備 空調設備／セントラル空調方式一部個別方式
熱源設備／ガス吸収式冷温水発生機・空冷ヒートポンプチラー
電気設備／契約電力1500kw
6. 竣工年月日 昭和57年 2 月 1 日
工事期間／昭和54年12月 6 日～昭和57年 2 月 1 日
7. 許可病床数 350床

〈病院本館〉

7 F	ミニ・コンビニ、カフェ	555㎡
病棟等（主な入院診療科）		
6 F	消化器内科 神経科・精神科 小児科	産婦人科 (LDR、新生児室)
5 F	血液・化学療法内科 総合内科	循環器内科 神経内科
4 F	整形外科 眼科 皮膚科	耳鼻咽喉科 泌尿器科 内科
3 F	消化器・一般外科 乳腺外科 婦人科 泌尿器科	手術室 結石破碎室
外来		
2 F	眼科/泌尿器科/皮膚科/耳鼻咽喉科/神経科・精神科 麻酔・緩和医療科/糖尿病・内分泌センター/栄養指導室 中央検査部/生理検査室/中央採血室/MRI・RI検査室 医局/診療情報管理室/図書室/情報システム室	3,942㎡
1 F	内科(循環器内科、消化器内科、総合内科、血液・化学療法内科、神経内科、健診精査内科) 小児科/産婦人科/消化器・一般外科/乳腺外科/整形外科 リハビリテーション室/消化器内視鏡センター/放射線科 治験管理室/医事サービス部/あったかサポートセンター 女性骨盤底センター/がん治療センター/救急診療センター/時間外診療室	3,881㎡
B 1 F	リニアック治療室/薬剤部/栄養管理室	4,756㎡
計		22,011㎡

〈病院別館〉

5 F	別館病棟	409㎡
4 F	管理部門・会議室	499㎡
3 F	管理部門	499㎡
2 F	管理部門	777㎡
1 F	講堂・訪問看護・看護部管理室	929㎡
計		3,114㎡

〈予防医学センター〉

2 F	ドック・健診スペース	1,102㎡
1 F	受付・事務	847㎡
計		1,949㎡

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会
- ・日本整形外科学会
- ・日本血液学会
- ・日本超音波医学会
- ・日本循環器学会
- ・日本皮膚科学会
- ・日本眼科学会
- ・日本病理学会
- ・日本消化器外科学会
- ・日本IVR学会
- ・日本高血圧学会
- ・日本呼吸器学会
- ・日本外科学会
- ・日本泌尿器科学会
- ・日本耳鼻咽喉科学会
- ・日本アレルギー学会
- ・日本産科婦人科学会
- ・日本麻酔科学会
- ・日本小児科学会
- ・日本臨床腫瘍学会
- ・日本糖尿病学会
- ・日本心血管インターベンション治療学会
- ・日本静脈経腸栄養学会
- ・日本医学放射線学会
- ・日本ペインクリニック学会
- ・日本リウマチ学会
- ・日本臨床細胞学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本内分泌学会
- ・日本乳癌学会
- ・日本消化器病学会
- ・日本神経学会
- ・日本肝臓学会
- ・日本産科婦人科内視鏡学会
- ・日本消化器内視鏡学会
- ・日本呼吸器内視鏡学会
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

(平成27年3月31日現在)



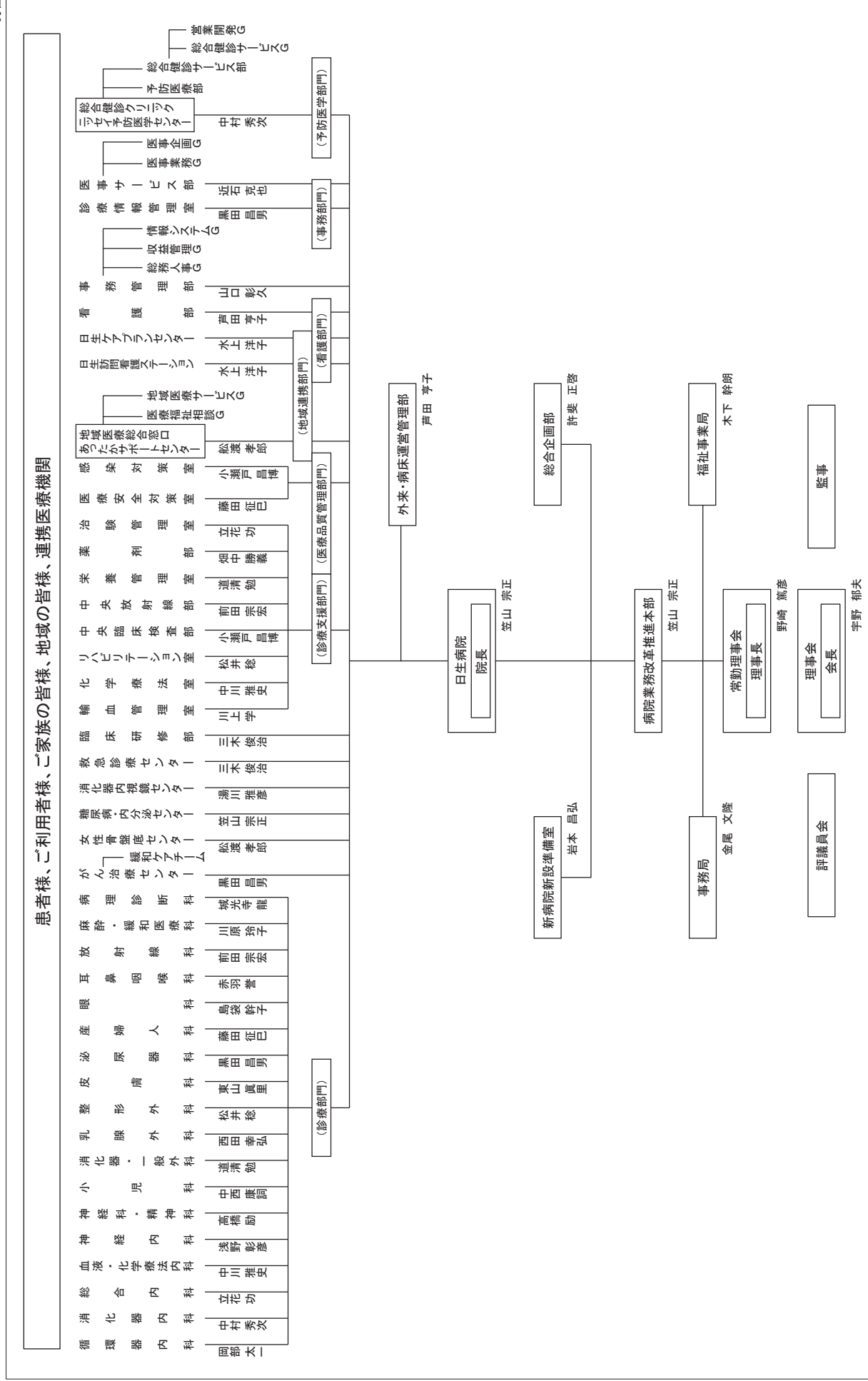
5. 主要医療機器（取得金額1,000万円以上）

品 名	設置部署	数量	品 名	設置部署	数量
超音波内視鏡	内 視 鏡	1	ガンマカメラGCA-7200A	RI・MRI	1
ステレオ定位乳腺バイオペシーシステム	乳腺外科	1	全身用磁気共鳴装置（MRI）	RI・MRI	1
体外衝撃波結石破碎装置	泌尿器科	1	デジタルガンマカメラ	RI・MRI	1
ノーバスオムニマルチカラーレーザー光凝固装置	眼 科	1	超音波診断装置SSD-2000	超 音 波	1
フリースメインOCT RS-3000	眼 科	1	超音波診断装置SSA-370A	生理検査	1
前眼部OCT CASIA	眼 科	1	超音波診断装置SONOS4500	生理検査	1
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼 科	1	超音波診断装置SONOS-7500システム	生理検査	1
医用ライナック LMR-4	放射線科	1	超音波診断装置 VIVID E9 BASIC	生理検査	1
診断用X線テレビ装置MEDIX-230XB	放射線科	1	血液検査分析器 HSトランスポートーション	血液検査	1
骨密度測定装置DPX-L	放射線科	1	実験台及び什器備品 一式5台	化学血清	1
X線テレビ装置DBA-300A	放射線科	1	血液ガス電解質分析装置ABL-615	化学血清	1
FCR5000	放射線科	1	ニューマック手術台システム	手術室	1
寝台昇降型X線テレビ装置	放射線科	1	手術顕微鏡OPMI-6S	手術室	1
位置決めX線装置	放射線科	1	眼科用手術顕微鏡 OPMI CS-XY	手術室	1
FCR5000 PLUS	放射線科	1	高圧蒸気滅菌器	手術室	1
多目的血管連続撮影装置 INNOVA3100	放射線科	1	全身麻酔装置	手術室	1
16列マルチスライスCT	放射線科	1	蒸気滅菌器	手術室	1
放射線治療装置LMR-4点検整備	放射線科	1	麻酔ワークステーション (監視モニター)	手術室	1
乳房X線撮影装置LORAND M-IV	放射線科	1	トランスマックハッチウェイシステム	手術室	1
放射線治療システム (リニアアクセラレーター)	放射線科	1	全身麻酔器 エスティバ 5/ST	手術室	1
IMRT対応部品	放射線科	1	アルファマック分離手術台	手術室	1
心臓カテーテル検査装置 MCS-9000	放射線科	1	ステラッド100S低温プラズマ滅菌器	手術室	1
320列CT装置 Aquilion ONE	放射線科	1	S/5麻酔ワークステーション	手術室	1
大動脈内バルーンポンプ IABP	放射線科	1	形成外科用手術顕微鏡 M525 F40	手術室	1
X線テレビジョンシステム ZEXIRA	放射線科	1	手術顕微鏡 OPMI LUMERA	手術室	1
デジタルガンマカメラGCA-901A	RI・MRI	1	超音波診断装置SSH-160A/HG	6 階 西	1

組織図

6. 公益財団法人日本生命済生会

H27.3現在



7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	川原 玲子	11
あったかサポートセンター運営委員会	船渡 孝郎	※
安全衛生委員会	立花 功	4
医療安全管理委員会	藤田 征巳	12
医療ガス安全管理委員会	川原 玲子	1
医療機器・ディスプレイ検討委員会	笠山 宗正	6
医療従事者業務見直しワーキング	黒田 昌男	1
院内感染対策委員会	小瀬戸 昌博	12
栄養・給食委員会	道清 勉	5
外来機能改善委員会	藤田 征巳	3
化学療法運営委員会	中川 雅史	2
教育委員会	立花 功	2
クリティカルパス委員会	西田 幸弘	2
研修管理委員会	笠山 宗正	1
研修推進委員会	三木 俊治	4
サービス・広報委員会	山口 彰久	12
手術室運営委員会	川原 玲子	3

委員会名	委員長	開催回数
情報管理委員会	黒田 昌男	5
褥瘡対策委員会	東山 眞里	3
診療情報提供委員会	山根 秀一	1
診療録管理委員会	浅野 彰彦	5
治験審査委員会	東山 眞里	13
TQM推進委員会	松井 稔	2
DPC・質向上委員会	黒田 昌男	3
当直・救急検討委員会	三木 俊治	2
7：1看護体制発展推進委員会	芦田 亨子	2
日生医学賞顕彰委員会	浅野 彰彦	2
年報ワーキング	立花 功	1
病院機能向上委員会	笠山 宗正	5
病棟運営委員会	芦田 亨子	2
防災管理委員会	立花 功	2
放射線安全委員会	前田 宗宏	2
訪問看護運営委員会	笠山 宗正	1
薬事管理委員会	笠山 宗正	4
輸血療法委員会	川上 学	4
臨床検査適正化委員会	水口 洋一	4
臨床工学技士ワーキング	小瀬戸 昌博	2
倫理委員会	中村 秀次	10

※代替として、あったかサポート・ミーティング（船渡運営委員長が座長）を毎週実施

8. 平成26年度 業績概要

総収益	8,587百万円 (7,741百万円) *	従業員数	665人
新入院患者数	8,150人	平均在院日数	12.1日
1日平均入院患者数	291人	入院単価	49,399円
病床稼働率	83.1%		
外来延患者数	216,910人	外来単価	11,525円
1日平均外来患者数	885人		
紹介率	48.1%	逆紹介率	50.4%

* () 病院単独

9. (公財)日本生命済生会(日生病院)の沿革

大正13年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	昭和46 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行
14 4	健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	47 4	臨床研修指定病院の認定受ける
昭和5 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	48 2	「日生病院医学雑誌」第一巻第1号を刊行
6 6	日生病院（内科、外科、理学的診療科）開院	48 3	紀要「地域福祉研究」第一集刊
7 4	看護婦養成所を設立	48 4	放射線学会「専門医修練機関」認定
7 7	産婦人科、小児科を新設	48 9	病歴図書部を新設
17 1	耳鼻咽喉科を新設	48 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」開発で機械振興会賞を受賞
22 1	眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、整形外科新設）	49 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂（54年発刊）
22 4	インターン制度の開始 （第一期生9名受入れ）	51 1	RI検査室を新設
23 9	健康保険、労災保険病院の指定受ける	53 3	「(新)病院建築基本構想委員会」設置
24 7	結核病棟を設置（昭和48年8月、閉鎖）	53 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
30 12	第二種社会福祉事業（無料低額診療）を開始	54 4	医療事務をコンピュータ化
31 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工（350床へ）	57 4	新病院（現在地）の竣工、開院
31 6	健康精密検査室（人間ドック）を開設	58 3	日本生命と第一回特別委員会（5カ年計画策定）
32 8	総合病院の認可受ける	59 3	全科で午後外来診療を開始
33 4	済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	59 4	社会事業局を福祉事業部に改組
33 10	甲表採用、三基準認可	60 4	病理部を再設置
34 10	神経科新設	62 12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を受ける
35 4	学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	63 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術連合会議からパイオニア賞を受賞
36 6	日本生命済生会労働組合の結成	平成元 2	夕食を午後6時配膳
40 8	各診療科に部長制採用	元 10	専門外来（10科）開始
42 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ拡大、充実	元 11	自動再診受付機を設置
43 8	第一回「社会福祉カウンセリング講座」開講	2 10	学校、創立30周年記念式典
44 4	冲中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	3 4	4週6休制試行開始
45 9	第一回「篤志解剖者慰霊祭」執行	3 10	地域の「健康講座」に講師派遣
		4 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
		5 2	「病院運営会議」を再開

平成5	4	MRIの稼働開始	平成13	6	公開学術講演会開催 (講師：北村国立循環器病センター総長)
5	6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得	13	7	第一回日生病院病診連携フォーラム開催
5	10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成	14	1	開放型病院資格取得
6	3	内科外来等で予約診療開始	15	4	医療安全対策室設置
6	7	創立70周年記念式典、諸行事実施(7～ 11月)、70年史の編纂開始	15	4	予防医学センター設置
6	10	脳ドック検診開始	16	2	内科二次救急指定病院取得
6	10	新看護体系「2：1(A)」の承認	17	3	電子カルテシステム稼働
6	11	無菌治療室設置、使用開始	18	4	血液・化学療法内科新設
7	2	保温保冷配膳車導入	18	7	DPC導入(入院医療費)
7	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、第一回 表彰式実施	19	2	土曜日閉院 4週8休制開始
7	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞 受賞	19	3	7対1入院基本料算定開始
8	5	総合案内・看護相談の試行実施	19	3	日生看護専門学校閉校
8	10	「歯科口腔外科」標榜	19	11	がん治療センター、 低侵襲医療センター開設
9	2	経営改善推進本部・部会の発足	20	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン
9	3	歯科臨床教育病院の新規指定	20	7	生活習慣病センター開設
9	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト (医療経済研究機構)に選ばれ、参加 (全国17モデル病院)	20	10	乳腺外科新設
10	2	「日生病院だより」創刊号発行	21	3	第一回日生病院市民公開講座開催
10	5	総合診療科機能発足	21	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
10	7・8	DRG/PPS分析結果報告会開催	22	8	無料乳がん検診開始
10	11	院外処方箋発行開始	23	4	消化器内視鏡センター開設
10	11	薬剤管理指導料全科算定認可	24	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮 体がん根治手術」(産婦人科)が承認さ れる
11	3	医療材料院外SPD(物品管理システム) 始動	24	4	公益財団法人へ移行
11	7	インフラ工事開始 (12年4月：3階新病棟オープン)	24	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
12	3	日生訪問看護ステーションを開設	24	4	生活習慣病センターから糖尿病センター へ組織名称変更
12	4	日生ケアプランセンター設置	24	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次 元画像解析」(眼科)が承認される
13	4	病院機能評価認定証取得	24	8	320列マルチスライスCT導入
13	4	「日生病院の理念」制定、 「患者様の権利」院内掲示	25	4	新病院新設準備室の新設
			25	4	予防医学センターで「統合健診システム」 の稼働

25	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨 脛固定術」(産婦人科)が承認される
25	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント 「自然に学ぶ!自然に遊ぶ!健康キッズ」 開催

26	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信 『Saisei Rimin (済生利民)』」を発刊
26	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設

(平成26年度沿革)

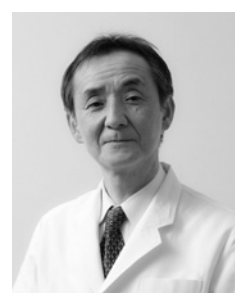
26年4月1日	「変革4ヵ年計画」がスタート
26年4月1日	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管理部、女性骨盤底センター、 救急診療センター、中央放射線部、事務管理部の新設
26年4月1日	糖尿病センターを糖尿病・内分泌センターに改組
26年4月1日	新人事給与制度(職能等級制度の導入等)の運用開始
26年4月1日	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定
26年5月7日	新電子カルテシステムが全面稼働
26年6月1日	理学療法士による訪問リハビリテーションの開始
26年6月2日	外来診療室数拡大、午後診察の受付時間延長
26年7月1日	日本生命済生会 創立90周年。「90年小史」作成
26年8月2日	土曜午前中の登録医からの診察・検査申込受付開始
26年8月4日	化学療法治療中の入院患者に代替選択食の提供を開始
26年8月25日	無料乳がん検診の実施(「大阪市ひとり親家庭福祉連合会」協賛)
26年9月	院長特別表彰・月間MVP賞の開始
26年9月5日	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始
26年12月	「日生病院地域医療NETWORK」の導入
27年1月1日	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定
27年3月1日	医師事務作業補助体制加算を、75対1から40対1に引き上げ

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長

設立時の常任理事	小 河 滋 次 郎	大正13年～14年
日本生命済生会 会 長	弘 世 現	昭和35年～平成 3 年
	川 瀬 源 太 郎	平成 3 年～12年
	小 林 幹 司	平成12年～17年
	宇 野 郁 夫	平成17年～
日本生命済生会 理 事 長	手 塚 太 郎	大正14年～昭和 7 年
	弘 世 助 太 郎	昭和 7 年～11年
	成 瀬 達	昭和11年～26年
	弘 世 現	昭和26年～35年
	若 林 源 蔵	昭和35年～43年
	浜 田 勝 巳	昭和43年～55年
	浅 井 啓 三	昭和55年～61年
	鳥 井 静 夫	昭和61年～平成 4 年
	弟 子 丸 兆 生	平成 4 年～ 6 年
	平 島 一	平成 6 年～ 8 年
	沼 田 輝 夫	平成 8 年～14年
	小 林 三 紘	平成14年～20年
	野 崎 篤 彦	平成20年～
日 生 病 院 院 長	長 雄 勝 馬	昭和 6 年～12年
	清 水 寛 一	昭和12年～21年
	勝 部 育 郎	昭和21年～23年
	新 海 輝 一	昭和23年～46年
	諏 訪 信 吾	昭和46年～49年
	上 野 元 男	昭和49・51～52年
	乾 久 朗	昭和49年～51年
	中 井 俊 夫	昭和52年～平成 2 年
	山 本 昌 弘	平成 2 年～12年
	佐 藤 文 三	平成12年～16年
	宗 田 滋 夫	平成16年～20年
	寺 川 直 樹	平成20年～25年
	笠 山 宗 正	平成25年～



理事長 野崎 篤彦



院長 笠山 宗正

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	58人 (62)	53人 (60)	52人 (56)	51人 (56)	53人 (56)	52人 (59)	53人 (56)	57人 (56)	60人 (58)	58人 (61)	59人 (56)	52人 (52)	55人 (57)
消化器内科	59 (56)	57 (59)	58 (54)	54 (58)	56 (57)	56 (63)	54 (56)	59 (60)	61 (59)	60 (59)	58 (58)	55 (58)	57 (58)
総合内科	126 (113)	125 (119)	120 (118)	127 (120)	120 (113)	125 (132)	131 (124)	133 (122)	142 (134)	136 (132)	136 (126)	125 (124)	129 (123)
血液・化学療法内科	28 (25)	26 (25)	25 (24)	27 (27)	27 (25)	30 (29)	27 (25)	29 (26)	29 (27)	30 (25)	28 (26)	29 (28)	28 (26)
神経内科	26 (25)	25 (23)	23 (25)	27 (25)	21 (23)	26 (25)	23 (26)	26 (26)	26 (26)	27 (29)	23 (24)	24 (27)	25 (25)
救急診療センター	14 (13)	13 (14)	12 (12)	15 (12)	15 (12)	15 (15)	15 (15)	20 (15)	20 (14)	27 (20)	17 (16)	19 (16)	17 (14)
内 科 (計)	311 (294)	299 (300)	290 (289)	301 (298)	292 (286)	304 (323)	303 (302)	324 (305)	338 (318)	338 (326)	321 (306)	304 (305)	310 (303)
神経科・精神科	63 (63)	65 (63)	58 (61)	61 (67)	54 (56)	65 (70)	58 (61)	63 (37)	64 (69)	65 (68)	61 (63)	60 (63)	61 (64)
小児科	36 (37)	36 (39)	33 (32)	33 (33)	23 (32)	31 (31)	36 (34)	37 (39)	35 (46)	33 (38)	31 (39)	30 (37)	33 (36)
消化器・一般外科	19 (18)	18 (20)	17 (19)	16 (17)	17 (19)	19 (21)	17 (19)	18 (18)	18 (20)	17 (21)	18 (19)	18 (22)	18 (19)
乳腺外科	17 (17)	17 (20)	14 (18)	17 (23)	15 (20)	17 (18)	20 (22)	17 (20)	18 (22)	20 (19)	18 (18)	18 (17)	17 (20)
外 科 (計)	36 (35)	35 (40)	31 (37)	33 (40)	32 (39)	36 (39)	37 (41)	35 (38)	36 (42)	37 (40)	36 (37)	36 (39)	35 (39)
整形外科	49 (64)	55 (64)	49 (58)	50 (59)	47 (54)	49 (63)	50 (58)	50 (55)	50 (61)	51 (59)	51 (55)	48 (58)	50 (59)
皮膚科	116 (110)	114 (118)	109 (117)	110 (116)	106 (111)	115 (116)	106 (110)	110 (110)	102 (114)	106 (115)	102 (107)	106 (112)	108 (113)
泌尿器科	50 (47)	47 (51)	47 (47)	48 (49)	43 (46)	57 (56)	51 (47)	49 (49)	51 (55)	48 (53)	54 (51)	50 (50)	49 (50)
産婦人科	88 (82)	105 (88)	105 (87)	114 (90)	109 (82)	115 (86)	89 (89)	97 (84)	93 (88)	95 (92)	90 (90)	90 (87)	89 (87)
眼 科	59 (56)	48 (59)	59 (57)	56 (57)	51 (54)	56 (56)	57 (55)	60 (57)	58 (59)	53 (55)	56 (61)	60 (60)	56 (57)
耳鼻咽喉科	60 (60)	59 (60)	51 (56)	54 (52)	54 (53)	52 (55)	50 (53)	55 (57)	55 (60)	53 (56)	58 (60)	55 (64)	55 (57)
放射線科	20 (16)	13 (18)	13 (19)	17 (19)	19 (18)	12 (18)	16 (22)	15 (18)	15 (22)	16 (23)	16 (26)	20 (21)	16 (20)
麻酔・緩和医療	20 (22)	19 (22)	22 (24)	22 (24)	23 (22)	22 (25)	24 (24)	24 (23)	24 (25)	22 (24)	21 (23)	19 (22)	22 (23)
その他	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	908 (885)	893 (923)	868 (886)	901 (905)	856 (853)	913 (939)	878 (895)	918 (903)	923 (959)	918 (951)	899 (918)	878 (918)	885 (910)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

3. H26.4 救急診療科から救急診療センターへ改組

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	29人 (34)	32人 (30)	30人 (31)	33人 (29)	29人 (34)	33人 (27)	32人 (26)	29人 (28)	31人 (33)	30人 (31)	36人 (35)	32人 (31)	31人 (31)
消化器内科	23 (24)	23 (25)	26 (22)	34 (21)	25 (22)	26 (19)	31 (19)	29 (24)	28 (20)	30 (20)	30 (20)	28 (25)	28 (22)
総合内科	45 (39)	41 (46)	43 (44)	40 (49)	38 (39)	38 (36)	35 (37)	37 (40)	43 (34)	42 (45)	50 (49)	49 (42)	42 (42)
血液・化学療法内科	28 (23)	31 (28)	28 (28)	29 (29)	25 (29)	29 (26)	25 (26)	24 (26)	27 (30)	28 (26)	24 (25)	24 (28)	27 (27)
神経内科	18 (9)	17 (8)	15 (10)	18 (13)	18 (17)	18 (16)	13 (17)	13 (16)	12 (14)	18 (14)	17 (15)	18 (15)	16 (14)
救急診療センター	2 (0)	4 (2)	5 (3)	8 (4)	5 (3)	4 (0)	6 (4)	7 (3)	9 (3)	10 (4)	7 (3)	9 (2)	6 (3)
内 科 (計)	145 (129)	148 (139)	147 (138)	162 (145)	140 (144)	148 (124)	142 (129)	139 (137)	150 (134)	158 (140)	164 (147)	160 (143)	150 (139)
神経科・精神科	15 (18)	16 (18)	15 (17)	15 (17)	15 (18)	14 (17)	14 (19)	16 (18)	15 (20)	13 (20)	15 (19)	12 (19)	14 (18)
小児科	4 (1)	4 (2)	3 (2)	3 (1)	3 (2)	3 (3)	4 (2)	6 (3)	8 (2)	6 (3)	6 (3)	7 (4)	5 (2)
消化器・一般外科	15 (16)	17 (14)	19 (18)	19 (18)	20 (16)	13 (23)	14 (19)	16 (16)	15 (16)	12 (11)	13 (12)	13 (15)	15 (16)
乳腺外科	3 (4)	6 (4)	6 (7)	5 (5)	5 (7)	7 (6)	5 (6)	5 (5)	4 (6)	4 (9)	4 (7)	5 (3)	5 (6)
外 科 (計)	18 (20)	23 (18)	25 (25)	24 (23)	25 (23)	20 (29)	19 (25)	21 (21)	19 (22)	16 (20)	17 (19)	18 (18)	20 (22)
整形外科	23 (24)	22 (20)	26 (22)	36 (27)	28 (23)	25 (20)	26 (24)	24 (30)	30 (30)	30 (24)	34 (26)	33 (25)	28 (25)
皮膚科	12 (12)	9 (10)	9 (11)	9 (9)	9 (9)	12 (10)	7 (10)	8 (11)	7 (7)	8 (8)	10 (12)	7 (9)	9 (10)
泌尿器科	7 (12)	9 (10)	7 (10)	13 (12)	12 (8)	12 (13)	13 (14)	10 (9)	9 (7)	8 (11)	11 (10)	13 (7)	10 (10)
産婦人科	32 (37)	33 (25)	31 (35)	31 (33)	36 (37)	34 (29)	34 (35)	37 (29)	39 (33)	33 (29)	36 (32)	38 (37)	34 (33)
眼 科	3 (8)	3 (8)	4 (7)	5 (7)	3 (5)	3 (4)	5 (8)	5 (10)	4 (5)	5 (4)	4 (8)	6 (6)	4 (7)
耳鼻咽喉科	11 (14)	11 (12)	15 (12)	14 (11)	19 (10)	15 (13)	12 (15)	17 (15)	15 (16)	14 (12)	16 (15)	21 (14)	15 (13)
放射線科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
麻酔・緩和医療	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
合 計	270 (276)	279 (263)	283 (279)	313 (284)	290 (279)	287 (264)	276 (282)	283 (281)	297 (278)	291 (270)	312 (290)	314 (284)	291 (277)

(注) 1. () 内は前年同月

[医事サービス部]

2. H26.4 救急診療科から救急診療センターへ改組

3 患者年齢・診療圏構成

外来 年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	大阪市内訳（主要区）							
						西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H24	2,455	85	69	2,301	1,554	367	59	79	59	18	52	113
	H25	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	H26	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
10～19	H24	679	32	31	616	373	98	50	23	20	8	5	39
	H25	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	H26	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
20～29	H24	2,457	274	331	1,852	962	215	105	79	99	76	51	265
	H25	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	H26	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
30～39	H24	4,342	421	646	3,275	1,653	404	170	115	154	129	127	523
	H25	4,259	381	588	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	H26	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
40～49	H24	4,853	628	946	3,279	1,279	512	294	124	140	109	99	722
	H25	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	H26	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
50～59	H24	4,136	686	799	2,651	972	407	279	160	114	88	66	565
	H25	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	H26	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
60～69	H24	5,801	773	1,125	3,903	1,551	585	489	230	206	94	79	669
	H25	5,769	816	1,090	3,863	1,482	556	500	263	201	102	75	684
	H26	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
70～79	H24	4,819	458	775	3,586	1,374	649	460	158	199	87	79	580
	H25	5,085	472	832	3,781	1,416	700	515	180	215	77	70	608
	H26	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
80～89	H24	2,395	168	299	1,928	794	275	249	66	116	81	40	307
	H25	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	H26	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
90以上	H24	275	10	24	241	126	31	25	3	13	7	4	32
	H25	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	H26	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
総計	H24	32,212	3,535	5,045	23,632	10,638	3,543	2,180	1,037	1,120	697	602	3,815
	H25	32,331	3,490	5,122	23,719	10,270	3,620	2,229	1,117	1,173	743	606	3,961
	H26	32,418	3,598	5,109	23,711	10,060	3,677	2,225	1,152	1,170	788	620	4,019

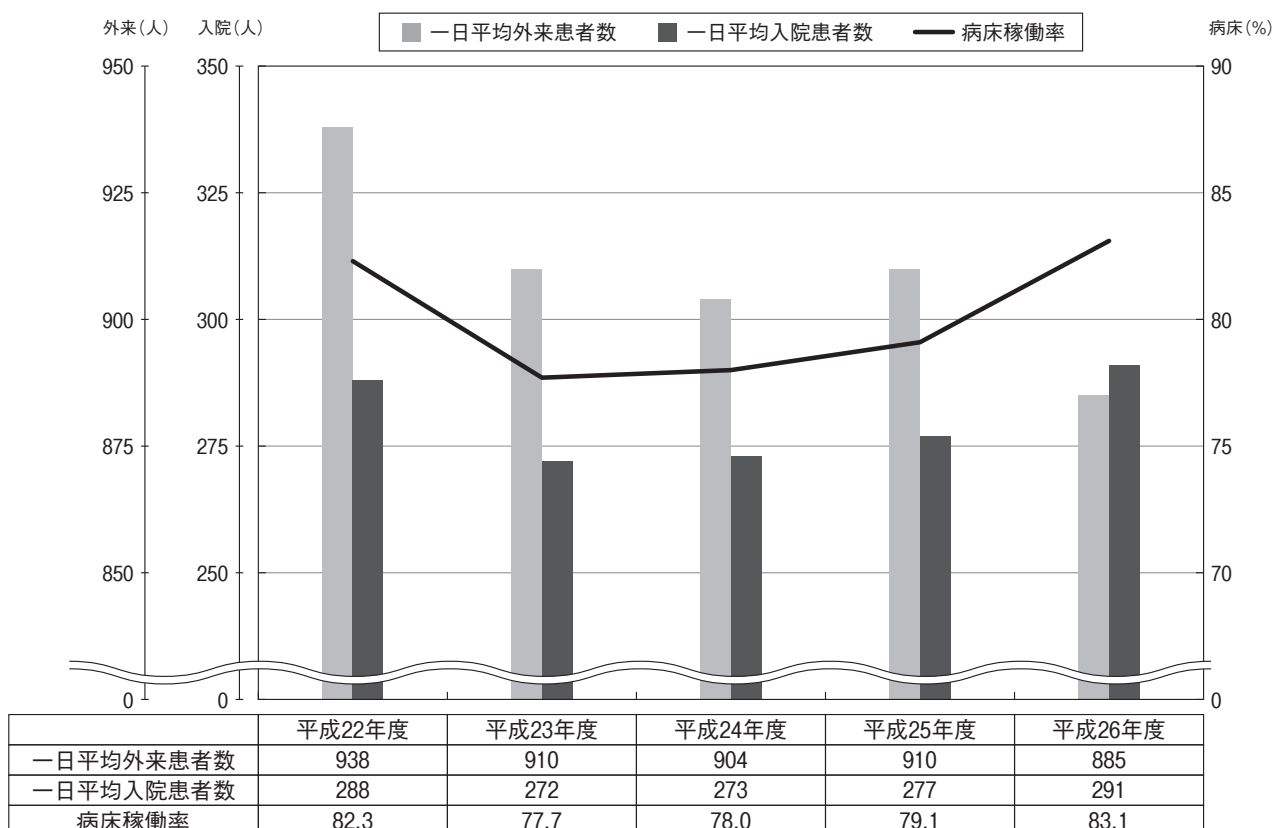
入院 年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	大阪市内訳（主要区）							
						西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H24	298	14	8	276	171	59	59	8	11	5	2	17
	H25	168	9	1	158	101	27	27	4	10	3	5	4
	H26	319	16	9	294	165	70	70	12	10	9	5	17
10～19	H24	56	5	2	49	23	11	11	7	4	0	1	1
	H25	52	3	2	47	19	12	12	7	2	2	2	2
	H26	56	1	3	52	22	7	7	8	5	2	1	7
20～29	H24	423	30	44	349	157	57	57	19	16	28	16	47
	H25	367	38	39	290	114	51	51	22	14	15	16	42
	H26	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
30～39	H24	805	75	113	617	270	97	97	25	26	23	33	104
	H25	867	84	99	684	290	115	115	39	36	33	36	99
	H26	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
40～49	H24	751	79	166	506	163	81	81	53	14	29	17	131
	H25	785	78	162	545	164	96	96	52	23	23	23	136
	H26	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
50～59	H24	592	88	130	374	132	66	66	41	15	15	13	83
	H25	584	78	128	378	129	55	55	41	22	16	18	85
	H26	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
60～69	H24	1,055	128	210	717	239	114	114	113	55	43	17	122
	H25	1,050	118	223	709	229	104	104	106	60	18	40	141
	H26	1,037	139	167	731	257		125	87	49	46	25	
70～79	H24	1,166	95	205	866	304	166	166	98	45	56	23	151
	H25	1,271	105	234	932	318	191	191	121	41	13	60	169
	H26	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
80～89	H24	779	40	103	636	266	81	81	73	24	43	26	106
	H25	790	47	103	640	230	106	106	84	34	24	42	111
	H26	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
90以上	H24	114	2	9	103	51	13	13	12	4	5	3	15
	H25	128	5	10	113	53	14	14	12	3	6	8	14
	H26	177	12	12	153	61	27	27	20	6	12	6	20
総計	H24	6,039	556	990	4,493	1,776	745	745	449	214	247	151	777
	H25	6,062	565	1,001	4,496	1,647	771	771	488	245	153	250	803
	H26	6,540	600	933	5,007	1,898	719	848	537	272	273	180	869

4 病床稼働率

	定床	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計 平均	前年度 累計平均
3階	60床	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	44 73.3	44 73.3	47 78.3	54 90.0	51 84.5	45 75.0	46 76.7	48 79.9	49 81.7	44 74.0	50 83.0	53 88.0	48 79.9	44 73.3
4階(西)	60	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	44 73.3	43 71.7	46 76.7	53 88.8	46 76.3	46 76.3	45 75.0	45 74.4	47 79.1	48 79.9	53 88.6	52 86.7	47 78.9	46 76.7
4階(東)	51	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	35 68.6	45 88.2	45 88.2	48 94.1	44 87.2	46 90.2	41 80.4	42 82.4	45 88.7	45 88.5	48 94.7	48 94.6	44 87.2	44 86.3
5階(西)	44	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	40 90.9	41 93.2	39 88.6	42 95.7	38 87.3	40 91.3	37 84.1	38 87.2	40 90.1	39 89.7	42 96.0	42 96.6	40 90.9	40 90.9
5階(東)	49	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	43 87.8	43 87.8	42 85.7	46 93.5	42 85.0	43 87.8	41 83.7	42 85.6	43 87.4	44 90.4	46 93.2	45 91.5	43 88.2	41 83.7
6階(西)	44	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	39 88.6	36 81.8	39 88.6	43 97.7	41 93.2	40 90.9	40 90.9	39 88.6	41 93.2	41 93.2	43 97.7	42 95.5	40 91.7	39 91.9
6階(東)	27	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	21 77.8	23 85.2	21 77.8	24 88.1	25 92.6	24 87.3	21 77.8	24 88.6	24 89.4	22 83.0	25 91.3	24 89.2	23 85.5	21 77.8
小計	335	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	266 79.9	275 82.6	279 83.8	310 93.2	287 86.1	284 85.3	272 81.7	278 83.4	290 87.0	284 85.4	307 92.1	307 92.1	286 86.0	275 86.6
小児	8	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	3 37.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	2 25.0	4 50.0	4 50.0	3 37.5	3 37.5	3 37.5	3 30.2	2 29.6
未熟児	7	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 24.9	2 32.7	2 29.5	2 28.6	2 30.5	3 46.5	3 41.9	3 39.3	3 49.8	2 30.6	1 14.3
計	350	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	270 77.1	279 79.7	283 80.9	313 89.5	290 82.7	287 82.1	276 78.9	283 81.0	297 84.9	291 83.0	312 89.2	314 89.6	291 83.1	277 79.1

* H26.2.3から 6階(西) 42床→44床へ、小児 10床→8床へ 病床数変更

[医事サービス部]



5 救急患者数

	人 数														(内、入 院 数)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計		
循環器内科	72 (24)	47 (20)	32 (18)	51 (23)	43 (19)	38 (8)	36 (10)	35 (9)	36 (8)	48 (18)	38 (15)	35 (11)	511 (183)	31 (13)	23 (9)	20 (12)	27 (14)	23 (8)	29 (5)	21 (5)	21 (6)	18 (5)	26 (11)	22 (9)	18 (5)	279 (102)		
消化器内科	44 (15)	52 (22)	27 (9)	36 (11)	29 (12)	37 (15)	46 (12)	39 (13)	37 (9)	35 (12)	28 (9)	25 (8)	435 (147)	23 (9)	18 (7)	19 (8)	25 (8)	16 (8)	24 (12)	35 (6)	25 (7)	26 (9)	24 (9)	23 (9)	22 (8)	280 (100)		
総合内科	80 (16)	61 (26)	43 (20)	47 (18)	36 (10)	60 (21)	48 (18)	49 (11)	79 (24)	72 (20)	62 (22)	72 (22)	709 (228)	33 (13)	30 (17)	25 (12)	26 (15)	18 (5)	38 (14)	34 (13)	30 (8)	47 (18)	27 (11)	31 (13)	50 (13)	389 (152)		
血液・化学療法内科	22 (10)	19 (6)	13 (3)	15 (3)	18 (5)	14 (1)	16 (0)	16 (3)	22 (1)	35 (5)	19 (2)	13 (3)	222 (42)	14 (4)	5 (2)	8 (0)	11 (2)	11 (4)	10 (0)	12 (0)	10 (3)	13 (0)	19 (4)	12 (1)	11 (2)	136 (22)		
神経内科	23 (8)	10 (4)	12 (8)	9 (5)	10 (7)	10 (8)	9 (3)	15 (6)	20 (10)	13 (3)	5 (3)	11 (3)	147 (68)	11 (6)	4 (1)	9 (5)	6 (4)	7 (5)	7 (5)	8 (3)	9 (5)	8 (5)	7 (2)	4 (3)	10 (2)	90 (46)		
救急診療センター	145 (7)	128 (28)	58 (30)	62 (42)	82 (51)	81 (44)	87 (56)	109 (57)	217 (58)	327 (77)	85 (47)	108 (48)	1,489 (545)	6 (2)	15 (11)	20 (15)	19 (13)	20 (15)	27 (15)	21 (13)	35 (17)	28 (17)	49 (29)	16 (12)	24 (14)	280 (173)		
内科（計）	386 (80)	317 (106)	185 (88)	220 (102)	218 (104)	240 (97)	242 (99)	263 (99)	411 (110)	530 (135)	237 (98)	264 (95)	3,513 (1,213)	118 (47)	95 (47)	101 (52)	114 (56)	95 (45)	135 (51)	131 (40)	130 (46)	140 (54)	152 (66)	108 (47)	135 (44)	1,454 (595)		
神経科・精神科	8 (0)	6 (1)	7 (0)	7 (3)	4 (1)	7 (1)	19 (3)	19 (1)	24 (0)	15 (0)	15 (0)	16 (0)	147 (10)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (0)	6 (2)	5 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	5 (0)	31 (4)		
小児科	12 (0)	13 (0)	13 (1)	11 (0)	12 (0)	13 (0)	18 (0)	27 (1)	29 (0)	26 (0)	24 (0)	26 (0)	224 (2)	10 (0)	8 (0)	10 (0)	8 (0)	5 (0)	12 (0)	16 (0)	27 (1)	25 (0)	24 (0)	23 (0)	21 (0)	189 (1)		
消化器・一般外科	19 (4)	18 (1)	16 (2)	22 (9)	28 (4)	26 (3)	22 (7)	21 (3)	20 (6)	24 (5)	8 (2)	23 (5)	247 (51)	11 (4)	12 (1)	14 (2)	13 (6)	15 (4)	8 (2)	12 (4)	13 (2)	16 (4)	11 (4)	7 (2)	13 (2)	145 (37)		
乳腺外科	2 (0)	7 (4)	3 (0)	4 (0)	6 (1)	3 (1)	4 (0)	6 (0)	2 (1)	3 (0)	7 (0)	4 (0)	51 (7)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	3 (0)	2 (1)	3 (1)	1 (0)	3 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	19 (4)		
外科（計）	21 (4)	25 (5)	19 (2)	26 (9)	34 (5)	29 (4)	26 (7)	27 (3)	22 (7)	27 (5)	15 (2)	27 (5)	298 (58)	11 (4)	14 (2)	15 (2)	16 (6)	17 (5)	11 (3)	13 (4)	16 (2)	18 (5)	11 (4)	8 (2)	14 (2)	164 (41)		
整形外科	25 (6)	20 (5)	43 (17)	26 (12)	29 (15)	32 (14)	47 (19)	39 (18)	53 (19)	42 (17)	27 (12)	46 (15)	429 (169)	8 (2)	8 (4)	16 (8)	13 (9)	15 (9)	17 (10)	15 (9)	13 (5)	21 (11)	15 (6)	16 (7)	18 (7)	175 (87)		
皮膚科	31 (0)	21 (1)	23 (0)	20 (1)	18 (1)	21 (0)	13 (0)	15 (0)	6 (0)	21 (1)	16 (0)	19 (0)	224 (4)	16 (0)	13 (1)	12 (0)	11 (0)	16 (0)	16 (0)	13 (0)	11 (0)	3 (0)	13 (0)	11 (0)	15 (0)	150 (1)		
泌尿器科	13 (0)	31 (3)	41 (3)	32 (4)	35 (2)	44 (4)	36 (4)	24 (0)	57 (4)	56 (1)	36 (0)	58 (5)	463 (30)	3 (0)	2 (1)	7 (2)	7 (3)	1 (1)	12 (3)	8 (2)	1 (0)	8 (1)	9 (1)	8 (0)	7 (4)	73 (18)		
産婦人科	183 (2)	153 (2)	158 (2)	174 (3)	174 (2)	192 (4)	171 (1)	190 (1)	216 (0)	189 (7)	183 (2)	204 (2)	2,187 (28)	33 (1)	41 (2)	33 (2)	37 (2)	52 (1)	47 (3)	38 (0)	46 (1)	45 (0)	53 (6)	46 (2)	47 (2)	518 (22)		
眼 科	6 (0)	1 (0)	4 (1)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	6 (1)	34 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	17 (2)		
耳鼻咽喉科	15 (1)	13 (2)	10 (1)	16 (3)	20 (2)	19 (3)	19 (3)	27 (5)	17 (2)	23 (2)	26 (7)	29 (1)	234 (32)	9 (0)	3 (2)	7 (0)	12 (3)	13 (1)	13 (3)	9 (0)	11 (3)	10 (2)	9 (2)	12 (3)	20 (1)	128 (20)		
放射線科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
麻酔・緩和医療科	3 (0)	1 (0)	5 (1)	7 (1)	7 (0)	5 (0)	14 (0)	7 (0)	7 (0)	7 (0)	4 (0)	1 (0)	68 (2)	3 (0)	1 (0)	4 (1)	5 (1)	6 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	26 (2)		
合 計	703 (93)	601 (125)	508 (116)	541 (138)	552 (132)	604 (127)	609 (136)	640 (128)	844 (142)	947 (168)	585 (121)	696 (124)	7,830 (1,550)	212 (54)	187 (59)	207 (68)	226 (82)	221 (62)	267 (73)	256 (57)	263 (58)	278 (73)	289 (85)	235 (61)	284 (61)	2,925 (793)		

(注) 各欄下段の () の数値は救急車で搬送された患者数

[医事サービス部、救急当直委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10（2003年版）準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

	算定式	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院 患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	273	272	269	280	283	278	278	273	277	291
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	78.0	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4	79.4	78.0	79.1	83.1
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	15.3	14.7	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3	13.3	12.3	12.6	12.1
実退院患者数(人)		5,900	6,359	6,350	6,486	6,740	7,283	7,119	7,396	7,490	7,435	8,119
転科数		176	249	158	140	176	206	164	209	208	192	241
総退院患者数		6,076	6,608	6,508	6,626	6,916	7,489	7,283	7,605	7,698	7,627	8,360
実退院患者平均 在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	16.2	15.7	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6	13.4	13.2	13.5	13.2
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.5	2.9	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1	2.3	2.8	2.8
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.2	2.6	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9	2.1	2.4	2.5
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	5.5	11.4	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7	8.1	9.3	6.2
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.04	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	18.9	20.6	23.4	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6	14.2	16.6	15.7
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	-	0.2	-	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	32.4	34.9	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1	39.3	41.5	39.8
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	36.1	38.1	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9	45.2	47.3	40.6

② 診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数

診療科		平均在院 日数	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計	13.2	8,119	588	630	628	679	705	665	739	661	698	647	670	809	227	13
	男	12.8	3,527	275	282	264	287	324	288	326	280	267	247	315	372	115	9
	女	13.4	4,592	313	348	364	392	381	377	413	381	431	400	355	437	112	4
循環器内科	計	14.5	784	65	69	51	66	71	65	75	58	62	56	76	70	20	2
	男	12.5	486	42	50	28	34	46	44	45	37	33	34	46	47	7	1
	女	17.7	298	23	19	23	32	25	21	30	21	29	22	30	23	13	1
消化器内科	計	7.8	1,293	100	101	106	120	96	114	125	110	95	101	102	123	30	1
	男	7.3	785	62	59	65	72	61	69	71	61	55	64	70	76	17	1
	女	8.5	508	38	42	41	48	35	45	54	49	40	37	32	47	13	-
総合内科	計	19.8	788	73	53	60	65	62	60	64	60	68	62	69	92	57	3
	男	17.9	433	46	32	31	35	41	27	36	34	32	30	37	52	27	3
	女	22.1	355	27	21	29	30	21	33	28	26	36	32	32	40	30	-
血液・化学療法内科	計	35.5	290	17	21	24	24	31	23	31	19	31	19	27	23	46	6
	男	34.3	154	9	13	15	13	16	9	20	10	15	5	17	12	26	3
	女	36.8	136	8	8	9	11	15	14	11	9	16	14	10	11	20	3
神経内科	計	34.6	168	12	16	17	8	15	16	13	14	16	13	10	18	8	1
	男	34.9	84	9	7	11	1	7	7	6	8	7	7	5	9	3	1
	女	34.3	84	3	9	6	7	8	9	7	6	9	6	5	9	5	-
救急診療センター	計	10.9	187	8	8	10	12	18	10	16	24	22	30	14	15	8	-
	男	10.2	73	6	3	2	4	12	5	5	5	9	14	4	4	3	-
	女	11.3	114	2	5	8	8	6	5	11	19	13	16	10	11	5	-
神経科・精神科	計	52.0	116	6	10	7	9	11	5	15	9	15	7	9	13	-	-
	男	35.5	36	3	5	1	5	6	1	3	3	2	2	3	2	-	-
	女	59.4	80	3	5	6	4	5	4	12	6	13	5	6	11	-	-
小児科	計	5.5	327	18	19	20	21	17	23	25	34	42	35	31	42	-	-
	男	5.4	160	8	9	12	11	10	12	15	19	16	13	11	24	-	-
	女	5.5	167	10	10	8	10	7	11	10	15	26	22	20	18	-	-
消化器・一般外科	計	13.5	413	32	37	33	35	39	37	32	30	40	29	36	33	26	-
	男	12.1	242	19	21	21	17	29	19	17	19	22	13	19	26	14	-
	女	15.5	171	13	16	12	18	10	18	15	11	18	16	17	7	12	-
乳腺外科	計	11.3	163	11	14	14	17	11	12	18	14	12	13	6	21	6	-
	男	9.0	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	11.3	162	10	14	14	17	11	12	18	14	12	13	6	21	6	-
整形外科	計	31.3	324	20	23	24	26	28	25	32	25	29	27	30	35	1	-
	男	23.2	117	6	7	9	10	8	6	14	11	10	8	10	18	-	-
	女	35.9	207	14	16	15	16	20	19	18	14	19	19	20	17	1	-
皮膚科	計	13.3	257	26	27	18	22	23	29	17	17	14	17	21	26	-	-
	男	12.8	146	12	17	10	10	13	14	6	12	9	8	16	19	-	-
	女	13.8	111	14	10	8	12	10	15	11	5	5	9	5	7	-	-
泌尿器科	計	9.1	391	19	33	23	44	30	39	44	32	30	23	36	38	8	-
	男	8.9	324	19	30	19	36	26	34	35	26	19	18	29	33	8	-
	女	9.8	67	-	3	4	8	4	5	9	6	11	5	7	5	-	-
産婦人科	計	7.6	1,662	126	128	127	129	164	139	137	127	152	138	128	167	5	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	7.6	1,662	126	128	127	129	164	139	137	127	152	138	128	167	5	-
眼科	計	3.2	454	23	38	55	42	34	29	51	41	27	37	32	45	-	-
	男	2.9	209	12	13	24	19	18	18	27	14	15	11	19	19	-	-
	女	3.5	245	11	25	31	23	16	11	24	27	12	26	13	26	-	-
耳鼻咽喉科	計	11.5	457	26	30	38	34	49	36	39	45	37	35	40	48	11	-
	男	13.3	265	19	16	16	18	29	22	24	21	22	18	29	31	9	-
	女	9.1	192	7	14	22	16	20	14	15	24	15	17	11	17	2	-
麻酔・緩和医療科	計	6.4	45	6	3	1	5	6	3	5	2	6	5	3	-	1	-
	男	10.6	12	2	-	-	2	2	1	2	-	1	2	-	-	1	-
	女	4.8	33	4	3	1	3	4	2	3	2	5	3	3	-	-	-

③ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数

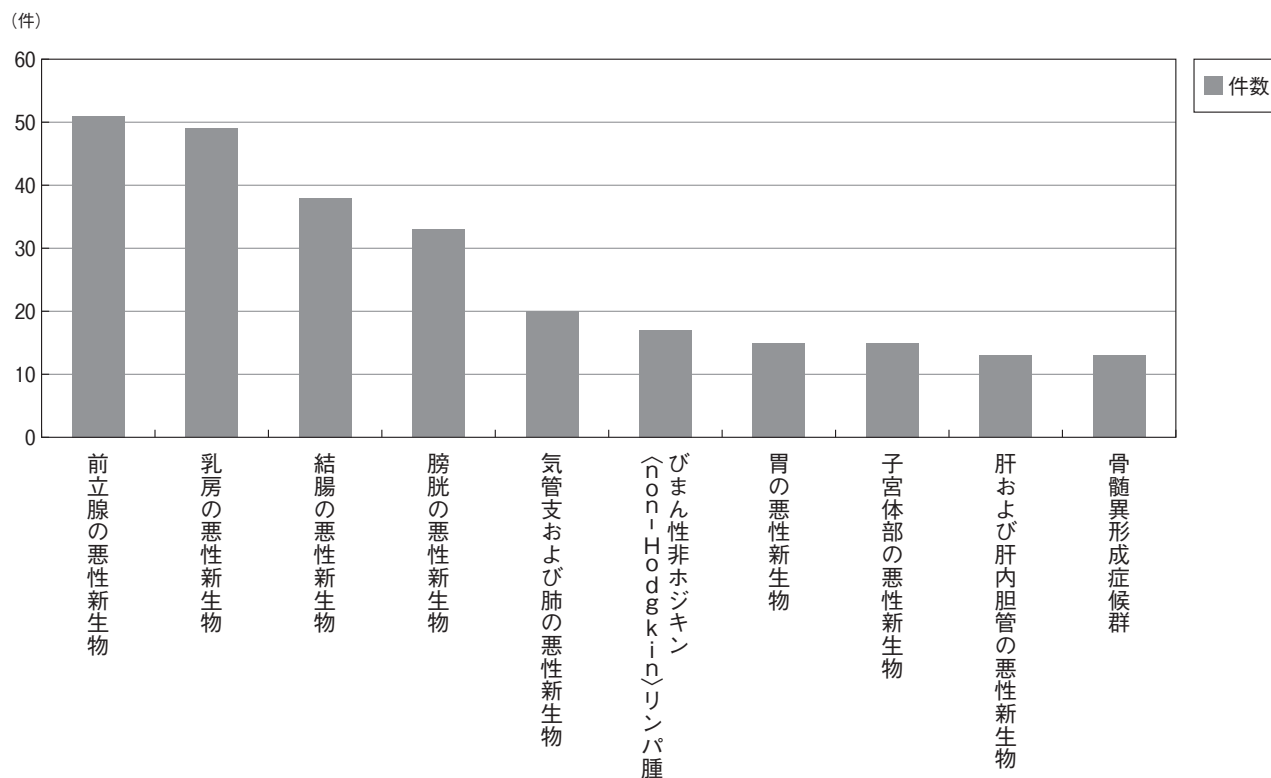
コード	国際分類大項目分類	総数	循環器内科	消化器内科	総合内科	血液・腫瘍内科	神経科・精神科	小児科	外科	乳腺外科	整形外科	神経内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	救急診療センター
	総数	計 8,119 男女 3,527 4,592	784 486 298	1,293 785 508	788 433 355	290 154 136	116 36 80	327 160 167	413 242 171	163 1 162	324 117 207	168 84 84	257 146 111	391 324 67	1,662 - 1,662	454 209 245	457 265 192	45 12 33	187 73 114
I	感染症及び寄生虫症	計 332 男女 168 164	9 3 6	65 37 28	57 33 24	4 3 1	- 26 -	50 5 24	7 5 2	- - -	1 - 1	6 2 4	91 49 42	2 1 1	8 - 8	- 5 -	10 5 5	- - -	22 4 18
II	新生物（悪性新生物）	計 1,933 男女 777 1,156	2 1 1	286 185 101	87 52 35	242 127 115	- - -	2 1 1	168 104 64	148 1 147	3 1 2	2 2 -	27 15 12	210 189 21	616 - 616	- - -	121 92 29	18 6 12	1 1 -
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計 65 男女 32 33	6 3 3	3 1 2	11 7 4	27 12 15	- 5 -	7 5 2	- - -	- - -	- - -	1 - 1	3 2 1	- - -	4 - 4	- - -	- - -	- - -	3 2 1
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	計 258 男女 148 110	16 12 4	7 5 2	209 121 88	5 3 2	- - -	6 4 2	2 1 -	- - -	- - -	3 2 1	- - -	- - -	1 - 1	- - -	6 - 6	- - -	3 - 3
V	精神及び行動の障害	計 162 男女 57 105	6 3 3	4 1 3	13 5 8	- - -	105 33 72	- - -	- - -	- - -	- - -	6 2 4	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	27 13 14
VI	神経系の疾患	計 141 男女 80 61	30 19 11	4 2 2	11 7 4	- - -	6 - 6	- - -	2 1 1	- - -	3 1 2	46 27 19	- - -	- - -	- - -	- - -	32 22 10	3 - 3	4 1 3
VII	眼及び付属器の疾患	計 453 男女 211 242	- - -	- - -	1 1 -	- - -	- - -	1 1 -	- - -	- - -	- - -	1 1 -	- - -	- - -	- - -	450 208 242	- - -	- - -	- - -
VIII	耳及び乳様突起の疾患	計 117 男女 48 69	3 - 3	3 2 1	2 1 1	- - -	- - -	2 - 2	- - -	- - -	- - -	5 1 4	- - -	- - -	1 - 1	- - -	93 42 51	- - -	8 2 6
IX	循環器系の疾患	計 668 男女 407 261	542 338 204	24 14 10	28 17 11	- - -	1 1 -	- - -	7 5 2	- - -	- - -	55 26 29	2 1 1	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	8 5 3
X	呼吸器系の疾患	計 624 男女 352 272	49 34 15	17 10 7	193 116 77	7 5 2	- - -	117 57 60	4 4 -	- - -	1 - 1	16 7 9	1 - 1	1 1 -	2 - 2	- - -	155 88 67	- - -	61 30 31
XI	消化器系の疾患	計 753 男女 437 316	15 7 8	476 288 188	41 18 23	2 1 1	1 1 -	1 1 -	181 104 77	- - -	1 - 1	2 1 1	1 3 -	3 - 5	5 - -	- - -	6 2 4	- - -	18 10 8
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	計 145 男女 86 59	- - -	2 1 1	10 2 8	1 1 -	- - -	3 1 2	- - -	- - -	3 3 -	- - -	117 75 42	- - -	1 - 1	- - -	6 3 3	- - -	2 - 2
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	計 194 男女 73 121	6 3 3	5 2 3	41 15 26	- - -	3 1 2	3 1 2	- - -	- - -	120 45 75	3 3 6	8 2 -	- - -	- - -	- - -	- - -	2 - 2	3 1 2
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	計 577 男女 125 452	15 10 5	10 4 6	35 11 24	1 1 -	- - -	7 2 5	3 1 2	2 - 2	- - -	8 6 2	- - -	132 90 42	350 - 350	- - -	- - -	- - -	14 - 14
XV	妊娠、分娩及び産じょく	計 653 男女 - 653	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	652 - 652	- - -	- - -	- - -	- - -
XVI	周産期に発生した病態	計 117 男女 57 60	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	117 57 60	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	計 16 男女 3 13	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	4 - 4	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	10 3 7	- - -	- - -
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計 183 男女 67 116	21 9 12	33 16 17	35 17 18	1 1 -	- - -	6 3 3	10 2 8	13 - 13	1 - 1	11 2 9	1 - 1	7 4 3	3 - 3	- - -	12 5 7	22 6 16	7 2 5
XX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	計 234 男女 84 150	12 9 3	4 2 2	3 1 2	- - -	- - -	1 1 -	8 3 5	- - -	173 59 114	3 2 1	6 1 5	2 2 -	10 - 10	4 1 3	2 1 1	- - -	6 2 4
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計 494 男女 315 179	52 35 17	349 215 134	10 9 1	- - -	- - -	- - -	21 12 9	- - -	18 8 10	- - -	- - -	34 34 -	8 - 8	- - -	2 - -	- - -	- - -
XXII	特殊目的用コード	計 - 男女 - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -

④ 悪性新生物統計

	算定式	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)
悪性新生物： 比率（％）	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	17.2	15.7	15.3	14.0	15.3	14.7	16.1	14.8	14.7	16.0	14.5
悪性新生物： 新発患者数		413	432	445	454	503	548	553	465	445	423	403

○ 初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	51	3
乳房の悪性新生物	49	16
結腸の悪性新生物	38	12
膀胱の悪性新生物	33	12
気管支および肺の悪性新生物	20	37
びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫	17	56
胃の悪性新生物	15	27
子宮体部の悪性新生物	15	11
肝および肝内胆管の悪性新生物	13	26
骨髄異形成症候群	13	41



⑤ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼 科 患者数	退 院 患者数	粗死亡率 (%)	精死亡率 (%)	剖検率 (%)
総数	死亡 剖検	227 (13)	14 (2)	18 (2)	17 (-)	26 (2)	21 (2)	12 (1)	23 (1)	13 (1)	22 (1)	23 (-)	25 (1)	13 (-)	23 (2)	8,119 -	2.8 2.5	5.7
循環器内科	死亡 剖検	20 (2)	- (-)	1 (1)	2 (-)	1 (-)	4 (1)	- (-)	3 (-)	- (-)	3 (-)	- (-)	5 (-)	1 (-)	4 (1)	784 -	2.6 2.0	10.0
消化器内科	死亡 剖検	30 (1)	- (-)	1 (-)	2 (-)	5 (-)	4 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (1)	5 (-)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	1,293 -	2.3 2.0	3.3
総合内科	死亡 剖検	57 (3)	5 (2)	5 (-)	3 (-)	9 (-)	3 (-)	2 (-)	6 (1)	5 (-)	2 (-)	7 (-)	5 (-)	5 (-)	5 (1)	788 -	7.2 6.6	5.3
血液・ 化学療法内科	死亡 剖検	46 (6)	2 (-)	4 (1)	4 (-)	6 (2)	7 (1)	2 (1)	3 (-)	1 (-)	2 (1)	5 (-)	6 (-)	4 (-)	4 (-)	290 -	15.9 15.9	13.0
神経内科	死亡 剖検	8 (1)	- (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (1)	- (-)	1 (-)	168 -	4.8 4.2	12.5
救急診療 センター	死亡 剖検	8 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	187 -	4.3 3.2	-
神経科・ 精神科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	116 -	- -	-
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	327 -	- -	-
外科	死亡 剖検	26 (-)	2 (-)	5 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	3 (-)	3 (-)	- (-)	1 (-)	413 -	6.3 5.3	-
乳腺外科	死亡 剖検	6 (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	163 -	3.7 3.7	-
整形外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	324 -	0.3 0.3	-
皮膚科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	257 -	- -	-
泌尿器科	死亡 剖検	8 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	3 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	391 -	2.0 1.8	-
産婦人科	死亡 剖検	5 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1,662 -	0.3 0.2	-
眼科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	454 -	- -	-
耳鼻咽喉科	死亡 剖検	11 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	457 -	2.4 2.2	-
麻酔科・ 緩和医療科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	45 -	2.2 2.2	-

(注) 1. 粗死亡率 $\frac{\text{死亡患者数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

2. 精死亡率 $\frac{\text{入院48時間以後死亡数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

7 手術件数

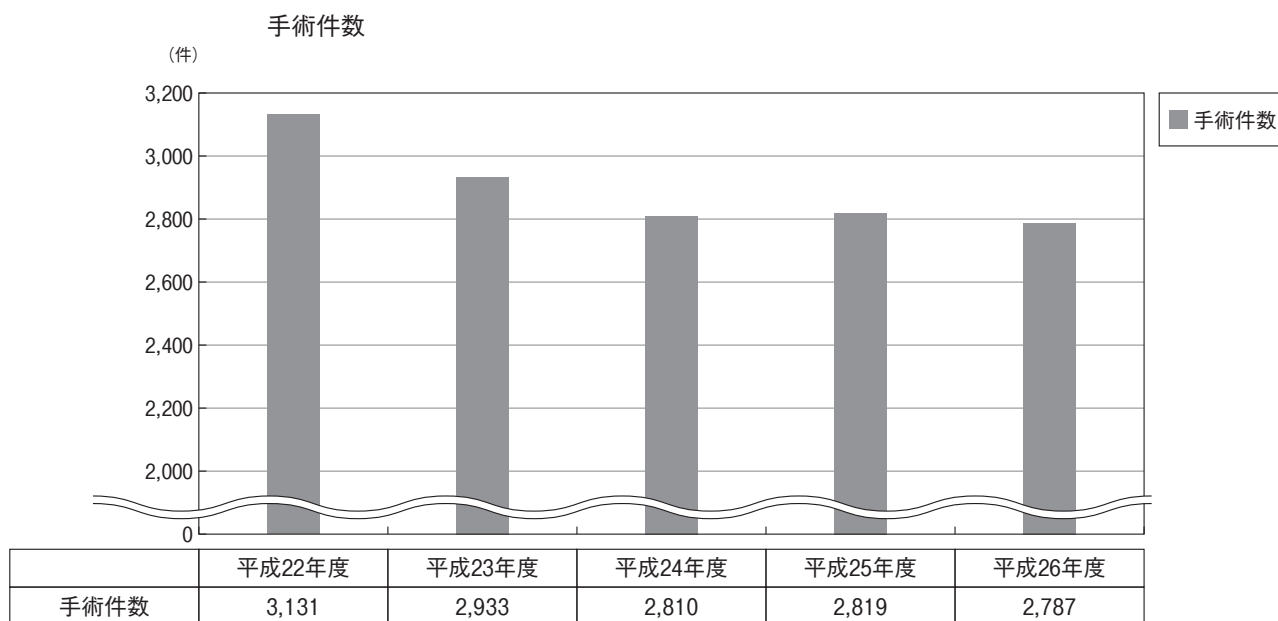
① 診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
消化器・ 一般外科	19 (10)	20 (11)	19 (14)	20 (12)	24 (19)	14 (8)	12 (8)	14 (11)	21 (13)	16 (11)	17 (10)	23 (18)	219 (145)
整形外科	18 (8)	13 (6)	23 (6)	26 (6)	22 (5)	21 (4)	31 (9)	10 (3)	33 (9)	24 (4)	31 (6)	27 (7)	279 (73)
産婦人科	79 (59)	73 (55)	73 (54)	85 (64)	78 (55)	67 (48)	84 (69)	76 (60)	96 (73)	83 (61)	82 (62)	88 (69)	964 (729)
泌尿器科	19 (7)	26 (7)	16 (4)	29 (9)	25 (9)	26 (6)	34 (11)	21 (7)	17 (7)	16 (2)	27 (6)	27 (8)	283 (83)
耳鼻科	20 (11)	17 (12)	23 (13)	20 (16)	26 (22)	26 (14)	26 (16)	25 (19)	25 (13)	25 (15)	25 (14)	33 (24)	291 (189)
眼科	34 (0)	41 (0)	57 (0)	52 (0)	29 (0)	29 (1)	62 (1)	38 (0)	30 (2)	39 (0)	35 (0)	45 (0)	491 (4)
皮膚科	13 (0)	11 (0)	16 (0)	18 (1)	13 (0)	12 (0)	15 (0)	18 (0)	10 (0)	17 (0)	16 (0)	10 (0)	169 (1)
麻酔科	4 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (0)
乳腺外科	6 (4)	5 (4)	8 (6)	6 (3)	5 (5)	9 (7)	6 (3)	4 (3)	5 (5)	6 (3)	5 (4)	11 (5)	76 (52)
合 計	212 (99)	207 (95)	236 (97)	257 (111)	224 (115)	206 (88)	270 (117)	207 (103)	240 (122)	226 (96)	238 (102)	264 (131)	2,787 (1,276)

1. 中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[手術室]

2. () 内は全身麻酔。



② 診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）

循環器内科

総件数	185
経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	98
経皮的冠動脈形成術(その他)	25
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	14
四肢の血管拡張術・血栓除去術	14
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	8
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	8
体外ペースメーカー移植術	7

消化器内科

総件数	281
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	117
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(選択的動脈化学塞栓術)	41
内視鏡的消化管止血術	26
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	17
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	9
内視鏡的胆道ステント留置術	9

血液・化学療法内科

総件数	7
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取)	4
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)	3

消化器・一般外科

総件数	308
鼠径ヘルニア手術	43
腹腔鏡下胆嚢摘出術	35
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	29
中心静脈注射用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	14
結腸切除術(全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)	10

乳腺外科

総件数	129
乳がんセンチネルリンパ節加算1	38
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない))	29
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	15
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術	15
乳腺腫瘍摘出術(長径5cm未満)	11
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	3
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術))	3
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴う))	3

整形外科

総件数	252
人工関節置換術(膝)	58
骨折観血の手術(大腿)	36
人工関節置換術(股)	21
人工骨頭挿入術(股)	18
骨折観血の手術(前腕)	15

皮膚科

総件数	52
皮膚、皮下腫瘍摘出術(6cm未満)	29
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	7
皮膚、皮下腫瘍摘出術(長径6cm以上)	5
皮膚切開術(長径10cm未満)	4
皮膚皮下粘膜下血管腫摘出術(露出部、長径3cm未満)	2

泌尿器科

総件数	248
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用)	33
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	25
経尿道的尿管ステント留置術	22
経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用)	12

産婦人科

総件数	1,284
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡)	289
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	210
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	183
子宮頸部(腔部)切除術	69
子宮鏡下子宮筋腫摘出術	55

眼科

総件数	477
水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他)	412
角膜移植術	13
硝子体切除術	10
角膜潰瘍掻爬術	9
水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)	6

耳鼻咽喉科

総件数	384
口蓋扁桃手術(摘出)	111
リンパ節摘出術(長径3cm以上)	24
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	22
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副鼻腔手術)	21
声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡)	17

麻酔科

総件数	44
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	44

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	13,579	45,598	59,177	11,828	49,472	61,300	12,177	35,441	47,618	12,049	46,359	58,408	11,886	45,997	57,883	11,097	52,161	63,258	12,826	51,032	63,858
消化器内科	11,949	34,319	46,268	11,463	30,590	42,053	12,487	34,446	46,933	12,178	44,259	56,437	11,877	31,574	43,451	11,490	34,833	46,323	13,458	42,644	56,102
総合内科	33,736	48,679	82,415	31,376	43,652	75,028	32,762	44,496	77,258	34,673	45,399	80,072	32,494	40,008	72,502	32,771	40,589	73,360	37,634	40,569	78,203
血液・ 化学療法内科	23,477	43,071	66,548	17,533	48,144	65,677	22,251	44,561	66,812	27,221	44,768	71,989	26,929	38,122	65,051	24,091	48,005	72,096	26,590	42,960	69,550
神経内科	4,099	17,031	21,130	3,200	15,645	18,845	2,962	16,332	19,294	3,600	17,578	21,178	2,687	17,730	20,417	3,271	16,680	19,951	3,685	12,772	16,457
救急診療 センター	3,015	2,047	5,062	2,591	4,648	7,239	2,602	7,065	9,667	3,412	9,424	12,836	3,501	6,718	10,219	2,826	5,577	8,403	3,864	7,978	11,842
内科(計)	89,855	190,745	280,600	77,991	192,151	270,142	85,241	182,341	267,582	93,133	207,787	300,920	89,374	180,149	269,523	85,546	197,845	283,391	98,057	197,955	296,012
神経科・ 精神科	6,957	10,189	17,146	6,452	11,354	17,806	6,087	11,174	17,261	6,670	10,631	17,301	5,647	10,510	16,157	6,484	11,061	17,545	6,534	11,829	18,363
小児科	7,179	4,706	11,885	6,019	5,665	11,684	5,472	4,401	9,873	6,761	4,221	10,982	4,745	3,391	8,136	5,176	4,298	9,474	6,403	5,589	11,992
消化器・ 一般外科	9,962	22,672	32,634	9,737	29,292	39,029	10,211	32,433	42,644	10,174	28,368	38,542	10,817	29,171	39,988	10,854	19,288	30,142	10,243	19,520	29,763
乳腺外科	13,186	5,301	18,487	10,826	9,773	20,599	9,675	9,925	19,600	11,620	7,988	19,608	10,787	8,888	19,675	12,611	10,662	23,273	13,072	6,787	19,859
外科(計)	23,148	27,973	51,121	20,563	39,065	59,628	19,886	42,358	62,244	21,794	36,356	58,150	21,604	38,059	59,663	23,465	29,950	53,415	23,315	26,307	49,622
整形外科	5,460	32,571	38,031	5,374	28,058	33,432	5,185	36,929	42,114	5,779	53,297	59,076	4,885	37,495	42,380	5,125	33,821	38,946	6,055	42,472	48,527
皮膚科	23,390	12,814	36,204	22,824	9,672	32,496	19,071	9,172	28,243	25,481	9,620	35,101	23,169	9,846	33,015	21,184	13,463	34,647	23,999	8,134	32,133
泌尿器科	13,165	12,656	25,821	12,500	14,173	26,673	12,794	13,800	26,594	13,571	22,444	36,015	11,836	19,549	31,385	14,735	19,608	34,343	14,500	22,410	36,910
産婦人科	21,533	78,283	99,816	19,600	79,510	99,110	20,879	78,002	98,881	23,372	83,121	106,493	21,588	84,273	105,861	21,435	80,381	101,816	22,779	90,773	113,552
眼 科	7,069	7,385	14,454	6,159	10,288	16,447	7,634	14,753	22,387	7,617	16,031	23,648	6,612	8,381	14,993	7,464	9,227	16,691	9,074	17,933	27,007
耳鼻咽喉科	8,601	16,469	25,070	8,273	17,519	25,792	8,225	17,877	26,102	7,226	19,936	27,162	7,223	32,898	40,121	7,227	18,948	26,175	8,463	21,267	29,730
放射線科	6,622	1,491	8,113	4,099	0	4,099	4,857	0	4,857	6,192	989	7,181	5,559	1,739	7,298	4,058	852	4,910	5,918	983	6,901
麻酔・ 緩和医療科	415	2,320	2,735	506	1,050	1,556	517	1,569	2,086	456	2,661	3,117	423	3,532	3,955	466	1,780	2,246	463	2,833	3,296
その他	46	0	46	29	0	29	40	0	40	43	0	43	39	0	39	10	0	10	26	0	26
計	213,439	397,605	611,044	190,389	408,506	598,895	195,886	412,375	608,261	218,094	467,094	685,188	202,704	429,824	632,528	202,375	421,233	623,608	225,585	448,483	674,068
百分率	35%	65%	100%	32%	68%	100%	32%	68%	100%	32%	68%	100%	32%	68%	100%	32%	68%	100%	33%	67%	100%

(注) H26.4 救急診療科から救急診療センターへ改組

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累 計	対前年 差 額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
11,590	43,412	55,002	13,203	47,777	60,980	13,662	48,185	61,847	14,018	57,113	71,131	14,048	51,507	65,555	151,965	574,053	726,018	710,335	15,683
10,413	38,456	48,869	12,231	35,307	47,538	11,756	37,566	49,322	12,871	35,354	48,225	11,029	36,729	47,758	143,202	436,076	579,278	483,587	95,691
32,145	41,737	73,882	37,904	51,690	89,594	35,229	49,323	84,552	34,545	49,947	84,492	37,807	60,029	97,836	413,075	556,118	969,193	956,397	12,796
21,500	39,069	60,569	25,489	46,227	71,716	26,854	41,557	68,411	28,006	33,731	61,737	29,495	41,429	70,924	299,436	511,645	811,081	794,308	16,773
3,426	12,259	15,685	3,234	14,137	17,371	3,135	19,312	22,447	2,918	14,005	16,923	4,033	18,437	22,470	40,250	191,919	232,169	209,887	22,282
4,040	9,366	13,406	4,105	13,113	17,218	4,992	13,667	18,659	3,486	6,385	9,871	4,539	9,535	14,074	42,972	95,523	138,495	73,544	64,951
83,114	184,299	267,413	96,166	208,251	304,417	95,628	209,610	305,238	95,844	196,535	292,379	100,951	217,666	318,617	1,090,900	2,365,334	3,456,234	3,228,058	228,176
6,035	12,981	19,016	7,189	11,674	18,863	6,617	9,692	16,309	6,465	11,230	17,695	6,615	9,435	16,050	77,752	131,760	209,512	242,847	▲ 33,335
5,144	7,862	13,006	5,276	9,469	14,745	6,596	8,188	14,784	6,202	6,191	12,393	6,854	8,060	14,914	71,827	72,039	143,866	120,340	23,526
7,010	23,151	30,161	8,815	22,626	31,441	9,826	20,558	30,384	8,644	18,996	27,640	10,443	25,208	35,651	116,735	291,283	408,018	472,576	▲ 64,558
10,706	7,642	18,348	12,211	7,137	19,348	12,381	7,089	19,470	12,023	6,525	18,548	12,744	8,511	21,255	141,840	96,228	238,068	255,154	▲ 17,086
17,716	30,793	48,509	21,026	29,763	50,789	22,207	27,647	49,854	20,667	25,521	46,188	23,187	33,719	56,906	258,575	387,511	646,086	727,730	▲ 81,644
4,914	29,149	34,063	5,605	47,635	53,240	5,636	43,816	49,452	5,226	46,533	51,759	6,028	51,560	57,588	65,271	483,335	548,606	486,799	61,807
23,832	8,456	32,288	20,896	7,036	27,932	21,335	9,116	30,451	19,184	9,496	28,680	21,057	7,844	28,901	265,423	114,668	380,091	390,232	▲ 10,141
11,242	18,135	29,377	12,671	17,316	29,987	11,440	11,816	23,256	14,125	17,161	31,286	14,220	20,985	35,205	156,799	210,052	366,851	361,251	5,600
21,670	88,480	110,150	22,715	94,850	117,565	22,385	85,644	108,029	22,353	86,029	108,382	25,345	95,939	121,284	265,654	1,025,285	1,290,939	1,202,058	88,881
7,111	12,524	19,635	7,862	11,069	18,931	6,558	13,472	20,030	6,839	11,667	18,506	9,170	17,825	26,995	89,169	150,556	239,725	267,464	▲ 27,739
7,703	26,374	34,077	7,588	22,250	29,838	6,839	21,877	28,716	7,181	18,950	26,131	7,878	33,042	40,920	92,426	267,408	359,834	306,407	53,427
4,692	845	5,537	4,895	883	5,778	5,357	864	6,221	3,857	2,672	6,529	4,779	4,070	8,849	60,883	15,389	76,272	92,803	▲ 16,531
300	1,859	2,159	392	3,241	3,633	314	2,693	3,007	255	1,968	2,223	217	1,187	1,404	4,723	26,694	31,417	36,487	▲ 5,070
36	0	36	48	0	48	41	0	41	29	0	29	24	0	24	410	0	410	386	24
193,507	421,756	615,263	212,329	463,437	675,766	210,954	444,436	655,390	208,225	433,953	642,178	226,324	501,332	727,656	2,499,811	5,250,034	7,749,845	7,462,865	286,980
31%	69%	100%	31%	69%	100%	32%	68%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%	32%	68%	100%		

[医事サービス部]

2 医療行為別医療収入(外来)

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	4,751	5,372	5,658	6,192	5,289	5,274	5,724	4,756	5,343	5,908	5,108	5,769	65,144	52,974	12,170
再診料	10,925	9,978	10,143	10,871	9,830	10,135	11,028	9,463	10,671	10,032	9,689	10,936	123,700	121,031	2,669
指導料	18,898	18,757	17,927	19,778	18,409	18,605	20,074	19,710	19,354	18,224	19,586	19,759	229,081	215,774	13,307
投薬料	2,607	2,135	1,802	2,922	3,917	3,273	3,467	3,076	4,492	4,209	3,732	4,427	40,059	37,169	2,890
注射料	50,404	42,454	46,059	51,404	50,955	47,150	51,790	42,050	48,102	50,402	48,195	52,350	581,315	543,539	37,776
処置料	3,555	3,463	3,419	3,709	3,282	3,633	4,038	3,448	3,501	3,054	3,704	3,513	42,318	41,192	1,126
手術料	3,906	4,069	3,448	4,243	3,532	5,679	5,508	3,738	4,791	4,670	4,685	5,837	54,105	50,169	3,936
検査料	69,085	60,659	65,858	70,998	66,064	66,283	74,806	64,691	69,569	69,609	69,002	75,607	822,231	781,408	40,823
画像検査料	25,117	23,529	22,065	25,089	21,252	23,135	26,957	23,278	25,236	24,485	25,604	26,429	292,176	308,207	▲ 16,031
リハビリ その他	15,956	12,593	13,140	14,784	13,596	12,595	14,276	11,916	13,854	13,444	11,655	13,633	161,442	176,661	▲ 15,219
自費	8,235	7,380	6,368	8,105	6,578	6,612	7,918	7,381	7,416	6,918	7,266	8,065	88,241	101,885	▲ 13,644
計	213,439	190,389	195,886	218,094	202,704	202,375	225,585	193,507	212,329	210,954	208,225	226,324	2,499,811	2,430,010	69,801

[医事サービス部]

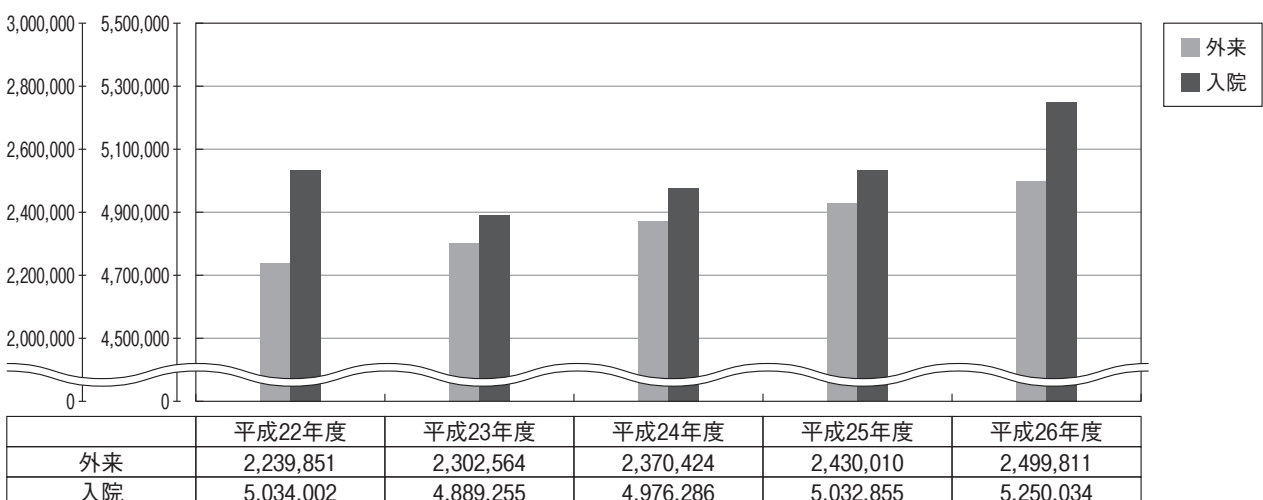
2 医療行為別医療収入(入院)

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差 額
診察料	249	305	297	272	310	311	234	309	251	433	269	334	3,574	2,871	703
指導料	4,592	3,548	4,009	4,340	4,160	3,857	4,083	3,836	4,855	4,286	4,252	5,156	50,974	54,686	▲ 3,712
投薬料	6,294	4,415	6,542	4,327	4,940	5,418	5,614	5,565	4,667	4,305	4,504	6,685	63,274	63,990	▲ 716
注射料	6,290	7,068	3,284	5,337	7,523	5,275	5,646	3,940	6,737	8,949	5,648	6,232	71,929	96,559	▲ 24,630
処置料	1,212	1,349	1,378	1,754	1,457	1,473	1,734	1,426	824	2,695	1,874	982	18,158	18,466	▲ 308
手術料	81,999	79,356	82,488	93,541	88,734	79,221	100,213	84,808	103,078	88,877	97,611	112,840	1,092,765	1,128,992	▲ 36,227
検査料	7,758	7,340	7,405	7,717	7,884	7,591	8,187	6,817	6,383	8,018	7,624	9,020	91,744	89,380	2,364
画像診断料	1,332	1,150	1,026	1,405	1,255	987	1,040	817	674	1,049	1,126	1,113	12,974	17,208	▲ 4,234
リハビリ その他	8,084	7,932	7,459	8,932	8,603	7,690	9,153	7,478	8,353	8,074	9,784	12,764	104,305	86,990	17,315
入院料	58,975	64,755	67,026	76,525	69,722	66,310	72,078	59,721	55,821	65,153	63,916	76,389	796,392	628,437	167,955
DPC入院料	181,157	191,758	190,795	213,775	191,382	199,167	197,963	202,046	228,405	209,974	194,578	222,142	2,423,141	2,331,058	92,083
食事療養費	12,916	13,368	13,403	15,014	14,056	13,771	13,243	13,341	14,492	13,620	13,635	15,019	165,878	160,085	5,793
自費	26,747	26,162	27,262	34,157	29,798	30,161	29,294	31,654	28,897	29,003	29,134	32,656	354,926	354,132	794
計	397,605	408,506	412,375	467,094	429,824	421,233	448,483	421,756	463,437	444,436	433,953	501,332	5,250,034	5,032,855	217,179

[医事サービス部]

外来(千円) 入院(千円)



3. その他統計

1 病院従業員数（平成26年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート
			男	女				
医 師	26年度	60名	45名	15名	11名	11名	4名	41名
	25年度	64	51	13	9	11	3	39
薬 剤 師	26年度	12	6	6				3
	25年度	12	6	6				3
放射線技師	26年度	12	9	3				
	25年度	12	9	3				
臨床検査技師	26年度	21	9	12				3
	25年度	22	9	13				3
理学療法士	26年度	8	6	2				
	25年度	6	5	1				1
作業療法士	26年度	1		1				
	25年度	1		1				
管理栄養士	26年度	1		1				2
	25年度	1		1				2
ケースワーカー	26年度	3		3				1
	25年度	3		3				1
視能訓練士・眼鏡士	26年度	2		2				6
	25年度	2		2				3
臨床心理士	26年度	0						1
	25年度	0						1
臨床工学技士	26年度	3	1	2				
	25年度	3	1	2				
看護師	26年度	277	5	272				15
	25年度	273	6	267			1	15
准看護師	26年度	0						9
	25年度	0						9
看護助手	26年度	0						15
	25年度	0						17
事務員	26年度	39	23	16				11
	25年度	36	21	15				12
一般技能労務職	26年度	2	1	1			1	4
	25年度	4	2	2			1	4
小 計	26年度	441	105	336	11	11	5	111
	25年度	439	110	329	9	11	5	110
ニッセイ予防医学センター	医 師	26年度	6	4	2		1	
		25年度	6	4	2			
	放射線技師	26年度	5	2	3			9
		25年度	5	2	3			8
	臨床検査技師	26年度	3		3			11
		25年度	2		2			9
	臨床心理士	26年度	0					1
		25年度	0					1
	看 護 師	26年度	6		6			4
		25年度	6		6			6
	事 務 員	26年度	9	5	4			16
		25年度	7	5	2			7
	一般技能労務職	26年度	1	1				
		25年度	1	1				
小 計	26年度	30	12	18	0	0	1	41
	25年度	27	12	15	0	0	0	31
訪問看護	看護師	26年度	5		5			8
		25年度	4		4			6
小 計	26年度	5		5				8
	25年度	4		4				6
総 計	26年度	477	118	359	11	11	6	160
	25年度	471	123	348	9	11	5	147

[総務人事G]

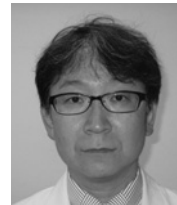
2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

消化器内科 1 件、総合内科 2 件、泌尿器科 1 件

[医事サービス部]

循環器内科

スタッフ 部長：岡部太一
 部長代行：中川 厚
 医 長：徳岡孝仁
 専攻医：田中 克、吉川秀人、田中庸弘（～9月）



1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症等の診断・治療を行っている。

虚血性心疾患に対しては平成24年7月より冠動脈320列CTが導入され、被曝量の軽減や心房細動などの不整脈症例においても検査可能となり、冠動脈疾患の検出に役立っている。平成26年度も昨年同様、冠動脈造影検査500件前後、経皮的冠動脈形成術（PCI）も150件前後の治療を行い、良好な成績を上げている。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても可能な限り積極的に対応、本年度は問い合わせや御紹介頂いたケース全例に対応、過去最大の27件の緊急PCI治療を行った。

また閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術（PTA）や、下肢静脈インターベンション、下大静脈フィルター挿入、ペースメーカー植込み術も例年通り行っている。

カテーテルによる不整脈治療（カテーテル心筋症焼灼術）については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学 循環器内科の協力のもと当院にてアブレーション治療を行っている。

心不全や弁膜症に対しても平成24年12月より経食道心臓超音波検査を導入、これまでも感染性心内膜炎の診断や各種弁膜症の手術適応決定及び心原性脳塞栓症の原因となる左房内血栓の有無の評価に威力を発揮している。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、常勤の循環器専門医2名の指導のもと循環器一般診療・内科一般疾患に対しても幅広く診療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

- ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜日全日、水曜・木曜 午前、尚、緊急時には適時対応）
- ・薬剤負荷心筋シンチ（金曜 午前）
- ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜・水曜・木曜 午後）

- ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
- ・経食道心臓超音波検査（適時、原則1泊入院で）
- ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）
- 3) 検査実績
 - 心臓カテーテル検査件数：497件
 - PCI（冠動脈インターベンション治療）：145件（内、緊急27件）
 - PTA（経皮的動脈形成術）：16件
 - IVR（その他のカテーテル治療）：9件
 - ペースメーカー治療：9件
 - ABL（カテーテル電気焼灼術）/EPS：1件
 - 冠動脈CT：327件
 - 心臓超音波検査：2,331件
 - 頸動脈超音波検査：915件
 - 下肢動脈超音波検査：78件
 - 下肢静脈超音波検査：256件
 - 腎動脈超音波検査：31件
 - トレッドミル負荷心電図：136件
 - アデノシン負荷心筋シンチ：61件
 - 安静心筋シンチ：31件
 - ホルター心電図検査：207件
 - ABI/PWV検査：829件

4. 認定医・専門医など

- | | |
|---------------------------|----|
| 日本内科学会認定内科医 | 4名 |
| 日本内科学会総合内科専門医 | 1名 |
| 循環器専門医 | 2名 |
| 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医 | 1名 |

5. 業績

論文・著書

1. Nii T, Yoshikawa H, Okabe T, Tachibana I: Septic pulmonary and systemic embolism in tricuspid endocarditis. BMJ Case Rep, doi:10.1136/bcr-2014-206569, 2014.
2. 吉川秀人, 岡部太一, 横井一範, 田中 克, 徳岡孝仁, 中川 厚, 濱田偉人, 安宅啓二: 卵円孔を通じて多彩な合併症を呈した三尖弁感染性心内膜炎の1例. 日医誌, 42:16-20, 2014.
3. 清水 綾, 田中 克, 吉川秀人, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太

一：非典型的にたこつば心筋症が疑われた急性心不全の1例. 日生医誌, 42:28-34, 2014.

学会発表

1. 田中庸弘, 吉川秀人, 田中 克, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太一:若年性の腎血管性高血圧に腎動脈形成術 (PTR) を実施した1例. 第118回日本循環器学会, 11月, 2014, 大阪.

研究会発表

1. 中川 厚:起始異常を伴ったACSの1例. X-pert Forum ~ Yodogawa PCI Conference, 5月, 2014, 大阪.
2. 中川 厚:PCI施行後の抗血小板剤使用の実態調査. JMN循環器懇話会, 5月, 2014, 大阪.
3. 吉川秀人:PCI中の冠動脈穿孔に対しグラフトマスターにて Bail outできた1例. JMN循環器懇話会, 5月, 2014, 大阪.
4. 中川 厚:冠動脈穿孔に対してグラフトマスター留置し OCTにてフォローした1例. K-VIC Case Conference in Spring, 6月, 2014, 神戸.
5. 岡部太一:非侵襲検査で冠動脈 (心臓) を診る ~ Area-Detector CT心臓検査 (320列CT) の有用性. あわぎフォーラム, 7月, 2014, 大阪.
6. 小林 悠:診断に苦慮した高齢肺高血圧症の1例. 西大阪心臓会議 (OWHC), 7月, 2014, 大阪.
7. 中川 厚:心房細動合併したPCI症例の抗血栓療法. Network Meeting ~ 抗凝固療法の適性使用のために ~, 8月, 2014, 大阪.
8. 小林 悠:診断に苦慮した高齢肺高血圧症の1例. 第44回北摂循環器セミナー, 11月, 2014, 大阪.
9. 徳岡孝仁:JSH2014に基づいた降圧療法の実践. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
10. 吉川秀人:若年性の腎血管性高血圧にPTRを実施した1例. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
11. 中川 厚:MRSAの治療戦略の最近の話題. 大阪救急医療研究会, 11月, 2014, 大阪.
12. 魚田晃史:肩上がりのRCAに対するPCI中に入口部解離を生じたが, クルセードを用いてBail outに成功した1例. JMN循環器懇話会, 12月, 2014, 大阪.
13. 中川 厚:PCI施行後の抗血小板剤使用の実態調査 ~ 血小板凝集能評価について. JMN循環器懇話会, 12月, 2014, 大阪.
14. 岡部太一:深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症診断と治療 ~ 経口FXa阻害薬を新たな武器に ~. JMN循環器懇話会, 12月, 2014, 大阪.
15. 中川 厚:脂質異常治療のNext Stage ロトリガ粒状カプセルについて. 循環器Imaging Conference in Osaka, 1月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(治験)

1. 日本新薬株式会社の依頼による間歇性跛行を伴う閉塞性動脈硬化症患者を対象としたNS-304の用量探索試験
2. バイエル薬品の依頼による冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者において心不全の増悪による入院後に認められる全死亡, 心筋梗塞及び脳卒中発症の抑制に関して, プラセボを対照としたリバーロキサパンの有効性及び安全性を検討することを目的とした無作為化, 二重盲検, イベント主導型, 多施設共同試験

(臨床研究)

1. 日本の実地臨床におけるリブリュート・インテグリティーの長期有効性および安全性に関する前向き多施設共同市販後臨床研究 (中川 厚)
2. 冠動脈ステント留置後12ヵ月超を経た心房細動患者に対するワーファリン単独療法の妥当性検証する多施設無作為化試験 (岡部太一)

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診										吉川 (循環)
2診	岡部	村西	岡部		岡部 (予約)	岡部 (予約)	村西	交代	岡部	中川厚 (予約)
3診	中川厚	徳岡			長谷川 ハースマーカ	吉川	濱田	中川厚	徳岡	不二樹

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		心臓カテーテル	心臓カテーテル	心臓カテーテル	心臓カテーテル
午後				部長回診 カンファレンス	

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予
頸動脈エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
ホルター心電図	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予			
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
トレッドミル		○ 診				○ 診		○ 診		
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診	○ 診		○ 診			
負荷心筋シンチ									○ 診	

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	24,495	22,375	21,156	13,965 ※	13,433
入院	20,804	19,359	16,420	11,229 ※	11,420

※H25.4 ~ 循環器内科・神経内科から神経内科を分離新設

表 5 H26.4 ~ H27.3 入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	293	7
心不全	106	34
心臓および血管の挿入物および移植片の存在	47	8
肺炎/ (誤嚥性肺炎 3 件を含める)	35	13
アテローム < 粥状 > 硬化症	24	9
睡眠障害	20	3
本態性高血圧症	19	18
急性心筋梗塞	18	19
心房細動および粗動	17	16
その他の不整脈	9	11

スタッフ 部長：中村秀次（ニッセイ予防医学センター長兼任）
 担当部長：湯川雅彦（消化器内視鏡センター長兼任）
 副部長：居平典久、村本 理
 専攻医：伊藤 翔、田中 智



1. 診療活動

専攻医2名を含む6名の常勤スタッフで、消化器疾患を主とした診療を行っている。消化器癌の早期発見に主眼を置き、外科・放射線科との連携のもと早期診断・早期治療に努めている。上部内視鏡検査では、拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。大腸内視鏡検査においては、軸保持短縮法による挿入法を用いて苦痛の軽減に努め、診断法としてはピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。また、小腸病変に対してカプセル内視鏡を導入した。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術を行った。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行った。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1、Gemcitabineを中心とした化学療法を行い、また進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行った。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル、テノホビル投与を行い、C型慢性肝炎に対してPegIFN・Ribavirin・Simeprevir 3者併用療法に加え、12月からはIFN-free DAA経口2剤の治療法を導入し、9例に実施している。肝硬変に対しては、肝発癌抑制を目指したIFN治療、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法を積極的に行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては、分子標的治療薬を積極的に導入し、今年度は5例に対してSorafenibの治療を行った。肝細胞癌に対して、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	4名
日本内科学会総合内科専門医	2名
日本消化器病学会認定専門医	4名
日本消化器内視鏡学会専門医	2名
日本肝臓学会認定肝臓専門医	3名

5. 業績

論文・著書

1. Takashima T, Enomoto H, Ninomiya T, Kim SR, Okushin H, Sugano M, Imoto S, Yano Y, Ooka T, Seo Y, Kasugai H, Muramatsu A, Jomura H, Shimomura S, Shindo M, Nakamura H, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S: Hepatitis C virus relapse was suppressed by long-term self-injection of low-dose interferon in patients with chronic hepatitis C after pegylated interferon plus ribavirin treatment. *Hepatol Res*, 44:597-607, 2014.

学会発表

1. 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 三上高司, 伊藤 翔, 田中 智: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと肝線維化マーカーとの関連性. 第50回日本肝臓学会総会, 5月, 2014, 東京.
2. 田中 智, 三上高司, 居平典久, 伊藤 翔, 稲次洋平, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次, 小西 昇: PBC/AIH overlap syndromeの1例. 第206回日本内科学会近畿地方会, 12月, 2014, 京都.

研究会発表

1. 居平典久: 自己免疫性肝炎（AIH）診療ガイドライン（2013）の紹介-当院での肝生検施行例におけるAIH診断症例の検討も含めて-. 西部大阪肝疾患病診連携会, 9月, 2014, 大阪.
2. 中村秀次: C型慢性肝炎の最新の治療-インターフェロンフリーの経口療法も含めて-. あわぎ肝疾患病診連携懇話会, 11月, 2014, 大阪.
3. 村本 理: 当院におけるC型慢性肝炎の治療の現況. あわぎ肝疾患病診連携会, 11月, 2014, 大阪.
4. 伊藤 翔, 居平典久, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次: 膵頭部に腫瘍形成を認めた自己免疫性膵炎の一例. 内科病診連携クリニカルカンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
5. 中村秀次: 肝硬変の治療. 西部大阪肝疾患病診連携会 市民公開講座, 11月, 2014, 大阪.
6. 居平典久, 田中 智, 伊藤 翔, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次: 当院におけるトルバプタンの使用経験. サムスカ研究会, 12月, 2014, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
5診			稲次							
6診	居平		村本	伊藤	伊藤	村本	中村	中村	村本	回診
7診	湯川	田中智			中村		湯川		居平	

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
午前			胃カメラ		胃カメラ				胃カメラ	
午後	肝生検 大腸ファイバー		大腸ファイバー		造影超音波検査 大腸ファイバー		ERCP RFA 16:30 カンファレンス 抄読会		大腸ファイバー 13:30 回診	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	14,526	13,752	14,297	14,165	14,044
入院	7,595	6,552	9,024	7,924	10,098

表4 症例数（H26.4～H27.3）

(1) 入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数
腸の憩室性疾患	147
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	122
肝および肝内胆管の悪性新生物	79
腸のその他の疾患	73
潰瘍性大腸炎	47
胆石症	32
慢性ウイルス性肝炎	31
結腸の悪性新生物	31
アルコール性肝疾患	22
胃潰瘍	18
消化器系その他の疾患	18

(2) 内視鏡件数

	件数
上部消化管内視鏡検査	2,690
下部消化管内視鏡検査	1,762
内視鏡的治療	252
EMR/Polypectomy	178
内視鏡的止血術	33
食道静脈瘤結紮術（EVL）	9
ERCP（EST）	32
カプセル内視鏡	4
胃瘻増設術、その他	52

(3) 肝炎・肝癌の治療

	件数
C型慢性肝炎のIFN療法：PegIFN/Ribavirin療法（Triple療法）	20（16）
C型慢性肝炎のIFN-free DAA経口2剤療法	9
B型慢性肝炎の抗ウイルス療法	71
肝癌の肝動脈化学塞栓療法（TACE）	48
肝癌のラジオ波焼灼療法（RFA）	8
肝癌に対する分子標的治療（Sorafenib）	5

(4) 膵・胆管癌の治療

	件数
進行膵癌・胆管癌に対する全身化学療法	5

スタッフ 副院長兼部長：立花 功

担当部長：小瀬戸昌博（中央臨床検査部長兼任）

担当部長：住谷 哲（糖尿病・内分泌センター部長、ニッセイ予防医学センター
予防医療部担当部長兼任）

副部長：田村慶朗、森田真也（～6月）

医 長：宇都佳彦

専攻医：早川友朗、仁科周平

〈兼任〉 佐藤文三（名誉院長）、笠山宗正（院長）、三木俊治（救急診療センター・臨床研修部）、
泉由紀子（予防医学センター）、鈴木真優美（予防医学センター）、
石井誠剛（救急診療センター）、田中庸弘（救急診療センター、10月～）



1. 診療内容

当科は内分泌・糖尿病、膠原病・リウマチ疾患を対象に診療を行ってきた。また平成25年4月より新たに呼吸器疾患の診療を開始した。内容は糖尿病の患者教育、経口薬やインスリンを初めとする注射薬による血糖コントロール、ケトosisや糖尿病合併症治療、クッシング症候群や甲状腺機能異常など内分泌疾患の診断・治療、SLE、強皮症、皮膚筋炎など膠原病の診断・治療、生物学的製剤による慢性関節リウマチ治療、そして肺がんの診断・化学療法・放射線治療・緩和治療、間質性肺炎、COPDなどの診断・治療である。

平成26年9月より、ウィークエンド糖尿病精査入院を開始した。糖尿病合併症の早期診断と、生活習慣改善のきっかけを提供できる3日間の短期プログラムであり、入院患者数の増加につながっている。また平成27年1月には呼吸器内視鏡学会の関連認定施設として認定された。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

内科外来1、7、10～13診察室で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は40～43、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医2名、常勤医2～3名で、研修医または専攻医が担当医、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査：放射線部（水曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

院外からの紹介患者数が平成25年度819件から平成26年度931件と112件増加し、外来延べ患者数も平成25年度に比べ1,421名増加した。

2) 入院診療実績（表4、5）

平成26年9月から平成27年3月までで28名のウィークエンド糖尿病精査入院があり、平成26年度の全入院延べ患者数は平成25年度に比べ21名増加した。

3) 検査実績

平成26年度は気管支鏡検査数が82件と平成25年度の65件と比べ17件増加した。気管支鏡検査は全例短期の検査入院で施行している。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	12名
日本内科学会総合内科専門医	5名
日本内分泌学会専門医	4名
日本糖尿病学会専門医	3名
日本リウマチ学会専門医	3名（非常勤含む）
日本アレルギー学会専門医	2名（非常勤含む）
日本呼吸器学会専門医	3名
気管支鏡専門医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Murai J, Koga M, Saito H, Mukai M, Kasayama S: Serum 1, 5-anhydroglucitol is low in gastrectomized men. Acta Diabetologica, 51:337-338, 2014.
2. Ohki T, Utsu Y, Morita S, Karim F, Saito Y, Yoshizawa T, Yamamura K, Yamada K, Kasayama S, Yamagata K: Low serum level of high-sensitivity C-reactive protein in a Japanese subject with maturity-onset diabetes of the young type 3. J Diabetes Investig, 5:513-516, 2014.
3. Kitamura T, Otsuki M, Tamada D, Tabuchi Y, Mukai K, Morita S, Kasayama S, Bando Y, Shimomura I, Koga M: Serum albumin-adjusted glycated albumin is an adequate indicator of glycemic control in patients with Cushing's

syndrome. Clin Biochem, 47:279-282, 2014.

4. Nii T, Yoshikawa H, Okabe T, Tachibana I: Septic pulmonary and systemic embolism in tricuspid endocarditis. BMJ Case Rep, doi:10. 1136/bcr-2014-206569, 2014.
5. Koga M, Hirata T, Kasayama S, Ishizaka Y, Yamakado M: Body mass index negatively regulates glycated albumin through insulin secretion in patients with type 2 diabetes mellitus. Clin Chim Acta, 438:19-23, 2015.
6. Sumitani S, Morita S, Deguchi R, Hirai K, Mukai K, Utsu Y, Miki S, Sato S, Nakamura H, Kasayama S, Koga M: Metformin decreases glycated albumin to glycated hemoglobin ratio in patients with newly diagnosed type 2 diabetes. Ann Clin Biol, 52:76-81, 2015.
7. Hirata T, Koga M, Kasayama S, Morimoto J, Maruyama T: Glycated albumin is not significantly correlated with body mass index in patients with acute-onset type 1 diabetes. Clin Chim Acta, 438:248-251, 2015.
8. 笠山宗正: 内分泌糖尿病の管理. カウンターホルモンとどう対峙するか?. Medicina, 51:1442-1447, 2014.
9. 早川友朗, 新居卓朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 森田真也, 仁科周平, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 立花 功, 住谷 哲, 笠山宗正: 認知症を合併した高齢1型糖尿病患者における持続血糖測定 (Continuous glucose monitoring: CGM) の使用経験. 日生医誌, 42:67-70, 2014.
10. 吉岡佐紀, 石井誠剛, 仁科周平, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 鈴木真優美, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 佐藤文三, 笠山宗正, 立花 功: ステロイドが奏功したSLE合併間質性肺炎の1例. 日生医誌, 42:71-76, 2014.
11. 小林 悠, 森田真也, 北井宏美, 福井辰成, 黒田昌男, 立花 功, 城光寺 龍, 笠山宗正: 2型糖尿病治療中に診断され, 経過中に癌性リンパ管症を合併した前立腺癌の1割検例. 日生医誌, 42:88-92, 2014.
12. 笠山宗正: 糖代謝異常・糖尿病, 肥満とその対策. 田中廣壽, 宮地良樹, 上田裕一, 郡 義明, 服部隆一編, 一冊できわめるステロイド診療ガイド. 173-177頁, 文光堂, 東京, 2015.

学会発表

1. Tachibana I, Takeda Y, Suzuki M, Yingji Jin: CD9 as a negative regulator of inflammation in COPD. The 54th Annual Meeting of the Japanese Respiratory Society, 4月, 2014, 大阪.
2. 笠山宗正: 下垂体腫瘍の治療前後の下垂体機能の管理. 内科の立場から. ランチョンセミナー5. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
3. 大月道夫, 玉田大介, 田渕優希子, 向井康祐, 北村哲宏, 森田真也, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史: クッシング症候群患者の空腹時血糖は低値を示す. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
4. 早川友朗, 森田真也, 北井宏美, 仁科周平, 宇都佳彦, 田村慶朗, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正: ステロイド薬離脱時に認められた副腎皮質機能と副腎髄質機能の乖離. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
5. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 北井宏美, 早川友朗, 新居卓朗, 仁科周平, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 立花 功, 古賀正史, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者におけるメトホルミン投与開始前後および4週後のグリコアルブミン値による12週後のHbA1cの予測 (EMINENT Study: 第4報). 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
6. 森田真也, 北井宏美, 新居卓朗, 仁科周平, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 笠山宗正, 城光寺 龍, 道清 勉: 急激な血糖コントロールの悪化を契機に退形成性膵管癌と診断された1例. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
7. 鈴木真優美, 田村慶朗, 住谷 哲, 中村秀次, 立花 功: COPD

診断者における末梢血白血球数に対する喫煙の影響について. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 4月, 2014, 大阪.

8. 久原華子, 立花 功, 和 平: CD9陽性小細胞肺癌細胞は, カルシウム結合蛋白であるcalretinin を介してアポトーシスを起こす. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 4月, 2014, 大阪.
9. 紅林昌吾, 元村卓嗣, 中尾 誠, 橋本久仁彦, 森本靖彦, 佐藤文三, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史, 大月道夫: シタグリブチン投与がグリコアルブミン/HbA1c比に及ぼす影響. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
10. 古賀正史, 平田 匠, 笠山宗正, 石坂祐子, 山門 實: 2型糖尿病患者でグリコアルブミンがBMIと負の相関を示す機構. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
11. 平田 匠, 古賀正史, 笠山宗正, 森本二郎, 丸山太郎: 1型糖尿病においてGAはBMIの影響を受けない. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
12. 住谷 哲, 森田真也, 田村慶朗, 宇都佳彦, 北井宏美, 早川友朗, 新居卓朗, 仁科周平, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 立花 功, 笠山宗正: 初回治療2型糖尿病患者に対するメトホルミン投与と生活習慣介入の長期 (156週) にわたる有効性の検討 (EMINENT Study: 第5報). 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
13. 北村哲宏, 大月道夫, 玉田大介, 田渕優希子, 向井康祐, 森田真也, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史: クッシング症候群患者のグリコアルブミンは見かけ上, 低値を示す. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
14. 増本憲生, 紅林昌吾, 元村卓嗣, 合屋佳世子, 中尾 誠, 橋本久仁彦, 森本靖彦, 北村哲宏, 福原淳範, 佐藤文三, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史, 大月道夫: 投与4週後でシタグリブチンの治療効果の判断は可能か? -HbA1c vs. GA-. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
15. 横井一範, 宇都佳彦, 立花 功, 小瀬戸昌博, 田村慶朗, 森田真也, 早川友朗, 仁科周平: 気管支拡張とモザイクパターンを呈し, 閉塞性細気管支炎の疑われた1例. 第83回日本呼吸器学会近畿地方会, 6月, 2014, 大阪.
16. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 立花 功, 笠山宗正: レバグリニドとリナグリブチンの併用が有効であったCKD合併高齢2型糖尿病の1例. 第51回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2014, 大阪.
17. 仁科周平, 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 早川友朗, 立花 功, 笠山宗正: ボグリボース投与後に糖負荷後インスリン分泌動態の改善を認めた非肥満境界型耐糖能異常の1例. 第51回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2014, 大阪.
18. 仁科周平, 住谷 哲, 宇都佳彦, 早川友朗, 立花 功, 笠山宗正, 福井辰成, 黒田昌男, 元村卓嗣: 抑うつ傾向にて心療内科にて加療されていた小児期発症クッシング症候群の1例. 第15回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 11月, 2014, 西宮.
19. 田村慶朗, 立花 功, 早川友朗, 仁科周平, 宇都佳彦, 吉岡佐紀, 小瀬戸昌博, 石井誠剛: SLE に合併した間質性肺炎の1例. 第206回日本内科学会近畿地方会, 12月, 2014, 京都.
20. 枝廣龍哉, 田村慶朗, 前田宗宏, 石井誠剛, 仁科周平, 早川友朗, 宇都佳彦, 鈴木真優美, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正, 立花 功: CTで過膨張所見を呈した肺葉内肺分画症の一例. 第84回日本呼吸器学会近畿地方会, 12月, 2014, 奈良.

研究会発表

1. 森田真也: 産業界のための2型糖尿病 UpToDate. 第11回あわぎ産業界セミナー, 5月, 2014, 大阪.
2. 佐藤文三: 癌と闘う-この強敵と如何に向き合うか. 鉄鋼会館研修会, 6月, 2014, 大阪.
3. 笠山宗正: 怖い低ナトリウム血症-仕組みと対策. Diabetes & Endocrine Seminar, 6月, 2014, 大阪.
4. 早川友朗: 糖尿病合併症患者における血糖管理. 糖尿病治療を考える会 IN OSAKA NORTH EAST, 6月, 2014, 大阪.
5. 仁科周平, 森田真也, 新居卓朗, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 田村慶朗, 住谷 哲, 笠山宗正, 立花 功: 原因不明の低

- カリウム血症と下腿浮腫を呈した1例. 第8回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス (OEMCC), 6月, 2014, 大阪.
6. 田村慶朗:咳嗽・労作時息切れを主訴とし、複数の病態の関与が考えられた高齢女性. 第73回臨床アレルギー研究会, 7月, 2014, 大阪.
7. 立花 功:呼吸生理とCOPDの診断・治療について. 第3回北大阪呼吸リハビリテーション講習会, 7月, 2014, 大阪.
8. 佐藤文三:健康寿命延伸と生活習慣病. 武田薬品講演会, 8月, 2014, 大阪.
9. 笠山宗正:糖尿病と内分泌疾患の接点. 第4回Diabetes Frontierセミナー～糖尿病と関連疾患を考える～, 8月, 2014, 西宮.
10. 佐藤文三:健康寿命延伸と生活習慣病 一研究者であった一老医師のつぶやき. つながろう会, 9月, 2014, 大阪.
11. 仁科周平:妊娠中に診断されたGAD抗体陽性1型糖尿病の1例. インスリン治療「ホップ・ステップ・ジャンプ」, 10月, 2014, 大阪.
12. 仁科周平, 城光寺 龍:急速にDIC・呼吸症状が悪化したPTTMの1例. 阪神合同CPC, 10月, 2014年, 大阪.
13. 笠山宗正:内分泌疾患と生活習慣病の関わり. 第1回堺内分泌セミナー, 11月, 2014, 大阪.
14. 田村慶朗:COPDの基礎知識. 第96回 なにわDoctor's Network, 11月, 2014, 大阪.
15. 宇都佳彦:低身長・肥満・抑うつ・高血圧を主訴に紹介された15才男性の一例. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
16. 小林 悠:著明な高CEA血症が血糖コントロールとともに改善した1例. 大阪糖尿病臨床カンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
17. 佐藤文三:癌と向き合う. 大阪医専特別講義, 12月, 2014, 大阪.
18. 立花 功:長引くせきと喘息. 第2回ニッセイ市民健康セミナー, 12月, 2014, 大阪.
19. 佐藤文三:癌との向き合い方. ニッセイPREMIUM研修会, 1月, 2015, 東京.
20. 佐藤文三:がんとはどのような病気か. 花乃井中学校出前授業, 1月, 2015, 大阪.
21. 立花 功:COPDと併存症. 第1回北摂在宅医療勉強会, 1月, 大阪.
22. 住谷 哲:糖尿病診療における早期介入の重要性-「ウィークエンド糖尿病精査入院」から見えること-. あわぎ糖尿病病診連携懇話会, 3月, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等
(治験)

1. 大日本住友製薬の依頼によるAS-3201の糖尿病性末梢神経障害患者を対象とした第Ⅲ相試験
2. 第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相国際共同試験(糖尿病性末梢神経障害性疼痛)
3. 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社の依頼による基礎インスリンにて治療中の高齢2型糖尿病患者を対象にBI1356 (リナグリプチン) を併用投与する製造販売後臨床試験

(臨床研究)

1. 肺がん・炎症性乳がんにおけるテトラスパニンの発現の検討(立花 功)
2. 緊急Ai (Antopsy imaging) 検査(小瀬戸昌博)
3. 肺癌治療における抗癌剤有効性を予見するバイオマーカーの探索(田村慶朗)
4. セルセプト (MMF) 自費治療の承認(小瀬戸昌博)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診		末村			吉田		立花			
7診			田村							
10診	住谷	住谷			小瀬戸	小瀬戸	宇都	田村		泉
11診	宇都		三木	仁科周 (2・4週)	立花	立花	三木	早川	住谷	鈴木
12診	小瀬戸	小瀬戸	佐藤文	佐藤文	佐藤文	佐藤文	住谷	住谷	小瀬戸	
13診	立花	立花	笠山		笠山		笠山	笠山		佐藤文 (予約)

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後		抄読会	気管支鏡検査	症例検討会	病棟回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡						○ 診				

○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	25,698	25,492	27,590	28,967	30,388
入院	10,521	11,329	12,352	15,203	15,224

表5 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	143	15
呼吸器感染症(肺炎、誤嚥性肺炎など)	64	18
気管支および肺の悪性新生物	54	27
その他の慢性閉塞性肺疾患	30	15
その他の間質性肺疾患	24	40
下垂体疾患(下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	17	5
その他の副腎障害	14	11
感染症と推定される下痢および胃腸炎	13	8
呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されていないもの	11	17
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	11	17
その他の敗血症	10	37
胸水、他に分類されないもの	10	20
尿路系のその他の障害	10	23

スタッフ 部長：中川雅史
担当部長：川上 学
副 部 長：石河 純、加藤るり
専 攻 医：佐藤和明



1. 診療内容

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植は20年以上の実績、96例（のべ103回）の症例経験を有する。その他、悪性リンパ腫を疑われ、生検の結果上皮性と判明した原発不明癌、化学療法の効果が期待できるP-NETや胸腺腫・大腸癌などの悪性腫瘍に対しての化学療法も行い、腫瘍内科としての診療も並行して行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

主として内科外来8・10診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺・生検・輸血などの診療も外来化学療法室や内科処置室において行われた。

2) 病棟体制

部長含め4名の常勤医と、1名の後期研修医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺・骨髄生検は、内科外来処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はのべ6,380名（昨年比+25）、1日平均28名、紹介患者数は月平均20名とほぼ安定していた。また、外来化学療法数は1,206件（昨年比+271）、1日平均4.9件と増加を示し、院内全外来化学療法数の47.7%を占めた。外来輸血施行数は、赤血球輸血が676単位（昨年比+152単位）、濃厚血小板輸血が2000単位（昨年比+395単位）、1週間平均ではそれぞれ13単位（約6.5件）、38.5単位（約

3.8件）であった。外来化学療法や通院輸血療法は、入院期間の短縮と在宅での療養生活に大いに寄与したと思われる。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院延べ数9,791名（昨年比-52）、1日平均27名の実績であった。また、月平均の新入院患者数は24名、疾患の内訳としては、悪性リンパ腫が最も多く、1年間の新規診断悪性リンパ腫は42例に達した。また、自己末梢血幹細胞移植は2例に施行され、開設以来実績は96例に達した。

3) 検査実績

平成26年度中に、骨髄穿刺は入院外来併せて246件（昨年比+27）施行された。全例、当科医師によって検鏡による診断がなされた。

4. その他

日本内科学会認定内科医	3名
日本内科学会総合内科専門医	1名
日本血液学会専門医	4名

5. 業績

論文・著書

- Oji Y, Tatsumi N, Fukuda M, Nakatsuka S, Aoyagi S, Hirata E, Nanchi I, Fujiki F, Nakajima H, Yamamoto Y, Shibata S, Nakamura M, Hasegawa K, Takagi S, Fukuda I, Hoshikawa T, Murakami Y, Mori M, Inoue M, Naka T, Tomonaga T, Shimizu Y, Nakagawa M, Hasegawa J, Nezu R, Inohara H, Izumoto S, Nonomura N, Yoshimine T, Okumura M, Morii E, Maeda H, Nishida S, Hosen N, Tsuboi A, Oka Y, Sugiyama H: The translation elongation factor eEF2 is a novel tumor associated antigen overexpressed in various types of cancers. International Journal of Oncology, 44:1461-1469, 2014.

学会発表

- Yagi H, Hanamoto H, Tsubaki K, Fuchida S, Kosugi S, Kuroda J, Uoshima M, kaneko H, Ohta K, Miyamoto K, Tanaka H, Ishii K, Adachi Y, Kohara T, Matsumura Y, Kida T, Shibayama H, Nakagawa M, Iida M, Kawata E, Takahashi T, Uchiyama H, Nomura S, Matsumura I, Hino M, Tsudo M, Shimazaki C, Taniwaki M, Takaori-kondo A, Kanakura Y: Nobel agents for elderly patients with multiple myeloma: Analysis in Kansai Myeloma Forum, The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hemato., logy, 9月, 2014, 大阪.
- Sata H, Shibayama H, Maeda I, Habuti Y, Nakatani E, Fukushima, Fujita J, Ezoe S, Tadokoro S, Maeda T, Mizuki

M, Kosugi S, Nakagawa M, Ueda S, Iida M, Tokumine Y, Azenishi Y, Mitsui H, Oritani K, Kanakura Y: Evaluation of patient-specific MRD with quantitative RT-PCR in the patients with multiple myeloma, The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 9月, 2014, 大阪.

3. Yoshida H, Masaie H, Shingai Y, Ozawa T, Hino A, Karasuno Y, Sugahara H, Satoh K, Nakagawa M, Ikeda H, Inoue N, Yamashita Y, Kamae T, Mitsui H, Ishikawa J: Dosage of TKI in first 3 months influences on the treatment response in chronic myelogenous leukemia, The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 9月, 2014, 大阪.
4. Yamashita Y, Kamae T, Mitsui H, Ishikawa J, Yoshida H, Nakagawa M, Sato K, Sugawara H, Karasuno Y, Inoue N, Ikeda H, Kuyama J: Significance of traditional prognostic scoring system on event-free survival for CML on TKI therapy, The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 9月, 2014, 大阪.
5. Karasuno Y, Yamamoto K, Nozaki K, Kurashige R, ohnishi H, Ujii H, Sugawara H, Yamashita Y, Mitsui H, Yoshida H, Ishikawa J, Sato K, Nakagawa M, Inoue N: The effect of reduced dose tyrosine kinase inhibitor (TKI) in chronic phase CML (CML-CP) patients. The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 9月, 2014, 大阪.
6. Ishiko J, Kosugi A, Nakagawa M, Kato R, Kida T, Ozawa T, Yamashi Y, Shimomura Y, Mitsui H, Moriy Y, Katagiri S: Safety and efficacy of PETHEMA-like VMP using subcutaneous bortezomib to myeloma: an OMSG2 report, The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 9月, 2014, 大阪.
7. Kawakami M, Ishiko J, Kato R, Sato K, Nakagawa M: Effectiveness of azathioprine as second-line therapy for immune thrombocytopenic purpura, The 76th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 9月, 2014, 大阪.
8. 藤田祐亮, 川上 学, 加藤るり, 石河 純, 中川雅史, 城光寺 龍: 腹腔内リンパ節腫脹と血球貪食症候群を合併した壊死性リンパ節炎の1例. 第204回日本内科学会近畿地方会, 6月, 2014, 大阪.
9. 永田彩織, 加藤るり, 佐藤和明, 石河 純, 川上 学, 中川雅史, 村田浩昭, 亀崎豊実: 原発性胆汁性肝硬変の経過中に合併した血栓性血小板減少性紫斑病の症例. 第205回日本内科学会近畿地方会, 9月, 2014, 大阪.
10. 佐藤和明, 川上 学, 加藤るり, 石河 純, 中川雅史, 城光寺 龍: 腸間膜腫瘍で発症, 腹水で診断された骨髄性肉腫の一例. 第102回近畿血液地方会, 11月, 2014.

研究会発表

1. 加藤るり: 原発性胆汁性肝硬変の経過中に貧血と血小板減少を合併し紹介となった症例. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2014, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(臨床研究)

1. 最重症再生不良性貧血 (石河 純)
2. 急性骨髄性白血病の化学療法後寛解例に対するWTIペプチド免疫療法の第Ⅱ相臨床試験多施設共同研究, 患者選択基準の変更, 研究実施予定期間の延長 (川上 学)
3. 多発性骨髄腫の腫瘍熱コントロール目的でのアクテムラの適応外使用 (石河 純)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	佐藤和									
8診	加藤	川上	石河		中川	中川	川上		中川	中川 (予約)
10診			中川 (予約)	中川 (1:3-5週)					交代	

表2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週1回)
・抄読会	(月2回)
・血液標本検討会	(適宜)
・内科合同カンファレンス	(月1回)
・内科・地域合同症例検討会	(年1回)

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	6,766	6,772	6,365	6,355	6,830
入院	9,079	9,639	8,168	9,843	9,791

表4 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫	102	35
骨髄性白血病	42	35
骨髄異形成症候群	35	31
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	31	39
紫斑病およびその他の出血性病態	11	24
リンパ性白血病	9	30
脳の悪性新生物	7	52
その他の無形成性貧血	5	34
血液および造血器のその他の疾患	5	30
悪性免疫増殖性疾患	4	24
無顆粒球症	3	36
肺炎、病原体不詳	3	10
リンパ組織、造血組織および関連組織の性状不詳または不明のその他の新生物	3	18

神 経 内 科

スタッフ 部 長：浅野彰彦
副部長：仁科拓也、佐藤智彦



1. 診療内容

神経内科部門は2013年4月より循環器・神経内科から分離独立し、同年6月より佐藤智彦が加わった。昨年度は年間を通して3名体制で運営した初年度である。

めまいや痺れといった身近な症状の相談から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞・一過性脳虚血発作といった脳血管障害がトップで、次にパーキンソン病という順序となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応してきたが、今後とも努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も神経内科医師が対応できるように分担しており、救急要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

特に曜日・時間帯による担当医は決めていないが、お互いをカバーしながら対応している。

3) 検査スケジュール

神経内科医師が単独で担当する予約検査は特に決めていないが、神経伝導検査・針筋電図など必要な検査は中央臨床検査部と各病棟などと連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期より外来患者数は微減を示しているが、内容を確認すると神経内科疾患により特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に入院患者数は増加しており、年度目標を達成できた。

3) 検査実績

神経内科独自の実績として報告すべきものはありません。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医 1名
日本内科学会総合内科専門医 1名
日本神経学会専門医 1名
日本循環器学会専門医 1名

5. 業績

研究会発表

- 浅野彰彦:「心房細動に伴う脳卒中予防を考える」-神経内科の立場から- あわぎ脳卒中フォーラム, 9月, 2014, 大阪.
- 浅野彰彦:「パーキンソン病治療の進歩」. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2014年, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診						佐藤智				
5診	佐藤	仁科拓	浅野	仁科拓	仁科拓		浅野	佐藤智	浅野	浅野

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	(24,495)	(22,375)	(21,156)	6,180※	6,053
入院	(20,804)	(19,359)	(16,420)	5,010※	5,879

※H25.4～神経内科を循環器内科・神経内科から分離新設

表3 H26.4～H27.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	45	39
一過性脳虚血発作	12	13
パーキンソン病	10	42
固形物および液状物による肺臓炎	8	59
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	5	24
呼吸器感染症（肺炎、誤嚥性肺炎など）	5	23
てんかん	5	45
前庭機能障害	5	22
脊髄性筋萎縮症および関連症候群	4	42
めまい＜眩暈＞感およびよろめき感	4	13
感染症と推定される下痢および胃腸炎	3	17
重症筋無力症およびその他の神経筋障害	3	74
腎盂腎炎、急性または慢性と明示されないもの	3	18
頭痛	3	14
本態性（原発性＜一次性＞）高血圧（症）	2	29
その他の脳血管疾患	2	22
慢性腎不全	2	61
尿路系のその他の障害	2	15
傾眠、昏迷および昏睡	2	7
詳細不明の器質性または症状性精神障害	2	3

スタッフ 部 長：江川 功（～6月） 高橋 励（7月～）
医 長：木藤友実子、青木保典（7月～）



1. 診療内容

神経科・精神科の主な機能は外来診療、入院診療、院内他科との連携業務である。

まず当科の外来診療では、(1)うつ病・パニック障害などうつ病圏の疾患が多く、既に診療所で診療されていたがより専門的な診断・薬物療法が必要との判断で紹介されることが多い。(2)適応障害、全般的不安障害などの神経症圏の疾患群は人格特性の把握や適切な心理教育が重要になるが、当科では伝統的にこの群の割合が高い。また身体疾患としての一元的な診断が難しく、一方典型的な精神疾患でもない慢性疲労（症候群）の臨床研究・外来診療を行ったことに関連して、他の総合病院からも(3)身体化病態・身体表現性障害（心身症、慢性疲労、一部の慢性疼痛）の紹介がある。

専門外来診療は一般診療の枠内で時間を確保して行っているが、2014/6月末の部員変更に伴い、従来の「睡眠障害」を除き、「慢性疲労」、「認知症」に集約した。以後(4)認知症については常勤医全員が診療にあたる。

このように外来診療では、診断・薬物療法の専門性、心理教育、心身連関などの点で、総合病院精神科としての機能を発揮している。

入院診療は、総合病院精神科の病床数が減少している昨今、紹介元にとって貴重な資源だが、一般医療法に基づき他科との混合病床で行われるため、概ねADLが自立し行動の制限が必要無い症例であることが前提となり、前述の(1)うつ病圏、(2)神経症圏の他、一部の(4)認知症、てんかん、軽症の統合失調症などの受け入れ実績がある。

院内他科との連携には、他科入院患者が新たに発症したせん妄・適応障害や、従来合併する精神疾患への対応（コンサルテーション・リエゾン＝サービス, CLS）の他、前述の(3)身体化病態の併診、さらに緩和ケアでの相談（コンサルテーション）・直接診療（リエゾン）等の業務がある。

また院外レベルでの連携活動として、日生病院を含む各総合病院主催の緩和ケア研修会の精神・心理部門

への協力や、当院との関連が深い企業の社員の診療や産業保健活動を行っている。後者は今後、予防医学センターとの連携によりニーズが拡大する可能性がある。

2. 診療体制

2014/6月末をもって江川 功が定年退職した（非常勤として予防医学センターを兼務され、外来診療も続行頂いている）。このため大阪大学大学院医学研究科を修了した青木保典が常勤医として入職し、2015/3月末の時点での常勤は3名（高橋 励（部長）、木藤友実子、青木保典）である。

1) 外来診療スケジュール（表1）

2診（必要に応じて3診）での完全予約制で行っているが、当科の診察は特に初診に長時間を要するため診療スケジュールはほぼ一杯の状況が続いており、このため初診患者様の受け入れは病診連携による紹介を前提とするようお願いしている。

2) 検査スケジュール（表2）

当科独自の検査としては心理検査、脳波検査がある。心理検査は重症度（うつ状態など）の半定量的な評価、性格・人格特性の定性的評価、認知症スクリーニングが中心である。脳波検査は、てんかん診療以外にも、他科連携時における症候性・器質性病態の推定、認知症の精密な診断に有用なツールであることをクローズ＝アップしている。

これにとどまらず、初期認知症の診断ツールの総合的な整備を試みており、当科の特長としたいと考えている。これまでも、当院に導入して頂いた脳血流SPECTは他院での普及率が低いことから、紹介されてきた認知症性疾患の診断において福音であった。さらに、当科の木藤が専門とする神経心理学的診察、当科の青木が開発する脳波解析手法を用いた診断補助法は非常に有用である可能性がある。その他、独自に開発した行動生理学的検査（高橋）の援用、心理検査の種類の充実（丸山加奈心理士）などにより認知症の多重的な診断体制を構築し、診療の信頼性を高めたい。

3) 病棟体制

原則的に外来診療担当医が入院加療をも受け持つが、一部例外がある。

4) CLSおよび緩和ケア業務

近年、緩和ケアの精神・心理部門のスキルが全国的に他科スタッフに浸透してきたことが実感される。このため、緩和ケア業務は普遍的なCLSの中で行うように移行した。但し、化学療法のための無菌室入室など、強いストレス状況にさらされた患者様の精神的ケアのために心理士が介入する試みは続けている。

このように、人口に膾炙してきた専門分野を一般診療に組み入れ、新しい分野（認知症、脳機能検査）を専門診療として焦点化することで、時代と地域のニーズにこたえうる診療体制の整備を試みている。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

部員変更に伴い外来患者の移動がみられたが、初診診療を新メンバーが中心になり精力的に行っており、患者数は着実に伸びている。

2) 入院診療実績（表3、4）

概ね十名以上が入院している。2014年後半の入院数内訳では、初期認知症が増えた一方、全体としてはやや減少した。この背景に、紹介元患者の高齢化や当科・当院の受診人口の変化が考えられ、当面は入院数の反発・維持を目標とする。なお今後増加が見込まれる高齢患者の精神科入院診療の可能性については、老年期うつ病から初期の認知症に移行する例は入院加療により却って悪化する可能性なども鑑み、その適応については前述の診断ツールなどから得られるデータの集積が望まれる。

4. 認定医・専門医など

精神神経学会専門医	1名（かつ指導医を依頼）
精神保健指定医	1名
日本医師会認定産業医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Noninvasive prediction of shunt operation outcome in idiopathic normal pressure hydrocephalus. , Aoki Y, Kazui H, Tanaka T, Ishii R, Wada T, Ikeda S, Hata M, Canuet L, Katsimichas T, Musha T, Matsuzaki H, Imajo K, Kanemoto H, Yoshida T, Nomura K, Yoshiyama K, Iwase M, Takeda M. , Sci Rep, Jan 14;5:7775, 2015.
2. Detection of EEG-resting state independent networks by eLORETA-ICA method. , Aoki Y, Ishii R, Pascual-Marqui RD, Canuet L, Ikeda S, Hata M, Imajo K, Matsuzaki H, Musha T, Asada T, Iwase M, Takeda M. , Front Hum Neurosci, Feb 10;9:31, 2015.

学会発表

1. Aoki Y, Kazui H, Tanaka T, Ishii R, Wada T, Ikeda S, Hata M, Canuet L, Katsimichas T, Musha T, Matsuzaki H, Imajo K, Kanemoto H, Yoshida T, Shimizu Y, Nomura K, Yoshiyama K, Iwase M, Takeda M: EEG normalized power variance in beta band can predict shunt operation outcome in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus-XVI World Congress of Psychiatry, 9月, 2014, スペイン, マドリッド.

研究会発表

1. 高橋 励: 産業精神医学における抗うつ薬の正しい役割. 北摂産業精神医学研究会, 8月, 2014, 尼崎.
2. 高橋 励: 抗うつ薬Escitalopram使用に際しての工夫. 総合病院精神医学セミナー, 9月, 2014, 大阪.
3. 高橋 励: 認知症の基礎知識とパラダイム=シフト. ニッセイ=ニュー=クリエーション安全衛生委員会主催セミナー, 9月, 2014, 大阪.
4. 高橋 励: 講義と演習「コミュニケーション」他. 日生病院緩和ケア研修会, 9月, 2014, 大阪.
5. 高橋 励: 産業精神医学と薬物療法プロトコル. 保険薬局経営者セミナー, 10月, 2014, 大阪.
6. 高橋 励: 抗うつ薬に求められる特性および、抗うつ薬が効くとはどういうことか? システム工学的モデルの提案-. 持田製薬社内講演会, 10月, 2014, 大阪.
7. 江川 功: 眠りに悩む人々. 睡眠障害研究会, 11月, 2014, 大阪.
8. 木藤友実子: 糖尿病と認知症. 西区医師会, 11月, 2014, 大阪.
9. 木藤友実子: まだまだ知らない?! 認知症. ニッセイ看護研究会, 11月, 2014, 大阪.
10. 木藤友実子: 当院における認知症診療の現状. 大正区医師会, 2015. 2, 大阪.
11. 高橋 励: 産業精神診療の要約例, あわぎ産業医セミナー, 2015. 2, 大阪.
12. 高橋 励: 認知症の基礎知識と、アルツハイマー病についての当科の診療アイデア・展望, ニッセイ医学セミナー update, 2015. 2, 大阪.
13. 木藤友実子: 認知症を理解する, 西区認知症等高齢者支援地域連携事業, 2015. 3, 大阪.
14. 高橋 励: 座長, あわぎ神経精神病診療連携懇話会, 2015. 3, 大阪.
15. 高橋 励: 認知症の診療と予防, 市民公開講座 ニッセイ認知症医療介護セミナー, 2015. 3, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

（治験）

1. 久光製薬株式会社の依頼による特発性レストレスレッグス症候群患者を対象としたHP-3000の用量検索試験

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	高橋		木藤	木藤 (予約)	高橋		江川	江川 (予約)	高橋	高橋 (予約)
2診	木藤		青木		青木	青木	木藤		青木	

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診		
心理テスト	○ 診	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○：当院診察が必要

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

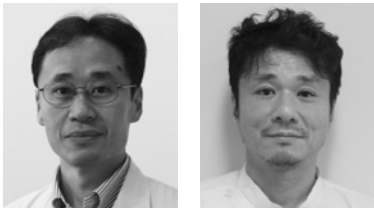
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	16,039	15,808	15,708	15,618	15,008
入院	5,481	5,306	5,049	6,661	5,267

表 4 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	67	45
双極性感情障害	6	53
不安障害	4	100
身体表現性障害	4	70
神経症性障害	4	19
詳細不明の認知症	3	39
重度ストレスへの反応および適応障害	3	72
統合失調症	2	157
強迫性障害＜強迫神経症＞	2	40
解離性〔転換性〕障害	2	25
摂食障害	2	7
アルツハイマー＜Alzheimer＞病	2	22
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	2	21
その他の全身性結合組織疾患	2	36
他に分類されるその他の疾患の認知症	2	205

小 児 科

スタッフ 部長：山根秀一（～7月）
部長代行：中西康詞（副部長：～7月、部長代行：8月～）
医 員：石川依子（11月～）
嘱託医：倭 和美（～11月）



1. 診療内容

当科では感染症を中心とした一般小児科診療と院内出生児の診療を行っている。各医師の専門性から、アレルギーや小児血液・腫瘍、小児神経、小児内分泌疾患も診療してきた。

平成26年度は山根部長、中西医員の体制で始まったが、7月に山根部長が退職したあとは中西部長代行が引き継ぎ、11月からは石川医員が加わった。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

平成26年12月以降の外来診察スケジュールを表1に示した。

2) 病棟体制

病床数は一般病棟9床、新生児病棟7床である。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

外来患者数は8,008人と前年度から894人減となった。

2) 入院診療実績（表2、3）

入院患者数は延べ1,787人と前年度から1,007人増となったが、常勤医の欠員補充が成ったことが大きい。入院患者の詳細は表3-1と表3-2を参照されたい。

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	中西	石川 (予約) (乳幼児 健診)	石川 (予約) (予防 注射)		池原		濱本 (1・3・5週) 遠藤 (2・4週)	池原 (予約) (アレルギー ギ)	石川	石川 (予約) (1ヶ月 健診)
2診	石川		中西		交代		中西		中西	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	10,470	11,067	10,092	8,902	8,008
入院	2,331	2,204	1,762	780	1,787

表3-1 H26.4～H27.3－小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
急性気管支炎	54	4
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	27	4
肺炎	23	5
急性鼻咽頭炎	10	3
喘息	9	5
感染症と推定される下痢および胃腸炎	7	4
部位不明のウイルス感染症	6	4
インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	6	3
多部位および部位不明の急性上気道感染症	6	5
無顆粒球症	5	5
尿路系のその他の障害	4	5
体液量減少（症）	4	3
急性咽頭炎	3	5
結節性多発性動脈炎および関連病態	3	7
伝染性単核症	3	4
呼吸の異常	3	4

表3-2 H26.4～H27.3－新生児入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
新生児の呼吸窮迫	30	7
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	24	4
妊娠期間短縮および低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	16	11
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	12	7
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	7	7
出産時仮死	6	6
新生児の哺乳上の問題	5	8
新生児吸引症候群	4	6
現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児および新生児	3	7
周産期に特異的なその他の感染症	2	9

スタッフ 部長：道清 勉
担当部長：藤井 眞
副 部 長：森田哲史
副 医 長：吉良俊彦



1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。頻度の多い疾患としては、胃癌、大腸癌などの悪性疾患、胆のう炎、虫垂炎、イレウスなどの急性腹症、胆石症や単径ヘルニアなどの良性疾患などである。その術式は、低侵襲治療として、腹腔鏡手術を積極的に導入しており、平成25年4月からは、早期胃癌には完全鏡視下の腹腔鏡下幽門側胃切除術を行っている。また、大腸癌に対しては、周囲への浸潤のない進行度であれば、原則として、腹腔鏡補助手術を行っている。虫垂炎や胆石症に対しても、腹腔鏡手術を第一選択として行っている。

手術以外には、緩和治療、消化管癌化学療法にも積極的に取り組んでいる。

緩和診療科と協力して、大量胸水、腹水に対して、CART治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表2の通りである。

研修医1名と常勤医4名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、外来診察、検査、手術などの担当でない者が病棟代理として対応している。

3) 検査スケジュール（表3）

上部内視鏡検査：毎週月曜日、木曜日の午前
下部内視鏡検査：毎週月曜日、水曜日の午後

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来患者数は表4の通りである。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数は表4の通りである。

手術症例の内訳は、全身麻酔149例、腰椎麻酔38例、

局所麻酔20例であった。

主な悪性腫瘍手術は、胃癌13例、結腸癌24例（内10例が腹腔鏡手術）、直腸癌13例（内3例が腹腔鏡手術）であった。

主な良性疾患手術は、胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリプ、胆嚢腺筋症が35例（内32例が腹腔鏡手術）、ヘルニア（単径、大腿、腹壁癒着、閉鎖孔）51例、虫垂炎14例（内13例が腹腔鏡手術）、痔核7例であった。胆嚢の手術では、クリップなどの異物を遺残させない上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術も行っている。急性虫垂炎に対しても腹腔鏡手術の適応を増やし、低侵襲手術を一層充実させている。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医	4名
日本外科学会指導医	1名
日本消化器外科学会専門医	2名
日本消化器外科学会指導医	1名
日本消化器病学会専門医	1名
日本大腸肛門病学会専門医	1名

5. 業績

論文・著書

1. 藤田祐亮, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史: 鼠径ヘルニアを契機に発見された腹膜偽粘液腫の1例. 日生医誌, 42:24-27, 2014.
2. 道清 勉: イレウスの診断と治療. 日生医誌, 42:53-66, 2014.
3. 魚田晃史, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史, 城光寺 龍: 小腸の非特異的炎症による腸閉塞の1例. 日生医誌, 42:77-81, 2014.
4. 生長久仁子, 道清 勉, 森田哲史, 吉良俊彦, 藤井 眞, 城光寺 龍: 成人にて発症した子宮内膜症を伴ったNuck管水腫の1例. 日生医誌, 42:82-87, 2014.

学会発表

1. 魚田晃史, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史, 藤井 眞: 小腸の非特異的炎症による腸閉塞の1例. 第599回大阪外科集談会, 5月, 2014, 大阪.
2. 小林 悠, 吉良俊彦, 森田哲史, 藤井 眞, 道清 勉: 虫垂炎を契機に診断された虫垂子宮内膜症の1例. 第600回大阪外科集談会, 7月, 2014, 大阪.

3. 石川那智, 道清 勉, 藤井 眞, 吉良俊彦, 森田哲史: 右鼠径部腫瘍を契機に発見された後腹膜脂肪肉腫の1例. 第601回大阪外科集談会, 9月, 2014, 大阪.
4. 枝廣龍哉, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史, 藤井 眞: 宿便を伴ったS状結腸穿孔の1例. 第602回大阪外科集談会, 11月, 2014, 大阪.
5. 末廣大知, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史, 藤井 眞: 漏出性胆汁性腹膜炎の1例. 第603回大阪外科集談会, 1月, 2015, 大阪.
6. 金井友宏, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史, 藤井 眞: 胆嚢癌合併重複胆嚢と術後診断された胆石性胆嚢炎の1例. 第604回大阪外科集談会, 3月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等
(臨床研究)

1. 胃切除後の続発性骨粗鬆症に対する薬物治療の有用性に関する前向き多施設ランダム化比較試験 (道清 勉)
2. 幽門狭窄を伴う根治切除不能進行胃癌に対する胃空腸バイパス手術と内視鏡下胃十二指腸ステント留置術のランダム化比較試験 (道清 勉)
3. 再発危険因子を有するStage II 大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究 (JFMC-46-1201) プロトコール同意説明文書の改訂による再審査 (森田哲史)
4. 胃癌術後瘻液瘻の保存的治療における経腸栄養と静脈栄養のランダム化比較試験 (道清 勉)
5. 胃切除患者に対する積極的な栄養介入効果に関するランダム化比較試験 (道清 勉)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	道清	道清			吉良 (2・4週)		道清 (2・4・5週)			
2診	藤井	藤井	手術	手術	南 (1・3・5週)	検査	藤井 (1・3週)	回診	手術	
3診	森田		交代	交代	森田	道清	吉良	交代	交代	交代

表2 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝術後回診	早朝術後回診	早朝術後回診		早朝術後回診
午後				部長回診、 術前術後症例検討	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
上部内視鏡	○ 紹・予						○ 紹・予			
下部内視鏡		○ 紹・予				○ 紹・予				

○: 当院診察が必要

表4 外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	6,284	5,763	5,088	4,729	4,327
入院	7,305	7,162	7,578	5,869	5,639

表5 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
結腸の悪性新生物	42	16
単径ヘルニア	39	10
胆石症	37	12
直腸の悪性新生物	34	20
結腸、直腸、肛門および肛門管の 良性新生物	26	2
胃の悪性新生物	20	30
急性虫垂炎	20	8
悪性新生物治療後の経過観察検査	18	1
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	15	9
消化器系の処置後障害、他に分類 されないもの	12	21
腸のその他の疾患	9	13

結腸の悪性新生物

疾患名	件数	平均在院日数
下行結腸の悪性新生物	18	15
虫垂の悪性新生物	11	13
横行結腸の悪性新生物	5	27
S状結腸の悪性新生物	3	20
上行結腸の悪性新生物	2	7
上行－横行結腸の悪性新生物	2	11
盲腸の悪性新生物	1	16

直腸の悪性新生物

疾患名	件数	平均在院日数
直腸S状結腸移行部の悪性新生物	11	16
直腸の悪性新生物	10	16

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
副部長：橋高信義



1. 診療活動

1) 紹介

平成20年10月より開設致した。平成22年4月より大阪大学乳腺内分泌外科より医局員の派遣を得て、2名体制となる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法室にて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行う。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応する。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応する。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を得て一期的同時再建を施行している。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指す。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施している。

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 統計

2014年の外来化学・分子標的療法は80～100例／月、超音波・マンモグラフィは約160例／月、手術数は62例（うち二期的再建5例）、ステレオガイド下マンモトーム生検は12例／年。

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会認定医 2名
がん治療認定医 1名
日本消化器外科学会認定医 1名
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
マンモグラフィ読影認定医 3名
日本外科学会専門医 2名

5. 業績

学会発表

1. 生長久仁子, 橋高信義, 西田幸弘, 城光寺 龍: 浸潤性微小乳

頭癌の組織像を呈したHER2陽性男性乳癌の1例. 第195回近畿外科学会, 5月, 2014, 大阪.

2. 橋高信義, 西田幸弘, 畠山明子, 大島千春: 当院における針生検（CNB）と手術標本でのKi67発現率の一致度に関する検討. 第22回日本乳癌学会学術総会, 7月, 2014, 大阪.

3. 西田幸弘, 橋高信義: 術後2年目より腫瘍マーカーの高値が続き8年目に認められた浸潤性乳管癌術後胃転移の1例. 第12回臨床腫瘍学会, 7月, 2014, 福岡.

研究会発表

1. 西田幸弘: 乳がん領域における骨粗鬆症. 社内勉強会, 8月, 2014, 大阪.

2. 西田幸弘: 乳がんの薬物治療. 社外講師勉強会, 8月, 2014, 大阪.

3. 西田幸弘: 乳がん新規抗癌剤の使用経験. 外部講師勉強会, 9月, 2014, 大阪.

4. 西田幸弘: よくわかる乳癌セミナー. 日本生命保険相互会社布施支社, 10月, 2014, 東大阪.

5. 西田幸弘: よくわかる乳癌セミナー. 大昭和製紙, 11月, 2014, 東大阪.

6. 西田幸弘: 遺伝性乳癌を疑われる挙児希望の若年乳癌の1例. EKB1 2015年2月（大阪）.

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
手術	手術	西田	西田	橋高	橋高 (検査・手術)	橋高	橋高	西田	西田

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術				
午後	手術		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	回診 検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	3,961	4,333	4,573	4,766	4,222
入院	1,182	1,267	1,587	2,094	1,781

表4 H26.4～H27.3－入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
乳房癌	133	13
乳腺微細石灰化症	13	2
乳房の良性新生物	9	4
その他の部位の続発性悪性新生物	4	13
末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	1	9
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	1	11
乳房のその他の障害	1	2
乳房の炎症性障害	1	2

整 形 外 科

スタッフ 部 長：松井 稔（リハビリテーション室長兼任）
 医 長：友永真人、秋本泰芳（10月～）
 副医長：緒方正明



1. 診療内容

当科は関節外科・骨折外傷を2本柱として診療を行ってきた。

関節外科では膝および股関節の関節症や関節リウマチに対して人工関節手術や外来での保存療法をおこなってきた。特に人工関節の進歩はめざましく、耐用性にすぐれたセラミックやクロスリンクポリエチレンなどを使用し長寿命が期待できる手術を行っている。また、最小侵襲手術などを取りいれ患者様の負担を最小限にしている。

外傷では高齢者の骨折が依然として増加しており、手術だけでなく圧迫骨折の入院加療にも対応してきた。ロコモティブシンドロームが世間に認知されつつあり、この領域の診療は今後必要不可欠で力を入れていくべき分野と考えられる。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携して早期退院・早期社会復帰を目標に治療に当たっている。そのため手術患者に対しては手術前からリハビリテーションをおこなうだけでなく、術後もできるかぎり早期から集中して運動療法をおこなってきた。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は30、常勤医3名（10月より4名）が担当し診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

脊髄造影（金曜日午後）

関節造影（木曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

常勤スタッフが4名から3名に減少したこともあり、外来患者数は減少した。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数は救急の積極的な受け入れにより増加した。

3) 検査実績

脊髄造影 52例

4. 認定医・専門医など

日本整形外科学会認定リウマチ医 1名
 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医 1名
 日本整形外科学会認定整形外科専門医 1名

5. 業績

論文・著書

1. Tomonaga M, Kudawara I: Ossifying chondrolipoma of the thigh: radiographic pathologic correlation, Current Orthopaedic Practice, 25:493-496, 2014.
2. 緒方正明, 友永真人, 松井 稔: Micronailを用いて手術を施行した橈骨遠位端骨折の2症例. 日生医誌, 42:21-23, 2014.

研究会発表

1. 松井 稔: ロコモティブシンドローム～その病態と対策～, あわぎフォーラム, 7月, 2014, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	友永 (初診)		松井 (初診)	特 診 関節外来 松井 (予約)	手術		友永 (再診)	友永 (予約)	松井 (再診)	松井 (予約)
2診	緒方 (再診)	手術	秋本 (再診)	交代 (初診)	手術		緒方 (初診)	回診	秋本 (初診)	特 診 股関節 外来 手術
リハ診	交代		交代		交代		交代	辻 (予約)	交代	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前					抄読会
午後				部長回診	術前カンファ

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脊髄造影										○
関節造影								○		

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	18,471	17,803	17,031	14,359	12,257
入院	9,998	9,502	10,041	9,009	10,255

表5 H26.4～H27.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
大腿骨骨折	51	49
膝関節症	49	37
腰椎および骨盤の骨折	25	37
肩および上腕の骨折	24	27
前腕の骨折	22	16
下腿の骨折、足首を含む	20	23
整形外科的経過観察ケア	18	7
股関節症	16	33
その他の椎間板障害	13	22
背部痛	11	15

スタッフ 部 長：東山真里
副部長：大川たをり
医 長：高橋玲子
専攻医：西本知子（2月～）
常勤嘱託医：溝口奈穂（～12月）



1. 診療活動

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、尋常性白斑などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月12日の「皮膚の日」に患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。頭皮のスキンケア・高齢者のスキンケアなどにつき講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）全身型紫外線照射装置（UVA、UVB、ナローバンドUVB）、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

2. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】月平均新患数は10名で再診は延べ300名余り。（1）1.外用療法 2.光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射－全身型、エキシマライト） 3.内服療法（レチノイド、シクロスポリンA） 4.生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択（2）扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因につき精査。（3）重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスティキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏功。入院、外来とも可能。（4）乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。2013年より関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。（5）療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。定期的に学習会も開催。【アトピー外来】重症例では光線療法やネオオラル療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。【エキシマ外来】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。

3. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
外来診療 主治医制で再診は予約制。
原則3診体制で診療。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午後）、木（午前）、予約制。アトピー外来は木・金（午前）。
手術：水曜午前は局所麻酔、金曜午後は形成外科医の協力のもと全麻・腰麻を含む手術
- 2) 病棟体制
病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は年間882名、1日平均10名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、薬疹多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍、自己免疫性水疱症など
- 3) 検査スケジュール（表2）
月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。
表在エコー検査は随時。

4. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
2014年の外来患者数は1日平均108名。
紹介患者数 46名/月。
年間手術件数169件（全身、腰椎、麻酔手術含む）
- 2) 入院診療実績（表3、4）
- 3) 検査実績
皮膚生検数 300件/年

5. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医：3名

6. 業績

論文・著書

1. 東山真里, 横関博雄, 片山一朗編: 小児によくみられる皮膚疾患アトラス 鑑別と治療のポイント 外用薬の種類と使い方: 4. ビタミンD₃の使い方. 195-200頁, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2015.

学会発表

1. 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里: 炎症性腸炎と皮膚疾患. 第30回日本臨床皮膚科医会, 4月, 2014, 横浜.
2. 高橋玲子, 大川たをり, 岡田みどり, 東山真里: 小児の蕁麻疹様血管炎の女児の1例. 第443回日本皮膚科学会大阪地方会, 5月, 2014, 大阪.

- 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里: 当科で経験した海洋生物による皮膚障害. 第443回大阪地方会, 5月, 2014, 大阪.
- 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり, 辻 成佳: アダリムマブにて治療した乾癬および関節症性乾癬の長期治療成績. 第113回, 日本皮膚科学会総会, 5月, 2014, 京都.
- 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里: 主に露光部に皮疹が出現するHailey-Hailey病. 第113回, 日本皮膚科学会総会, 5月, 2014, 京都.
- 東山真里, 溝口奈穂, 高橋玲子, 大川たをり, 辻 成佳: アダリムマブにて治療した関節症性乾癬の長期治療成績. 第29回日本乾癬学会, 9月, 2014, 高知.
- 東山真里: 乾癬の併存疾患を考える. 第78回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 10月, 2014, 青森.
- 東山真里: ターゲット型エキシマランプによる皮膚疾患の治療. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 10月, 2014, 大阪.
- 東山真里: 乾癬治療新時代—QOLの向上をめざして. 第5回日本皮膚科心身医学会ランチョンセミナー, 2月, 2015, 鳥羽.
- 東山真里: 乾癬治療における外用療法の役割-配合剤をどのように使うべきか. 第78回日本皮膚科学会 東京支部総会イブニングセミナー, 2月, 2015, 東京.
- 横井一範, 大川たをり, 吉岡佐紀, 高橋玲子, 東山真里: 両側側頭動脈炎の1例. 第447回日本皮膚科学会大阪地方会, 3月, 大阪.

研究会発表

- 東山真里: 外用療法は乾癬治療の第一歩 なれどトータルケアも重要. 乾癬学術フォーラム, 7月, 2014, 大阪.
- 東山真里: 乾癬治療のKey-乾癬治療ネットワークと患者会の役割. 第3回鹿児島ひふBIO研究会, 7月, 2014, 鹿児島.
- 東山真里: 関節症性乾癬を見逃さないためのポイント 関節は痛みませんか?. 第7回新しい乾癬治療を考える会, 11月, 2014, 神戸.
- 東山真里: 乾癬治療のKey-より良い病診連携構築のために. OA会, 11月, 2014, 大阪.
- 東山真里: 乾癬とはどんな病気-治療に大切なことは?. 市民公開講座 乾癬の治療, 11月, 2014, 岐阜.
- 東山真里: 乾癬におけるネオール療法によるB型肝炎の再活性化-投与前スクリーニングと治療. ネオールの適正使用と副作用マネージメントを考える会, 12月, 2014, 大阪.
- 東山真里: 乾癬治療のKey-病診連携の重要性. Psoriasis Symposium in Osaka. 1月, 2015, 大阪.
- 東山真里: 抗がん剤の皮膚障害-多職種医療チームによるRash managementの重要性. 第98回大和免疫・アレルギー研究会, 2月, 2015, 生駒.

研究助成・治験・臨床研究等

(治験)

- イーライリリーの依頼による中等症から重症の日本人乾癬患者を対象としたLY2439821の有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検長期投与試験
- ノバルティスファーマ株式会社の依頼によるAIN457の乾癬患者を対象とした長期安全性及びびう有効性を評価する第Ⅲ相試験 (継続試験)
- 協和発酵キリン株式会社の依頼による乾癬患者を対象としたKHK4827の第Ⅲ相臨床試験 (長期投与試験)
- マルホ株式会社の依頼によるM801801の尋常性乾癬に対する第Ⅲ相臨床試験
- 協和発酵キリンの依頼による乾癬患者を対象としたKHK4827の第Ⅲ相臨床試験 (継続長期投与試験)

(臨床研究)

- 尋常性乾癬に対する外用療法治療実態調査 (東山真里)

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	西本		辻真紀 (初診)		小林		大川		大川 (初診)	
2診	東山 (初診)	検査 パッチテスト 生検等 (回診)	越智	乾癬 外来	東山 (初診)	院内 紹介 患者	アレルギー 外来	乾癬 外来 東山	アレルギー 外来 東山	手術
3診	大川				林		西本	乾癬性 関節炎 外来	辻厚子	
外来 処置	大川		乾癬外来 東山		手術				交代	

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診								

○: 当院診察が必要

表3 外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	28,539	27,681	27,556	27,548	26,570
入院	4,410	3,365	3,593	3,576	3,226

表4 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
帯状疱疹	81	10
蜂巣炎	32	12
乾癬	24	25
皮膚および皮下組織の毛包嚢胞	14	5
摂取物質による皮膚炎	12	14
良性脂肪腫性新生物 (脂肪腫を含む)	9	5
その他の軟部組織障害、他に分類されないもの	6	16
アトピー性皮膚炎	5	16
丹毒	4	9
皮膚の上皮内癌	4	7
結節性紅斑	4	17
ヘルペスウイルス感染症	3	10
皮膚の悪性黒色腫	3	4
皮膚のその他の悪性新生物	3	9
メラニン細胞性母斑	3	8
皮膚のその他の良性新生物	3	5
紫斑病およびその他の出血性病態	3	26
慢性単純性苔せんく癬>および痒疹	3	33
じんまく蕁麻疹>疹	3	7
下肢の潰瘍、他に分類されないもの	3	23
詳細不明の接触皮膚炎	3	12

スタッフ 副院長兼部長：黒田昌男
副部長：福井辰成
医 長：福本 亮



1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増えており、当科でも、前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

泌尿器科外来 1～2 診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

膀胱内圧測定、尿道抵抗測定：泌尿器科検査室（火・木曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ12,114人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,751人であった。

3) 治療実績

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術76例、根治的膀胱全摘除術5例（自排尿型代用膀胱形成術2例・回腸導管造設術3例）に対して行った。4例に多剤併用全身化学療法を施行した。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として、再

発しやすい癌に対してBCG膀胱内注入療法を施行した。

膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしている。

前立腺生検を85例に行い、新たに前立腺癌と診断された46症例に対して、抗男性ホルモン療法28例、前立腺全摘除術6例、強度変調放射線治療（IMRT）3例、内分泌療法+IMRT49例を行った。3例は悪性度が低く、余命に影響を与えない小さい癌としてPSA監視療法（治療せず経過観察し進行する癌に対しては根治療法を行う）とした。内分泌療法では、抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間歇的抗男性ホルモン療法を取り入れている。

前立腺肥大症に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）16例、前立腺被膜下摘除術6例を行った。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主に行っている。

尿路結石（腎結石、尿管結石）に対して、入院して体外衝撃波碎石術（ESWL）を行ったのが26例、外来通院で44例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を4例に、経尿道的尿管碎石術を7例に行った。経尿道的手術以外の内視鏡手術を8例に行った。腎癌に対する腎摘除術1例、腎部分切除術1例、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術5例、副腎摘除術1例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。現在、対象としているのは、腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、水腎症、尿管狭窄、副腎腫瘍などである。腎悪性腫瘍で、開腹手術を行った症例は、4例で、すべて小切開による腎部分切除術である。

慢性腎不全症例に対して血液透析を行った。7例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行った。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医 3名
日本がん治療認定医機構認定医 2名
日本がん治療認定医機構暫定教育医 1名

5. 業績

論文・著書

1. 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成: BCG維持療法の経験. 泌尿器外科, 28:334-335, 2015.

学会発表

1. 岸本 望, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: 自排尿型代用膀胱(新膀胱)における排尿状態の検討, 第102回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2014, 神戸.
2. 福本 亮, 岸本 望, 福井辰成, 黒田昌男: 日生病院でのデガレリクスの使用経験. 第102回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2014, 神戸.
3. 福本 亮, 田中雅登, 高橋 徹, 福井辰成, 黒田昌男: 初回投与量80mgでのデガレリクスの使用経験. 第64回日本泌尿器科学会中部総会, 10月, 2014, 浜松.

研究会発表

1. 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成: BCG維持療法の経験. 第7回BCG注入療法研究会, 11月, 2014,

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	黒田	黒田	黒田	回診	交代	手術	福井	特殊検査	福井	福井
2診	福本	特殊検査	交代	特殊検査			福本	福本	交代	手術

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
膀胱内圧測定 尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影		○診		○診				○診		

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	12,165	12,596	12,535	12,201	12,114
入院	4,704	4,461	4,574	3,759	3,751

表4 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
膀胱の悪性新生物	98	11
前立腺の悪性新生物	71	7
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	34	2
腎結石および尿管結石	28	3
前立腺肥大	25	9
急性腎盂腎炎	18	10
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	14	5
腎盂の悪性新生物	13	17
前立腺の炎症性疾患	11	8
腎盂を除く腎の悪性新生物	7	12

スタッフ 副院長兼部長：船渡孝郎（～6月）、藤田征巳（7月～）

担当部長：佐伯典厚

副 部 長：大塚博文、橋本奈美子

副 医 長：高山敬範、矢野悠子、尾上昌世、増田公美（7月～）

専 攻 医：田中雄介

常勤嘱託：吉見佳奈

〈兼任〉船渡孝郎（女性骨盤底センター長、地域医療総合窓口あったかサポートセンター長、ニッセイ予防医学センター顧問）



1. 診療内容

婦人科は、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の7割を占めている。

婦人科悪性腫瘍についても、後腹膜リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、術後放射線治療を行っている。

先進医療については2011年1月：腹腔鏡下子宮体がん根治術、2013年5月1日：腹腔鏡下仙骨腫固定術（骨盤臓器脱）の認可を近畿厚生局から受け、最先端の医療を提供している。

周産期においては、自然分娩を基本としているため24時間の緊急時対応の体制をしいている。また助産師外来・母乳育児相談・マタニティビクス・ヨガなどを取り入れている。また妊婦の方に安心して出産していただけるように産科医療補償制度に加入している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

当科は主治医（受け持ち医）制を引いている。

3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

H26年度

・分娩数：476件

・総手術総数：1,108件

腹腔鏡下手術

子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）289件

腹腔鏡下腔式子宮全摘術 210件

腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 183件

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がん）9件

子宮鏡下手術

子宮鏡下子宮筋腫摘出術 55件

子宮内膜ポリープ切除術 32件

開腹手術

子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）10件

子宮悪性腫瘍手術 7件

帝王切開術：75件

骨盤臓器脱

膀胱脱手術（メッシュ使用）25件

子宮脱手術

（陰壁形成手術及び子宮位置矯正術）7件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 4名

日本内視鏡外科学会技術認定医 2名

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1名

日本産科婦人科学会専門医 11名

日本性感染症学会専門医 1名

母体保護法指定医 6名

日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 1名

麻酔標榜医 1名

5. 業績

論文・著書

- Mugita M, Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Inaoka M, Funato T: Effectiveness of ultrasound-guided transversus abdominis plane block and rectus sheath block in pain control and recovery after gynecological transumbilical single-incision laparoscopic surgery. Clin Exp Obst & Gyn, 41, 627-32, 2014.
- Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Funato T: The analgesic efficacy of ultrasound-guided transversus abdominis plane block with mid-axillary approach after gynecologic laparoscopic surgery: A randomized controlled trial. J Anaesth Clin Pharm, 31, 67-71, 2014.
- Matsuzaki S, Enomoto T, Serada S, Yoshino K, Nagamori S, Morimoto A, Yokoyama T, Kim A, Toshihiro Kimura, Ueda Y, Fujita M, Fujimoto M, Kanai Y, Kimura T, Naka T: Annexin A4-conferred platinum resistance is mediated by the copper transporter ATP7A. Int J Cancer, 134: 1796-1809, 2014.
- Morimoto A, Ueda Y, Yokoi T, Tokizawa Y, Yoshino K, Fujita M, Toshihiro Kimura, Kobayashi E, Matsuzaki

- S, Egawa-Takata T, Sawada K, Tsutsui T, Kimura T: Perioperative venous thromboembolism in patients with gynecological malignancies: a lesson from four years of recent clinical experience. *Anticancer Res*, 34:3589-3595, 2014.
 5. Morimoto A, Serada S, Enomoto T, Kim A, Matsuzaki S, Takahashi T, Ueda Y, Yoshino K, Fujita M, Fujimoto M, Kimura T, Naka T: Annexin A4 induces platinum resistance in a chloride- and calcium-dependent manner. *Oncotarget*, 5:7776-7787, 2014.
 6. Satoko Matsuzaki, Shinya Matsuzaki, Tanaka Y, Fujita M, Yoshino K, Kimura T: Large uterine cervical adenomyoma excised by vaginal approach: case report, images, and literature review. *J Minim Invasive Gynecol*, 21:954-958, 2014.
 7. Morimoto A, Ueda Y, Enomoto T, Takata-Egawa T, Matsuzaki S, Kobayashi E, Kimura T, Yoshino K, Fujita M, Kimura T: Management of advanced stage endometrial cancer. *Endometrial cancer: current epidemiology, detection and management* (Edited Farghaly, S. A.), Chapter12:207-228, NOVA Science Publishers
 8. Otake A, Yoshino K, Ueda Y, Sawada K, Mabuchi S, Kimura Toshihiro, Kobayashi E, Isobe A, gawa-Takata, T, Matsuzaki S, Fujita M, Kimura T: Usefulness of duloxetine for Paclitaxel-induced peripheral neuropathy treatment in gynecological cancer patients. *Anticancer Res*, 35:359-363, 2015.
 9. Ohyagi-Hara C, Sawada K, Isobe A, Mabuchi S, Kobayashi E, Ueda Y, Yoshino K, Fujita M, Tsutsui T, Kimura T: Efficacies and pregnant outcomes of fertility-sparing treatment with medroxyprogesterone acetate for endometrioid adenocarcinoma and complex atypical hyperplasia: our experience and a review of the literature. *Arch Gynecol Obstet*, 291:151-157, 2015.
 10. Ueda Y, Sobue T, Morimoto A, Egawa-Takata T, Hashizume C, Kishida H, Okamoto S, Yoshino K, Fujita M, Enomoto T, Tomine Y, Fukuyoshi J, Kimura T: Evaluation of a free-coupon program for cervical cancer screening among the young: a nationally funded program conducted by a local government in Japan. *J Epidemiol*, 25(1):50-6, 2015
 11. Hiramatsu K, Kobayashi E, Ueda Y, Egawa-Takata T, Matsuzaki S, Kimura Toshihiro, Sawada K, Yoshino K, Fujita M, Optimal timing for drainage of infected lymphocysts after lymphadenectomy for gynecologic cancer. *Int J Gynecol Cancer*, 25:337-341, 2015.
 12. 小林栄仁, 細井文子, 澤田健二郎, 吉野 潔, 筒井建紀, 藤田征巳, 木村 正: 早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術. 産婦人科の進歩, 66:265-270, 2014.
- 学会発表
1. Hiramatsu K, Enomoto T, Serada S, Yoshihara K, Hori Y, Fujimoto M, Ueda Y, Yoshino K, Fujita M, Morii E, Naka T: A proteomic analysis demonstrates similar expression pattern between ovarian and endometrial high-grade serous carcinoma beyond an organ. The 15th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society, 11月, 2014, オーストラリア, メルボルン.
 2. 矢田(橋本) 奈美子, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院における早期子宮体がん症例に対する腹腔鏡下手術の経験. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 3. 高田友美, 上田 豊, 森本晶子, 松崎慎哉, 小林栄仁, 木村敏啓, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 当科で経験した子宮頸部小細胞癌6例の検討. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 4. 上田 豊, 森本晶子, 高田友美, 松崎慎哉, 小林栄仁, 木村敏啓, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 子宮がん検診無料クーポンは検診受診率にどのような影響を及ぼしたのか. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 5. 吉見佳奈, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 矢田(橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 異所性妊娠に対する薬物療法と手術療法についての検討. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 6. 大塚博文, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 矢田(橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院での腹腔鏡下仙骨腔固定術(LSC:Laparoscopic Sacral Colpopexy). 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 7. 森本晶子, 松崎慎哉, 小林栄仁, 木村敏啓, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 榎本隆之, 仲 哲治, 木村 正: Annexin A4の発現は細胞内クロロイオン濃度を上昇させ, プラチナ耐性を誘導している. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 8. 久保田哲, 松崎慎哉, 高田友美, 小林栄仁, 木村敏啓, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 馬淵誠士, 澤田健二郎, 筒井建紀, 木村 正: 婦人科癌のリンパ節転移の術前診断におけるsize criteriaとPET/CTの有用性の比較. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 9. 小林栄仁, 細井文子, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 金川武司, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 初期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘の試み. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 10. 中川 慧, 平松宏祐, 清原裕美子, 森本晶子, 松崎慎哉, 高田友美, 小林栄仁, 木村敏啓, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 仲哲治, 木村 正: SOCS-1はJAK/STAT依存的, 非依存的に卵巣癌の増殖を抑制する. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 11. 清原裕美子, 藤田征巳, 吉野 潔, 上田 豊, 木村敏啓, 松崎慎哉, 木村 正: 子宮体癌に対するオーダーメイド分子標的治療のためのCTOSを用いた基礎的研究. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 12. 松崎慎哉, 森本晶子, 中川 慧, 平松宏祐, 木村敏啓, 小林栄仁, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 仲 哲治, 木村 正: IMP-2は子宮内膜癌におけるパクリタキセル耐性に関与している. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 13. 羽田野悠子, 祝小百合, 尾上昌世, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 矢田(橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院での細径鉗子を使用した腹腔鏡下卵巣腫瘍手術. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 14. 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 矢田(橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院における骨盤臓器脱の治療と成績. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 15. 平松宏祐, 吉野 潔, 高田友美, 松崎慎哉, 木村敏啓, 小林栄仁, 上田 豊, 藤田征巳, 仲 哲治, 木村 正: 網羅的タンパク解析およびバイオインフォマティクスを用いた類内膜癌発生臓器の鑑別マーカーの探索. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 16. 高山敬範, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 大塚博文, 矢田(橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 子宮温存治療を行った帝王切開癒着部妊娠の一例. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 17. 角田 守, 小林栄仁, 横井 猛, 筒井建紀, 木村敏啓, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 早期子宮体癌に対する腹腔鏡下根治手術34例における開腹手術との比較検討. 第66回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月, 2014, 東京.
 18. 松崎聖子, 吉野 潔, 堀由美子, 高田友美, 上田 豊, 和田直樹, 池田純一郎, 藤田征巳, 森井英一: 子宮体部漿液性腺癌32例における子宮頸部細胞診と臨床所見の検討. 第52回日本臨床細胞学会春期大会, 6月, 2014, 横浜.
 19. 吉見佳奈, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚

- 博文, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 不安情動発作および薬物依存類似症状にて発症した卵巣癌脳転移の1例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
20. 大塚博文, 吉見佳奈, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: LSC (Laparoscopic Sacra Colpopexy) の術式について. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
21. 祝小百合, 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腔閉鎖術後に, 子宮留膿症の子宮穿孔によって発症した汎発性腹膜炎の1例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
22. 羽田野悠子, 祝小百合, 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 高山敬範, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院での腹腔鏡下卵巣腫瘍手術における細径鉗子使用. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
23. 大塚博文, 羽田野悠子, 祝小百合, 吉見佳奈, 尾上昌世, 高山敬範, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) での膜構造に基づいた後腹膜腔展開. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
24. 繁田直哉, 小林栄仁, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 未熟奇形腫の再発に対して腹腔鏡下に病変を摘出し, Growing teratoma syndrome の診断を得た1例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
25. 小林栄仁, 角田 守, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 筒井建紀, 藤田征巳, 木村 正: 腹腔鏡下広汎子宮全摘術を施行した初期子宮頸癌7症例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
26. 鶴房聖子, 吉野 潔, 木村敏啓, 小林栄仁, 磯部 晶, 上田 豊, 馬淵誠士, 澤田健二郎, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 卵巣癌肉腫の1症例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
27. 繁田直哉, 吉野 潔, 木村敏啓, 小林栄仁, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 腹膜原発明細胞腺癌の1例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
28. 中川 慧, 上田 豊, 木村敏啓, 小林栄仁, 磯部 晶, 馬淵誠士, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: プラチナ抵抗性の再発子宮体癌に対してGLIF療法が著効した1例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
29. 小泉花織, 澤田健二郎, 繁田直哉, 大須賀慶悟, 前田 登, 東原大樹, 木村敏啓, 小林栄仁, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 富山憲幸, 木村 正: 筋腫に対する子宮動脈塞栓術 (UAE) 施行後に付属器腫瘍をきたした2症例. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
30. 高山敬範, 大塚博文, 羽田野悠子, 祝小百合, 吉見佳奈, 尾上昌世, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術における経膈筋腫搬出の試み. 第130回近畿産科婦人科学会学術集会, 6月, 2014, 大阪.
31. 矢田 (橋本) 奈美子, 高山敬範, 尾上昌世, 大塚博文, 田中雄介, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 当院におけるKM-CARTの使用経験. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
32. 松崎聖子, 藤田征巳, 松崎慎哉, 高田友美, 小林栄仁, 木村敏啓, 上田 豊, 吉野 潔, 木村 正: 術前診断が困難であったCervical adenomyomaの1例. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
33. 久保田哲, 小林栄仁, 松崎慎哉, 高田友美, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 子宮頸癌IB期症例の術後病理標本における子宮傍組織浸潤についての検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
34. 中川 慧, 上田 豊, 平松宏祐, 清原裕美子, 森本品子, 松崎慎哉, 高田友美, 小林栄仁, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: タキサ
- ン・プラチナ抵抗子宮体癌に対するGLIF療法の有効性と有害事象の検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
35. 小林栄仁, 角田 守, 松崎慎哉, 高田友美, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
36. 繁田直哉, 木村敏啓, 小林栄仁, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 当院で経験した後腹膜腫瘍についての検討. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
37. 馬淵誠士, 黒田浩正, 磯橋文明, 笹野智之, 小林栄仁, 木村敏啓, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 筒井建紀, 藤田征巳, 木村 正: 子宮頸癌に対するパクリタキセル・カルボプラチンを用いた同時化学放射線治療. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
38. 森本品子, 上田 豊, 高田友美, 大道正英, 寺井義人, 角 俊幸, 市村友季, 神崎秀陽, 村田紘未, 万代昌紀, 中井英勝, 木村 正, 藤田征巳, 吉野 潔, 齊藤淳子, 祖父江友孝, 関根正幸, 榎本隆之, 堀越順彦, 高木 哲: HPVワクチン副反応報道・厚労省勧告が接種行動に与えた影響 -大阪産婦人科医会 OCEAN STUDY-. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7月, 2014, 宇都宮.
39. 橋本 (矢田) 奈美子, 河野まひる, 清水阿彰子, 光田信明, 甲村弘子: 精神発達遅滞を伴う若年女性の月経異常に関する検討. 第33回日本思春期学会, 7月, 2014, 筑波.
40. 久保田哲, 小林栄仁, 松崎慎哉, 高田友美, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正: 子宮頸癌IB期症例の術後病理標本における子宮傍組織浸潤についての検討. 第52回日本癌治療学会, 8月, 2014, 横浜.
41. 上田 豊, 祖父江友孝, 森本品子, 高田友美, 松崎慎哉, 小林栄仁, 木村敏啓, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 子宮がん検診無料クーポンが子宮がん検診受診率に与えた影響. 第52回日本癌治療学会, 8月, 2014, 横浜.
42. 大塚博文, 田中雄介, 高山敬範, 尾上昌世, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 〈シンポジウム〉テーマ: 骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下手術-腹腔鏡下手術仙骨固定術の手法と成績-演題: 当院でのLSC術式と手術成績. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
43. 大塚博文, 田中雄介, 高山敬範, 尾上昌世, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 膜構造を意識したTLHにおける後腹膜腔展開. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
44. 尾上昌世, 大塚博文, 田中雄介, 高山敬範, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院産婦人科における緊急腹腔鏡手術の現状. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
45. 角田 守, 小林栄仁, 横井 猛, 筒井建紀, 木村敏啓, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 早期子宮体癌における腹腔鏡下根治手術46例の検討. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
46. 小林栄仁, 角田 守, 森本品子, 高田友美, 松崎慎哉, 橋本香映, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 腹腔鏡手術におけるトロッカー清掃具の開発. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
47. 小林栄仁, 角田 守, 森本品子, 高田友美, 松崎慎哉, 橋本香映, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: ICG (インドシアニンググリーン) 蛍光イメージングによる腹腔鏡下センチネルリンパ生検. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
48. 小林栄仁, 角田 守, 森本品子, 高田友美, 松崎慎哉, 橋本香映, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正: 子宮悪性腫瘍における膀胱子

宮靱帯処理の工夫. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.

49. 小林栄仁, 角田 守, 森本晶子, 高田友美, 松崎慎哉, 橋本香映, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:子宮頸がんに対する腹腔鏡下根治術. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
50. 高山敬範, 尾上昌世, 大塚博文, 田中雄介, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 矢田 (橋本) 奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎:腹腔鏡下子宮筋腫核出術 (LM) におけるモルセレーターを用いない筋腫搬出. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
51. 角田 守, 小林栄仁, 梶本恵津子, 木村敏啓, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:ダグラス窩に発生したparasitic dermoid cystを認めた一例. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
52. 島津由紀子, 小林栄仁, 藤田征巳, 上田 豊, 木村敏啓, 松崎慎哉, 高田友美, 木村 正:腹腔内出血を来した腹腔鏡手術を行った臨床的侵入奇胎の1例. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
53. 繁田直哉, 小林栄仁, 木村敏啓, 磯部 晶, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 筒井建紀, 木村 正:未熟奇形腫の術後にGrowing teratoma syndromeと診断された2例. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2014, 鹿児島.
54. 中川 慧, 世良田聡, 森本晶子, 高田友美, 木村敏啓, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正, 仲 哲治:SOCS-1はJAK/STAT-3依存的経路に加え非依存的経路でも卵巣癌細胞株のアポトーシスを誘導する. 第73回日本癌学会学術総会, 9月, 2014, 横浜.
55. 高田友美, 上田 豊, 森本晶子, 寺井義人, 角 俊幸, 木村 正, 藤田征巳, 齊藤淳子, 万代昌紀, 中井英勝, 榎本隆之:子宮頸がん予防ワクチンの副反応報道・積極的勧奨一時中止後の接種行動に影響を与えた因子に関するインターネット調査. 第73回日本癌学会学術総会, 9月, 2014, 横浜.
56. 清原裕美子, 遠藤洋子, 吉野 潔, 木村敏啓, 上田 豊, 藤田征巳, 木村 正, 井上正宏:子宮体がんの新規三次元培養CTOS法におけるmTOR阻害剤感受性の多様性. 第73回日本癌学会学術総会, 9月, 2014, 横浜.
57. 橋本 (矢田) 奈美子, 佐伯典厚:腹腔鏡下単純子宮全摘術を安全に行うために. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 10月, 2014, 岩手.
58. 角田 守, 小林栄仁, 梶本恵津子, 木村敏啓, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:腎移植後患者に対して, 腹腔鏡下準広汎子宮全摘術を行った一例. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 10月, 2014, 岩手.
59. 角田 守, 小林栄仁, 梶本恵津子, 木村敏啓, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:早期子宮体癌における腹腔鏡下根治手術46例の検討. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 10月, 2014, 岩手.
60. 小林栄仁, 角田 守, 森本晶子, 松崎慎哉, 高田友美, 木村敏啓, 上田 豊, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:ワークショップ婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術 演題:腹腔鏡下子宮頸癌根治術におけるエンドグラブを用いた膀胱子宮靱帯処理の工夫. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 10月, 2014, 岩手.
61. 矢田 (橋本) 奈美子, 高山敬範, 尾上昌世, 大塚博文, 田中雄介, 羽田野悠子, 吉見佳奈, 佐伯典厚, 船渡孝郎:腹腔鏡下子宮全摘術を考える～安全性の観点から～. 第37回日本産婦人科手術学会, 10月, 2014, 札幌.
62. 角田 守, 小林栄仁, 梶本恵津子, 木村敏啓, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:腎移植後患者に対して, 腹腔鏡下準広汎子宮全摘術を行った一例. 第37回日本産婦人科手術学会, 10月, 2014, 札幌.
63. 小林栄仁, 角田 守, 橋本香映, 木村敏啓, 磯部 昌, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:医学部生, 研修医教育のための術中動画教育システム. 第37回

日本産婦人科手術学会, 10月, 2014, 札幌.

64. 小林栄仁, 角田 守, 森本晶子, 高田友美, 松崎慎哉, 木村敏啓, 磯部 昌, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 吉野 潔, 藤田征巳, 木村 正:エンドグラブを用いた膀胱子宮靱帯前層処理の工夫. 第37回日本産婦人科手術学会, 10月, 2014, 札幌.
65. 橋本奈美子:〈ワークショップ〉テーマ:病診連携 演題:内膜症性嚢胞の術後管理～病診連携で再発を防ぐ. 第131回近畿産婦人科学会学術集会, 10月, 2014, 大阪.
66. 大八木知史, 澤田健二郎, 筒井建紀, 藤田征巳, 上田 豊, 磯部 晶, 小林栄仁, 木村 正:子宮体癌・子宮内膜異型増殖症に対する妊孕性温存療法の後方視的検討. 第131回近畿産婦人科学会学術集会, 10月, 2014, 大阪.
67. 角田 守, 吉野 潔, 木村敏啓, 小林栄仁, 馬淵誠士, 上田 豊, 澤田健二郎, 木村 正:子宮頸がんに対して妊孕性温存を目的に広汎子宮頸部摘出術を試みた41症例の検討. 第131回近畿産婦人科学会学術集会, 10月, 2014, 大阪.
68. 橋本奈美子:地域連携と子宮内膜症. 第8回子宮内膜症セミナー, 11月, 2014, 大阪.
69. 上田 豊, 高田友美, 森本晶子, 八木麻未, 寺井義人, 市村友季, 角 俊幸, 村田紘未, 中井英勝, 万代昌紀, 関根正幸, 齊藤淳子, 堀越順彦, 高木 哲, 榎本隆之:子宮頸がん予防ワクチンの副反応報道・厚労省積極的勧奨一時中止後の再普及に向けて～インターネット調査から見てきたもの～. 第18回日本ワクチン学会, 12月, 2014, 福岡.
70. 橋本 (矢田) 奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎:子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する前方視的ランダム化比較試験. 第36回日本エンドメトリオーシス学会, 1月, 2015, 東京.
71. 橋本 (矢田) 奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎:高齢女性のtotal supportをめざして～女性骨盤底センターの果たす役割. 第9回日本骨盤臓器脱手術学会, 3月, 2015, 東京.

研究会発表

1. 橋本 (矢田) 奈美子:内膜症性嚢胞の術後再発予防に関する検討. 第3回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2014, 大阪.
2. 平松宏祐, 榎本隆之, 世良田聡, 吉原弘祐, 上田 豊, 藤本 穰, 吉野 潔, 藤田征巳, 森井英一, 仲 哲治, 木村 正:網羅的タンパク解析およびバイオインフォマティクスを用いた子宮体部および卵巣原発のhigh-grade serous carcinomaの組織類似性の証明. 第2回婦人科がんバイオマーカー研究会学術集会, 7月, 2014, 東京.
3. 佐伯典厚:技術認定医レクチャー 内視鏡手術技術認定医への道のり 産婦人科編. 第27回近畿内視鏡外科研究会, 9月, 2014, 神戸.
4. 橋本奈美子:女性ホルモンと上手に付き合おう! 東大阪市立男女共同参画センター イコラーム こころとからだ講座, 3月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(研究助成)

1. 藤田征巳, 吉野 潔, 上田 豊, 木村敏啓, 小林栄仁:科学初代培養細胞をもちいた子宮体部癌肉腫の新しい治療戦略の確立. 研究費補助金基盤研究C, 独立行政法人日本学術振興会, 2014.
2. 吉野 潔, 藤田征巳, 上田 豊, 木村敏啓, 小林栄仁, 松崎慎哉, 高田友美, 井上正宏, 仲 哲治:新しい初代3次元培養法を用いた子宮体癌の再発・播種に関与するバイオマーカーの探索. 科学研究費補助金基盤研究C, 独立行政法人日本学術振興会, 2014.
3. 上田 豊, 小林栄仁, 藤田征巳, 榎本隆之, 吉野 潔, 木村敏啓:iTRAQ法による子宮体癌化学療法抵抗性に関わる蛋白質の同定とメカニズムの解析. 科学研究費補助金基盤研究C, 独立行政法人日本学術振興会, 2014.

(臨床研究)

1. 子宮頸がんに対する腹腔鏡下手術に関する臨床試験（佐伯典厚）
2. 本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する疫学研究（橋本奈美子）

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	藤田	藤田	佐伯	佐伯	藤田	藤田	船渡	船渡	佐伯	佐伯
2診	田中	田中	高山	高山	吉見	吉見			増田	増田
3診	尾上	尾上	橋本	橋本	大塚	大塚	元林		矢野	矢野
	手術	手術	手術	手術	手術		手術	手術	手術	回診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会		周産期 カンファレンス		
午後				術前 カンファレンス	部長回診 画像カンファ

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
子宮鏡検査		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予				○ 紹・予

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	18,280	17,012	17,371	21,069	21,883
入院	13,355	12,406	12,201	11,909	12,532

表5 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	396	8
単胎自然分娩	320	7
卵巣の良性新生物	128	7
子宮内膜症	106	8
子宮頸部の異形成	64	3
女性性器脱	57	11
受胎のその他の異常生成物	48	2
偽陣痛	46	7
女性性器のポリープ	45	3
卵巣の悪性新生物	30	13

スタッフ 部長代行：島袋幹子
専攻医：横山洵子



1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、常勤医2名、非常勤医5名によって、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。デジタル画像ファイリングシステム、眼底造影検査機器、各種レーザー機器、OCT（前眼部・後眼部）、視野計などの最新の設備を誇り、質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で、診療を行っている。

a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、緑内障手術、網膜硝子体手術、角膜移植手術など幅広く行っている。2014年度は、白内障手術：344件、角膜移植手術：14件、網膜・硝子体手術：6件、翼状片手術：8件、緑内障手術：4件、眼瞼形成術：15件、その他：10件であった。（レーザー手術を除く）

b. 白内障手術は主として一泊入院体制を中心に行っている。術式は、ほとんどが小切開超音波白内障手術+foldable眼内レンズ挿入術（切開創2.8mm）で、重篤な術後合併症も認めなかった。角膜形状解析装置によるデータを元にLASIK術後の方の白内障手術も可能である。

c. 角膜移植術については、米国アイバンクから角膜を輸入するシステムを採用し、ある程度ご希望に合わせた日程での手術が可能である。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮形成術、内皮移植などのパーツ移植を症例に応じて施行している。

d. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院を適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な24時間単位の眼圧コントロールを心がけている。手術治療が必要な症例には主にトラベクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていない。

e. 網膜・硝子体疾患については、硝子体網膜症疾患に対して硝子体手術を行っている。黄斑浮腫症例に対しては、ケナコルトテノン嚢下注射・抗VEGF抗体硝子体注射など適宜薬剤治療を行っている。

f. 眼瞼痙攣症例にボトックス注射を、加齢性眼瞼下垂症例に手術加療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医など

日本眼科学会専門医 1名

5. 業績

学会発表

1. 横山洵子, 三木篤也, 白井審一, 松下賢治, 西田幸二:緑内障眼の光干渉断層計パラメータと視野の相関. 第25回日本緑内障学会, 9月, 2014, 大阪.

研究会発表

1. 島袋幹子, 横山洵子:当院におけるINTREPID®ポリマーI/Aチップの使用経験. 第3回 大阪西部眼科病診連携の会, 4月, 2014, 大阪.
2. 島袋幹子:糖尿病と眼の病気. 第1回 日本生命済生会（日生病院）市民健康セミナー, 6月, 2014, 大阪.
3. 島袋幹子, 横山洵子:緑膿菌角膜感染症の2例. 第1回 あわぎ眼科病診連携懇話会, 11月, 2014, 大阪.
4. 横山洵子, 島袋幹子:治療に苦慮した糖尿病角膜症の2症例. 第1回 あわぎ眼科病診連携懇話会, 11月, 2014, 大阪.
5. 横山洵子, 島袋幹子（日生病院）, 切通 彰（大阪市）:緑膿

菌による感染性角膜炎の2症例. 第404回 大阪眼科集談会プログラム, 2月7日, 2015.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	島袋	島袋 (予約)	田村		島袋	島袋	岡崎		島袋	
2診	大井		横山		横山	横山 (予約)	手術		横山	手術
3診	瀬口 (1・3週)		岡崎 (1・3週)		大井	長谷川 (4週)			田村	

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG 蛍光造影	○ 紹・予	○ 紹・予	○ 紹・予	○ 紹・予	○ 紹・予	○ 紹・予	○ 紹・予		○ 紹・予	

○：当院診察が必要

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	15,028	14,484	14,381	13,947	13,766
入院	2,853	2,297	2,074	2,416	1,513

表 4 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	412	2
角膜のその他の障害	19	21
緑内障	5	6
眼瞼のその他の障害	4	2
その他の網膜障害	4	8
眼球および眼窩の損傷	2	10
体内プロステシス、挿入物および移植片の合併症	2	6
結膜のその他の障害	2	2
眼球の障害	2	32
水晶体のその他の障害	1	3
他に分類される疾患における虹彩および毛様体の障害	1	10

スタッフ 部長代行：赤羽 誉
医 長：細野研二、岡安 唯
専 攻 医：大山寛毅



1. 診療内容

急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療（手術、放射線治療、抗がん剤治療）を行い、最近では耳科領域の手術にも積極的に取り組んでいる。また、頭頸部がん診療では、最近、保険適応が認められた抗EGFRモノクローナル抗体（セツキシマブ）を放射線治療や抗がん剤治療に併用することで、従来では積極的な治療が困難な骨髄機能低下や腎機能低下例に対しても根治を目指した治療に取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜日am

（火：手術日のため初診のみ）

専門診療：頭頸部腫瘍外来（木pm：赤羽）

補聴器外来（金pm：細野）

めまい外来（水pm：岡安）

各医師の専門性も重視し、初診の段階から疾患群に応じて、より適した医師が診療担当する方針としている。

2) 病棟体制

病床数14（4東病棟）を基本に入院診療を行った。外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として、診療開始から治療終了までの病状を詳細に把握しながら診療を行っている。重症例については、複数の医師で、または上級医の指導の下、診療を行っている。

日々の病棟処置担当医については、外来診療3診（月・水～金）、また院外診療活動（月・水～金：各1名）のため配置できず、外来初診診療担当医が9時過ぎ頃までに病棟業務を行うことで対応し、午後外来診療終了後に各主治医が入院診療を行わざるを得ない状況となっている。急を要する場合には、外来診療の合間に適切な対応を行っている。また、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法の保険診療が可能となり、治療希望者に対応できるよう、当科でも診療体制を整えた。

3) 検査スケジュール

- ・めまい・平衡機能検査、ABR検査：適宜
- ・補聴器適合検査：金曜日午後（補聴器外来）

- ・超音波検査、鼻咽喉頭内視鏡検査：外来診療の一貫で施行
- ・嚥下造影検査：放射線科との調整で適宜施行

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

H22年以降、外来患者数の減少傾向を認めるが、耳鼻咽喉科一般診療が主体であった頃と比べると、診療体制・対応疾患に変化を認める。めまい診療、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）診療、補聴器相談、その他の重症疾患の対応も増え、一人あたりに要する外来診療時間も大幅に増加している。積極的に診療所からの紹介患者の受入、また逆紹介も行うことで病診連携の観点からも西区基幹病院としての役割を果たしていると思われる。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術例を主に、急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、鼻出血、めまい、急性感音難聴、顔面麻痺、頭頸部癌の放射線治療や抗がん剤治療などを行った。

手術症例については、現在、年間250～300件（人）で推移している。また、メニエル病に対する内リンパ嚢開放術を今年度初めて行った。

年間延べ入院入院人数については、5,000人前後で推移しているが、軽症例の外来治療や入院早期退院、重症疾患の入院治療の結果、横ばいと考えられる。

平成26年度（手術室施行）

手術件数284件（全麻192件、局麻92件）

主な手術症例

・口蓋扁桃摘出術	56例
・アデノイド切除術	8例
・鼻内内視鏡手術	34例 56例
・喉頭微細手術	25例
・鼻中隔矯正術	8例
・鼓膜・鼓室形成術	13例 13例
・甲状腺・副甲状腺腫瘍手術	15例
・唾液腺腫瘍手術	17例
・頸部郭清術（単独）	7例 8例
・頭頸部再建手術	5例
（口腔癌2例、中咽頭癌2例、下咽頭癌1例）	

- ・頭頸部癌摘出術 4 例
(口腔癌 2 例、喉頭癌 2 例)
- ・頸のう胞摘出術 9 例
- ・鼻粘膜レーザー焼灼術 24 例
- ・頸部リンパ節生検術 26 例
- ・唾石摘出術 6 例
- 内リンパ嚢開放術 1 例

3) 検査実績

- めまい検査
- 頸部超音波検査
- 鼻咽頭内視鏡検査
- 嚥下造影検査

4. 認定医・専門医など

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医 3 名
- 日耳鼻認定補聴器相談医 1 名
- 補聴器適合検査認定医 1 名
- 頭頸部がん暫定指導医 1 名
- 日本東洋医学会漢方認定医 1 名
- 身体障害者福祉法指定医 1 名
(聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害)

5. 業績

論文・著書

1. Nishimura T, Okayasu T, Saito, Shimokura R, Yamashita A, Yamanaka T, Hosoi H, Kitahara T: An examination of the effects of broadband air-conduction masker on the speech intelligibility of speech-modulated bone-conduction ultrasound. *Hear Res*, Nov;317:41-49, 2014.
2. 岡安 唯, 赤羽 譽, 細野研二, 伊藤妙子, 仙頭正四郎: 体質判別チャート『読術』によるメニエール病患者の東洋医学的な体質分析. *日生医誌*, 42:5-11, 2014.
3. 成尾一彦, 岡安 唯, 山中敏彰, 細井裕司: 治療に難渋した降下性壊死性縦隔炎症例. *奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室 頭頸部外科*, 24:83-88, 2014.
4. 細野研二, 赤羽 譽, 岡安 唯, 伊藤妙子: 甲状腺血管腫の1例. *頭頸部外科*, 24:329-334, 2014.

学会発表

1. 大山寛毅, 山中敏彰, 伊藤妙子, 村井孝行, 岡本英之, 藤田信哉, 細井裕司: メニエール病の姿勢制御・歩行機能に対する内リンパ嚢手術の影響. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5月, 2014, 福岡.
2. 大山寛毅, 成尾一彦, 森本千裕, 山下哲範, 太田一郎, 山中敏彰, 細井裕司: 当科における小児食道異物症例の検討. 第9回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 6月, 2014, 浜松.
3. 岡安 唯, 赤羽 譽, 細野研二, 伊藤妙子, 仙頭正四郎: メニエール病患者における読術体質判別チャートを用いた東洋医学的な体質分析. 第65回日本東洋医学会学術総会, 6月, 2014, 東京.
4. 岡安 唯, 浦谷悠加, 西村忠己, 中川誠司, 山下哲範, 細井裕司, 北原 紘: 骨導超音波のtemporal window of integrationについて. 第59回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 11月, 2014, 下関.
5. 成尾一彦, 木村隆浩, 森本千裕, 山下哲範, 太田一郎, 山中敏彰, 北原 紘, 大山寛毅: 当科における重症心身障害児(者)誤嚥防止術の検討. 第331回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 12月, 2014, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	赤羽 (初診・再診) (2・3・4週)		交代 (初診)		赤羽 (再診)	赤羽 (再診)	細野 (再診)	赤羽 (腫痛)	岡安 (再診)	大山 (再診)
2診	岡安 (初診・再診) (1・2・4週)	手術		手術	岡安 (初診・再診)	岡安 (めまい)	大山 (初診・再診)	細野 (再診)	大山 (初診・再診)	細野 (補聴器)
3診	細野 (初診・再診) (1・2・3週)				大山 (初診・再診)		赤羽 (初診・再診)		細野 (初診・再診)	

表 2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
顔面機能検査 聴力検査 平衡機能検査 味覚検査、嗅覚検査 鼻腔通気検査	○診		○診		○診		○診		○診	
聴性脳幹反応				○診						○診

○：当院診察が必要

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	16,552	15,082	15,076	13,924	13,417
入院	5,254	4,366	4,845	4,835	5,533

表 4 H26.4～H27.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃・アデノイドの手術	56	7.7
急性難聴に対する薬物治療 (週末点滴入院含)	42	7.1
めまい	39	14.9
急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍	35	6.5
慢性副鼻腔炎に対する手術治療	30	9.5
化学療法・放射線治療	28	48.5
顔面神経障害に対する薬物治療 (週末点滴入院含)	23	7.2
緩和・癌末期(のべ)	17	28.5
唾液腺腫瘍に対する手術	16	11.8
声帯ポリープに対する手術	15	8.0
甲状腺腫瘍に対する手術	14	9.8
慢性中耳炎に対する手術	13	14.6
頸のう胞に対する手術	9	16.6
急性喉頭蓋炎	9	5.7
頭頸部癌再建手術(術後照射1例)	4	75.6

放 射 線 科

スタッフ 部 長：前田宗宏

副医長：橋本尚子（3月～産休・育休）

診療放射線技師：12名（技師長：在津裕明）



1. 診療活動

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、B-RTO、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（骨、脳血流、心筋、甲状腺、副腎、換気・血流、腎など）、放射線治療（リニアック照射）を行っている。2014年3月後半から常勤の放射線科医が1名となったが、大阪大学ならびに大阪市立大学の放射線科とその関連施設の専門医（非常勤）と当院各診療科の支援を得て診療体制を維持してきた。

2. 臨床実績（2014年4月1日から2015年3月31日）

- 1) 画像診断：CT 10,487例、MR 4,651例、単純X線 21,623例、マンモグラフィ 1,254例、消化管造影（DICを含む）58例、排泄性尿路造影 330例
- 2) 血管系IVR 76例（動注・塞栓（肝腫瘍）56例、子宮動脈塞栓（子宮筋腫）1例、気管支動脈塞栓（咯血）3例、コイル留置（脾動脈瘤）1例、リザーバー留置（重症脾炎）2例、B-RTO/PTO（静脈瘤）3例、SASI（脾神経内分泌腫瘍）2例、造影のみ 8例）
- 3) 非血管系IVR 43例（経皮経肝胆道ドレナージ 17例、胆管ステント 2例、膿瘍/嚢胞穿刺・ドレナージ 18例、ラジオ波焼灼術 4例、生検 2例）
- 4) RI検査 532例
- 5) 放射線治療 117例（内訳：頭頸部癌 17例、乳癌 34例、肺癌・縦隔腫瘍 6例、胃癌 1例、肝・胆道系腫瘍 2例、前立腺癌・膀胱癌 16例、子宮・卵巣腫瘍 1例、悪性リンパ腫・血液悪性腫瘍 5例、転移性骨腫瘍・その他 35例）

3. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 1名
日本IVR学会専門医 1名

4. 業績

研究会発表

1. 前田宗宏, 田中会秀, 合田晴一, 木村 廉, 秦 明典, 岸本陽督, 三谷 尚, 吉原治正: 左腎静脈への流出路がない胃静脈瘤のB-RTOに関して. 第57回関西IVR研究会, 7月, 2014, 大阪.

2. 前田宗宏, 橋本尚子, 藤田祐亮, 田中 智, 伊藤 翔, 村本 理, 居平典久, 湯川雅彦, 中村秀次: 十二指腸静脈瘤破裂の1例. 第58回関西Interventional Radiology研究会, 2月, 2015, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
前田	前田	前田	前田	前田	前田	前田	前田	前田	前田

・放射線科（診断）は毎日、（IVR）は月、木、金の午後に前田が行っております

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
単純撮影	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹
CT（単・造）	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
MRI（単・造）	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
骨塩定量	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
リニアック						○ 診				
バリウム検査（胃透視）	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	
バリウム検査（注腸）					● 紹・予					

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	4,436	3,672	3,892	4,902	3,922
入院	0	0	0	0	0

スタッフ 部 長：川原玲子

副部長：花田留美、奥野聡子、山崎恭子

副医長：津村八江（～12月）

常勤嘱託医：玉井 裕



1. 診療内容

a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当している。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。術中管理を行うにあたり、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っている。術前診察では手術前に問診・検査結果・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い手術に適した麻酔法を選択する。麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくため非常に重要である。術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行う。

ペインクリニックも麻酔科で行っている。ペインクリニック外来は毎日、透視下ブロックは月曜日午前に行っている。癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に折り組んでいる。高周波熱凝固を用いた恒久ブロックや外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れている。麻薬を持って海外旅行をされた患者さんもあり、痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目指している。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始した。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応している。

教育にも携わっている。平成16年4月より新研修医制度がスタートした。当院のプログラムではスーパーローテートといい1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育している。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変である。ただこうして若い人たちが増えたことで現場が活気付いたことは思わぬメリットだった。ICLS講習会や緩和ケア研修会も開催し、一緒に学んでいる。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、教育活動を続けていきたいと考えている。

b. 平成26年の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成26年度は総手術件数2,716件、うち麻酔科管理手術件数1,532件となった。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著だが、全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

麻酔科は手術室業務が主なため病棟体制はとっていない。外来日以外は手術室にて麻酔業務に従事している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

麻酔業務の傍ら緩和ケアチームの診療に従事している。

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医	4人
麻酔科標榜医	6人
日本ペインクリニック学会専門医	1人
日本集中治療医学会専門医	1人
日本緩和医療学会暫定指導医	1人
ICD	1人
日本医師会産業医	2人

5. その他

ペインクリニックの新規患者様は他科あるいは他院からの紹介がほとんどで紹介元の科と共同で診療・治療に当たることが多くある。病診連携が最も必要な科とも言える。緩和の広がりの中で癌性疼痛に対する永久ブロックに積極的に取り組んでおり、高周波熱凝固・フェノール・アルコールなどを用いて癌の痛みを和らげたり、硬膜外ポートを埋め込み在宅でPCAによる鎮痛を計ることで、帰宅できた方もあった。放射線科の協力のもと開始したコーンビームCTガイド下内臓神経ブロックは、従来の方法に比し、安全性・確実性が向上した。また腹水濾過濃縮再静注法（Cell-free and

Concentrated Ascites Reinfusion Therapy : CART) も開始し、がん性腹膜炎による腹水の治療も開始した。他院でがんの治療中の患者さんのCARTも3日ほどの入院で始め、病病連携が深まっている。ブロックや腹水処理などの積極的な症状緩和に加え、デイグニティーセラピーなども取り入れ、患者さんのQuality Of Lifeを高めることを目標にしている。

6. 業績

論文・著書

1. Mugita M, Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Inaoka M, Funato T: Effectiveness of ultrasound-guided transversus abdominis plane block and rectus sheath block in pain control and recovery after gynecological transumbilical single-incision laparoscopic surgery. Clin Exp Obstet Gynecol. 41:627-632, 2014.
2. 奥野聡子, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子: 持続腕神経叢ブロックを契機とした多面的アプローチによりオピオイドを中止しえた頸椎追求形成術後慢性痛患者の1例. 日本ペインクリニック学会誌, 121:102-106, 2014.
3. 奥野聡子, 本庄郁子, 玉井 裕, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子: 小児の扁桃腺摘出術後の鎮痛鎮静における抑肝散の効果. 痛みと漢方, 24:70-73, 2014.
4. 加藤千尋, 川原玲子, 三木和美, 花田留美, 小瀬戸昌博: 進行がんに伴う難治性腹水に対するKM-CART療法の臨床的検討. 日生医誌, 42:12-15, 2014.

学会発表

1. Ryoko Kawahara, Yutaka Tamai, Kyoko Yamasaki, Satoko Okuno, Rumi Hanada, Hisayoshi Kawahara: Efficacy of yokukansan, a traditional Japanese medicine, for postoperative pain relief after tonsillectomy in children. PAPS 2014-47th Annual Meeting, 5月, 2014, カナダ, バンフ.
2. 川原玲子, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美: 小児の扁桃腺摘出術後の鎮痛鎮静における抑肝散の効果の検討. 日本麻酔科学会第61回学術集会, 5月, 2014, 横浜.
3. 今田泰介, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 抑肝散坐薬使用例における術後せん妄発症に関する因子の検討. 日本麻酔科学会第61回学術集会, 5月, 2014, 横浜.
4. 緒方富紀子, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 腹腔鏡下仙骨陰固定術の術後鎮痛法: 腹横筋膜面ブロックとトラマドールによるiv-PCAの併用療法. 日本麻酔科学会第61回学術集会, 5月, 2014, 横浜.
5. 花田留美, 玉井 裕, 三木和美, 加藤千尋, 奥野聡子, 川原玲子: 腹水濾過再静注法 (KM-CART) とコーンビームCT (CBCT) ガイド下内臓神経ブロックを併用した3症例. 第19回日本緩和医療学会学術集会, 6月, 2014, 神戸.
6. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子: KM-CART施行における症状緩和の検討. 第19回日本緩和医療学会学術集会, 6月, 2014, 神戸.
7. 小山佐知子, 宇垣政江, 大藤弘美, 藤岡英悟, 本庄郁子, 今田泰介, 石河 純, 川原玲子: 予後予測困難ながん患者への人工呼吸管理と精神的支援. 第19回日本緩和医療学会学術集会, 6月, 2014, 神戸.
8. 奥野聡子, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子: アセトアミノフェン注射薬投与後に意識障害をきたした1例. 日本ペインクリニック学会第48回大会, 7月, 2014, 東京.
9. 川原玲子, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美: 痛みの管理に難渋した卵巣がん術後神経障害痛の1例. 日本ペインクリニック学会第48回大会, 7月, 2014, 東京.

研究会発表

1. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 寝屋川市医

師会講演会, 5月, 2014, 寝屋川.

2. 川原玲子, 小山佐知子, 清水梨江, 畠山明子: フェンタニルパッチの先行麻薬との換算比の検討. 第9回大阪緩和ケア連携カンファレンス, 5月, 2014, 大阪.
3. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 貝塚痛みを考える勉強会, 5月, 2014, 貝塚.
4. 川原玲子: ペインクリニックの現状. 第8回市民公開講座 慢性疼痛について～少しは楽に～, 7月, 2014, 大阪.
5. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 第2回吹田漢方セミナー, 8月, 2014, 吹田.
6. 津村八江, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 骨転移による体動時痛に対してフェンタニルクエン酸塩舌下錠を用いて良好な鎮痛を得た1例. 疼痛勉強会, 9月, 2014, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(治験)

1. 塩野義製薬株式会社の依頼によるS-8117のオープンラベル試験
2. 塩野義製薬株式会社の依頼による慢性腰痛患者を対象としたS-8117のプラセボに対する優越性試験
3. 塩野義製薬株式会社の依頼による慢性腰痛患者を対象としたS-8117の継続投与試験
4. 第一三共株式会社の依頼によるがん疼痛患者を対象としたDS-7113b第Ⅱ相試験
5. 第一三共株式会社の依頼によるがん疼痛患者を対象としたDS-7113b第Ⅲ相試験
6. 塩野義製薬株式会社の依頼によるオピオイド誘発性の便秘症を有するがん患者を対象としたnaldemedineの第Ⅲ相臨床試験—二重盲検並行群間比較試験—
7. 塩野義製薬株式会社の依頼によるオピオイド誘発性の便秘症を有するがん患者を対象としたnaldemedineの第Ⅲ相臨床試験—継続投与試験—
8. 塩野義製薬株式会社の依頼によるオピオイド誘発性の便秘症を有する非がん患者を対象としたnaldemedineの第Ⅲ相臨床試験—オープンラベル試験—
9. 日本臓器製薬株式会社の依頼によるがん疼痛患者を対象とした鎮痛薬NZL-228の切替試験

(臨床研究)

1. 癌性腹水に対する改良型腹水濾過濃縮再静注法 (CART) の有用性に関する多施設共同研究 (川原玲子)
2. 六君子湯座薬成分血中濃度測定 (川原玲子)

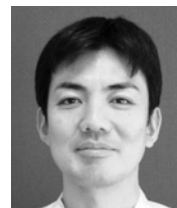
表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	山崎	山崎	玉井	玉井	川原	川原	花田	花田	奥野	奥野
2診	川原 (術前 診察)	花田 (術前 診察)	津村 (術前 診察)	津村 (術前 診察)	奥野 (術前 診察)	奥野 (術前 診察)	山崎 (術前 診察)	山崎 (術前 診察)	玉井 (術前 診察)	玉井 (術前 診察)
	透視下 ブロック									

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	6,343	6,073	5,777	5,640	5,342
入院	161	31	200	224	241

スタッフ 部長代行：城光寺 龍



1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学的および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、4月より診療報酬改定にともない病理診断管理加算Ⅰの算定を開始したほか、5月の院内電子カルテの変更にともない、病理部門システムの変更（松波ガラスPathwindowへ）を行った。標本作製過程へのバーコード導入により、検体取り違い防止のための機構を導入したほか、デジタル画像の報告書への添付が可能になった。また医事会計システムとのオンライン接続が可能になり、診療報酬の迅速な算定が可能になった。

新規診療内容としては、11月からは、婦人科頸部細胞診において液状化細胞診（Thinprep）を導入し、標本作製の標準化が可能になった。非婦人科材料に関しても順次導入している。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師：2名（大阪大学、奈良医科大学より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：3名（細胞検査士3名）

検査助手：1名

事務職員（中央検査部兼任）：1名

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：3,986件

細胞診断：10,245件（予防医学センター 2,929件）

術中迅速診断：90件

病理解剖：14件（内科系14件、剖検率6.2%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
H22	3,721	9,978 (3,081)	147	16
H23	3,608	9,190 (2,232)	111	11
H24	3,580	9,705 (2,496)	121	12
H25	3,806	9,618 (2,688)	123	19
H26	3,986	10,245 (2,929)	90	14

4. その他

平成26年度はCPCの開催は18回行われ、内容は下記の如くであった。

第225回 4月4日：ガラクトシアリドーシス（血液内科）

第226回 4月4日：未分化大細胞リンパ腫（血液内科）

第227回 5月9日：急性骨髄性白血病（血液内科）

第228回 5月9日：形質芽球性リンパ腫（血液内科）

第229回 5月16日：前立腺癌（総合内科）

第230回 6月13日：急性心筋梗塞後心破裂（総合内科）

第231回 6月20日：食道癌（消化器外科）

第232回 6月27日：肺炎・肺出血（総合内科）

第233回 7月25日：胆管癌（消化器内科）

第234回 7月25日：肺炎・肺膿瘍（救急診療センター）

第235回 8月29日：間質性肺炎（総合内科）

第236回 8月29日：成人T細胞白血病（血液内科）

第237回 11月7日：慢性リンパ球性白血病（血液内科）

第238回 11月7日：びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（血液内科）

第239回 1月20日：回腸全層性壊死（循環器内科）
 第240回 1月30日：真菌性心外膜炎（血液内科）
 第241回 1月30日：気管支肺炎・器質化肺炎（総合内科）
 第242回 3月6日：肝内胆管癌・甲状腺乳頭癌（循環器内科）

5. 業績

論文・著書

1. Minami S, Jokoji R, Yamamoto S, Ogata Y, Koba T, Futami S, Nishijima Y, Yaga M, Masuhiro K, Tsujimoto M, Komuta K: Amylase-Producing Lung Cancer with a

Positive Epidermal Growth Factor Receptor Mutation Treated With Gefitinib: A Case Report. World J Oncol, 5: 41-46, 2014.

2. 大嶽雄也, 石倉果林, 水口洋一, 城光寺 龍, 石田英和, 小西登: 乳腺 oncocytic carcinomaの1例. 臨床細胞学会雑誌, 53: 396-400, 2014.

学会発表

1. 城光寺 龍, 大川たをり, 東山真里, 辻本正彦, 池田純一郎, 森井英一: 皮膚腫瘍の1例. 第67回日本病理学会近畿支部学術集会, 12月, 2014, 大阪.

研究会発表

1. 城光寺 龍, 仁科周平: 45歳女性. 急速に進行したDIC・呼吸苦の一例. 第148回阪神合同CPC, 10月, 2014年, 大阪.

がん治療センター

スタッフ センター長：黒田昌男

中川雅史（血液・化学療法内科）、高橋 励（神経科・精神科）、
川原玲子、奥野聡子、花田留美、山崎恭子、津村八江（～12月）、
玉井 裕（以上麻酔・緩和医療科）、
小山佐知子、畠山明子（以上看護部）、
宮麻紀子（薬剤部）、大西 龍（中央臨床検査部）、新谷泰正（中央放射線部）、
田中 孝（リハビリテーション室）、本家裕子（あったかサポートセンター）、
丸山加奈（神経科・精神科）、出口暁子（栄養管理室）、許斐正啓（総合企画部）、
佐藤綾子（医事サービス部）



1. 活動

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

・主たる業務

- ①がんに関する集学的治療の充実
- ②緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する院内外
の教育研修
- ③がん治療に関する相談対応、情報提供
- ④がん登録の推進

・化学療法

10床の外来化学療法室を有効に活用し、関係各科と連携しつつ、安全な治療を円滑に実施した。
月1回、化学療法カンファレンスを開催した。

・緩和ケア

緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強

会・症例検討会の開催を行なった。

がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」を、講師・参加者とも近隣の他医療機関からも参加者を得て開催した。
全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催した。

・レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

・相談支援

がん相談の充実と、図書情報コーナーの整備を進めた。

・がん登録

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

・広報

パンフレット、ホームページの更新を行った。

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：船渡孝郎

橋本奈美子、大塚博文、尾上昌世、田中雄介（産婦人科）、
福井辰成（泌尿器科）、南有紀子（消化器・一般外科）、
常松恵子、田中敬子、横田ひろみ、川瀬俊子（以上看護部）、
乾有希子（薬剤部）、藤田育子（中央臨床検査部）、
山田純子（中央放射線部）、藤岡栄悟（リハビリテーション室）、
出口暁子（栄養管理室）、久保郁美（医事サービス部）



1. 診療活動

今般日本の高齢化はますます増加傾向にあり、女性の平均寿命は86歳と先進諸国の中でも上位に位置している。それに伴い様々な疾患も増加しつつある。婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50才以上の女性の約半数が罹患すると言われ、米国では女性の11%が手術を受けている。

骨盤内臓器脱は直接的な死因にはならないが、QOL（生活の質）がひどく低下する疾患である。罹患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多いとされている。

当センターは、その疾患を治療し、より良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

a. 治療部門

<外科的治療>

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）LSC手術（先進医療）、TVM手術、（腹腔鏡下）マッコール術、膀胱底形成術、会陰形成術、後陰壁形成術、マンチェスター術、ル・フォー陰閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁 TOT手術、TVT手術

【H26年度入院手術件数】

骨盤内臓器脱手術（先進・腹腔鏡下含む）	46件
陰形成術（会陰形成等も含む）	21件
尿失禁手術	6件

<保存的治療>

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁&OAB（過活動性膀胱）
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【栄養指導件数】

月	H27.1月	2月	3月
件数	2	2	3
病名	脂質異常症 高度肥満	脂質異常症 高度肥満	脂質異常症 高度肥満 糖尿病

【リハビリ 骨盤底筋運動指導人数】

	H26.9月	10月	11月	12月
骨盤底筋運動指導人数	2	7	4	13

H27.1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
8	4	16	14	5	10	83名

b. 広報（サービス）部門

【第3回あわぎ産婦人科病診連携懇話会】

2014年6月 ANAクラウンプラザホテル大阪にて

2. 業績

学会発表

1. 大塚博文, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: シンポジウム「骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下手術-腹腔鏡下手術仙骨固定術の手法と成績-」「当院でのLSC術式と手術成績」, 第54回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2014, 鹿児島.
2. 橋本(矢田)奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 高齢女性のtotal supportをめざして～女性骨盤底センターの果たす役割, 第9回日本骨盤臓器脱手術学会, 3月, 2015, 東京.

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 セ ン タ ー

スタッフ センター長：笠山宗正（院長）

部長：住谷 哲

森田真也、宇都佳彦、早川友朗、仁科周平（総合内科）、中川 厚（循環器内科）、

福井辰成（泌尿器科）、大川たをり（皮膚科）、島袋幹子（眼科）、

細野研二（耳鼻咽喉科）、小豆澤深雪（予防医学センター）、

角南ちえ子、井上恵子（～4月）、高山由美子、川瀬俊子、西井順子、森本真緒、中村綾乃、

中島麻帆、森口友絵、田中深雪、片岡郁子（以上看護部）、野村浩英（薬剤部）、

倉本訓子（中央臨床検査部）、在津裕明（中央放射線部）、麦田盛穂（リハビリテーション室）、

出口暁子（栄養管理室）、朝倉祐紀（総合企画部）、木下奈美（医事サービス部）



1. 運営体制

平成26年度より従来の糖尿病センターを院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる糖尿病・内分泌センターへと改組し、新体制のもとで活動を開始した。

2. 診療体制

糖尿病センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に多職種スタッフによる診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病ふれあい教室）を週4日実施した。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成26年度に当セン

ターを受診した患者数は延べ1,218名（平成25年度は1,032名）であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した（糖尿病合併症管理）。平成26年度における実施件数は85件（平成25年度は88件）であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。平成26年度における実施件数は159件（平成25年度は80件）であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

＜糖尿病ふれあい教室講師＞

宇都佳彦、早川友朗（総合内科）、角南ちえ子、川瀬俊子、高山由美子（看護部）、野村浩英、乾有希子、瀧川奈央（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史（リハビリテーション室）、水口洋一、倉本訓子（中央臨床検査部）、出口暁子、松村寿美、大平百合子（栄養管理室）

糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ674名（平成25年度は700名）であった。

4. 活動

①日生病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、パネル展示、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

＜日時＞平成26年11月20日（木）、21日（金）

11：30～13：30

<場所>日生病院外来玄関ホール

<内容>

- ・糖尿病啓発のためのパネル展示
「糖尿病と癌の関係」
- ・血糖測定・HbA1c測定
- ・フットケア
- ・頸動脈エコー
- ・お薬相談
- ・栄養相談
- ・医療相談
- ・運動指導、筋肉量測定 など

②公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催した。

『日生病院糖尿病センター公開セミナー』

<日時>平成26年6月21日(土) 14:00~16:00

<場所>日生病院 別館講堂

<内容>

第1部

講演1:「糖尿病と眼の病気」
(眼科 島袋眼科部長)

講演2:「ご存じですか?~お薬の正しい飲み方~」
(薬剤部 瀧川薬剤師)

講演3:「糖質のお話」
(管理栄養室:出口管理栄養士)

第2部 「アマチュア落語」3席 桂文喬主宰落語研究会

『糖尿病ランチ&セミナー』

<日時>平成27年1月30日(金) 12:00~14:00

<場所>日生病院別館講堂

<内容>

第1部

ヘルシー弁当の試食会「ヘルシー中華弁当」

第2部

講演1:「お家で実践!~宅配食を使った血糖コントロール~」
(株式会社ファンデリー 逸見純子氏)

講演2:「糖尿病最近の話題~慢性腎臓病(CKD)について~」
(糖尿病・内分泌センター部長 住谷 哲)

③糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

『錦会総会』

<日時>平成26年11月28日(金) 12:00~15:00

<場所>日生病院別館講堂

<内容>

第1部

糖尿病宅配食の試食会「和風季節弁当の試食」

第2部

講演:糖尿病・内分泌センター 部長 住谷 哲

5. 業績

論文・著書

1. Sumitani S, Morita S, Deguchi R, Hirai K, Mukai K, Utsu Y, Miki S, Sato S, Nakamura H, Kasayama S, Koga M: Metformin decreases glycosylated albumin to glycosylated hemoglobin ratio in patients with newly diagnosed type 2 diabetes. Ann Clin Biol, 52:76-81, 2015.
2. 笠山宗正:内分泌糖尿病の管理. カウンターホルモンとどう対峙するか? Medicina, 51:1442-1447, 2014.
3. 早川友朗, 新居卓朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 森田真也, 仁科周平, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 立花 功, 住谷 哲, 笠山宗正:認知症を合併した高齢1型糖尿病患者における持続血糖測定(Continuous glucose monitoring:CGM)の使用経験. 日生医誌, 42:67-70, 2014.
4. 小林 悠, 森田真也, 北井宏美, 福井辰成, 黒田昌男, 立花 功, 城光寺 龍, 笠山宗正:2型糖尿病治療中に診断され, 経過中に癌性リンパ管症を合併した前立腺癌の1割検例. 日生医誌, 42:88-92, 2014.
5. 笠山宗正:糖代謝異常・糖尿病, 肥満とその対策. 田中廣壽, 宮地良樹, 上田裕一, 郡義明, 服部隆一編, 一冊できわめるステロイド診療ガイド, 173-177頁, 文光堂, 東京, 2015.

学会発表

1. 大月道夫, 玉田大介, 田渕優希子, 向井康祐, 北村哲宏, 森田真也, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史:クッシング症候群患者の空腹時血糖は低値を示す. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
2. 早川友朗, 森田真也, 北井宏美, 仁科周平, 宇都佳彦, 田村慶朗, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正:ステロイド薬離脱時に認められた副腎皮質機能と副腎髄質機能の乖離. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 北井宏美, 早川友朗, 新居卓朗, 仁科周平, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 立花 功, 古賀正史, 笠山宗正:初回治療2型糖尿病患者におけるメトホルミン投与開始前後および4週後のグリコアルブミン値による12週後のHbA1cの予測(EMINENT Study:第4報). 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
4. 森田真也, 北井宏美, 新居卓朗, 仁科周平, 早川友朗, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 笠山宗正, 城光寺 龍, 道清 勉:急激な血糖コントロールの悪化を契機に退形成性膵管癌と診断された1例. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
5. 紅林昌吾, 元村卓嗣, 中尾 誠, 橋本久仁彦, 森本靖彦, 佐藤文三, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史, 大月道夫:シタグリプチン投与がグリコアルブミン/HbA1c比に及ぼす影響. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
6. 古賀正史, 平田 匠, 笠山宗正, 石坂祐子, 山門 實:2型糖尿病患者でグリコアルブミンがBMIと負の相関を示す機構. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
7. 平田 匠, 古賀正史, 笠山宗正, 森本二郎, 丸山太郎:1型糖尿病においてGAはBMIの影響を受けない. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
8. 住谷 哲, 森田真也, 田村慶朗, 宇都佳彦, 北井宏美, 早川友朗, 新居卓朗, 仁科周平, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 立花 功, 笠山宗正:初回治療2型糖尿病患者に対するメトホルミン投与と生活習慣介入の長期(156週)にわた

る有効性の検討 (EMINENT Study:第5報). 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.

9. 北村哲宏, 大月道夫, 玉田大介, 田淵優希子, 向井康祐, 森田真也, 笠山宗正, 下村井一郎, 古賀正史: クッシング症候群患者のグリコアルブミンは見かけ上低値を示す. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
10. 増本憲生, 紅林昌吾, 元村卓嗣, 合屋佳世子, 中尾 誠, 橋本久仁彦, 森本靖彦, 北村哲宏, 福原淳範, 佐藤文三, 笠山宗正, 下村伊一郎, 古賀正史, 大月道夫: 投与4週後でシタグリプチンの治療効果の判断は可能か?-HbA1c vs. GA-. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2014, 大阪.
11. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 早川友朗, 仁科周平, 立花 功, 笠山宗正: レバグリニドとリナグリプチンの併用が有効であったCKD合併高齢2型糖尿病の1例. 第51回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2014, 大阪.
12. 仁科周平, 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 早川友朗, 立花 功, 笠山宗正: ボグリボース投与後に糖負荷後インスリン分泌動態の改善を認めた非肥満境界型耐糖能異常の1例. 第51回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2014, 大阪.
13. 仁科周平, 住谷 哲, 宇都佳彦, 早川友朗, 立花 功, 笠山宗正, 福井辰成, 黒田昌男, 元村卓嗣: 抑うつ傾向にて心療内科にて加療されていた小児期発症クッシング症候群の1例. 第15回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 11月, 2014, 西宮.

研究会発表

1. 笠山宗正: 下垂体腫瘍の治療前後の下垂体機能の管理. 内科の立場から. ランチョンセミナー5. 第87回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2014, 福岡.
2. 森田真也: 産業界のための2型糖尿病 UpToDate. 第11回あわぎ産業界セミナー, 5月, 2014, 大阪.
3. 仁科周平, 森田真也, 新居卓朗, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 田村慶朗, 住谷 哲, 笠山宗正, 立花 功: 原因不明の低カリウム血症と下腿浮腫を呈した1例. 第8回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス (OEMCC), 6月, 2014, 大阪.

4. 笠山宗正: 怖い低ナトリウム血症-仕組みと対策. Diabetes & Endocrine Seminar, 6月, 2014, 大阪.
5. 早川友朗: 糖尿病合併症患者における血糖管理. 糖尿病治療を考える会IN OSAKA NORTH EAST, 6月, 2014, 大阪.
6. 笠山宗正: 糖尿病と内分泌疾患の接点. 第4回Diabetes Frontierセミナー〜糖尿病と関連疾患を考える〜, 8月, 2014, 西宮.
7. 仁科周平: 妊娠中に診断されたGAD抗体陽性1型糖尿病の1例. インスリン治療「ホップ・ステップ・ジャンプ」, 10月, 2014, 大阪.
8. 小林 悠: 著明な高CEA血症が血糖コントロールとともに改善した1例. 大阪糖尿病臨床カンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
9. 笠山宗正: 内分泌疾患と生活習慣病の関わり. 第1回堺内分泌セミナー, 11月, 2014, 大阪.
10. 宇都佳彦: 低身長・肥満・抑うつ・高血圧を主訴に紹介された15才男性の一例. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2014, 大阪.
11. 麦田盛穂: 糖尿病精査・教育入院における理学療法士の取り組み. 第7回糖尿病ライフセミナー, 11月, 2014, 大阪.
12. 出口暁子: 第31回平成26年度糖尿病協会患者対象糖尿病料理教室の調理実習指導担当受託大阪糖尿病協会顧問栄養士会, 11月, 2014, 大阪.
13. 住谷 哲: 糖尿病診療における早期介入の重要性-「ウィークエンド糖尿病精査入院」から見えること-. あわぎ糖尿病病診連携懇話会, 3月, 2015, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等 (臨床研究)

1. オクトレオチドLAR治療における投与量の増減が先端巨大症・下垂体性巨人症患者の内分泌学的効果・臨床症状に与える影響についての検討 (住谷 哲)
2. 40歳未満成人2型糖尿病患者の通院行動に対するヘルスリテラシーの影響 (角南ちえ子)
3. 多発性内分泌腺腫症 I 型の遺伝子診断 (住谷 哲)

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：湯川雅彦

中村秀次、居平典久、村本 理、伊藤 翔、田中 智、（消化器内科）、
道清 勉、藤井 眞、森田哲史、吉良俊彦（消化器・一般外科）、
芳賀宣子、榎本知奈美（看護部）、加藤千尋（中央臨床検査部）、
森本洋子（あったかサポートセンター）



1. 診療活動

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上をめざしている。消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしている。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っている。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設の役割を果たしていく。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD tube）

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

上部胃内視鏡検査：2,690件（H26年4月～H27年3月）

下部内視鏡検査：1,162件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：2,379件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

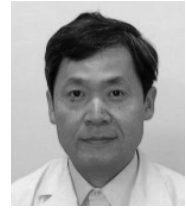
救 急 診 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：三木俊治

部長代理：中川 厚（循環器内科部長代行兼任）

今田泰介（～5月）

専攻医：石井誠剛、田中庸弘（10月～）



宇都佳彦（総合内科）、藤井 真（消化器・一般外科）、佐藤智彦（神経内科）、友永真人（整形外科）

専攻医：吉川秀人（循環器内科）、伊藤 翔、田中 智（消化器内科）、早川友朗、仁科周平（総合内科）、佐藤和明（血液・化学療法内科）、横山洵子（眼科）、田中雄介（産婦人科）、大山寛毅（耳鼻咽喉科）

安藤圭子、新部里美、梶谷久美子、長瀬恵麗、松本愛美、濱野真由子、川端千里、磯崎真優、玉川裕佳、佐々木理恵（以上看護部）

吉岡 亮（薬剤部）、吉田隆則（中央臨床検査部）、長澤浩造（中央放射線部）、

出口暁子（栄養管理室）、宮本浩樹（診療情報管理室）

●石川那智 ●魚田晃史 ●枝廣龍哉 ●小林 悠 ●金井友宏 ●末廣大知（●初期研修医1年目）

1. 診療内容

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田中（庸）	三木	佐藤（和）	田中（庸）	三木	三木	田中（智）	石井	石井	三木

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来	—	2,309	2,274	3,525	4,139
入院	—	186	58	946	2,331

※H23.4 救急診療科 新設

※H26.4 救急診療科から救急診療センターへ

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 1名

日本循環器学会専門医 1名

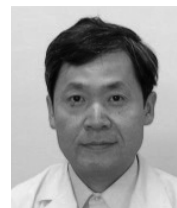
日本心血管インターベンション治療学会専門医 1名

日本内科学会認定内科医 2名

日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 1名

臨床研修部

スタッフ 部長：三木俊治
部長代理：中川 厚



初期研修医：2年目 生長久仁子、永田彩織、藤田祐亮、横井一範、吉岡佐紀
1年目 石川那智、魚田晃史、枝廣龍哉、小林 悠、金井友宏、
末廣大知

平成16年度から開始された新研修制度が始まり、初期研修2年間は各診療科に所属することなく各診療科を異動し、診療にあたることとなり、研修内容などを病院として一括して行う必要が生じたため、平成17年度より臨床研修部ができた。各年度当院単独型での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすき掛け研修医にて構成される。

研修：月1回 EBMに関する抄読会

1. 平成26年度実績

A. 病院見学学生

男性30名、女性19名：計49名

B. マッチング試験受験

男性10名、女性6名：計16名

C. 病院説明会への参加

平成26年7月20日

：マイナビ：レジフェス

ブース訪問学生：6年生：0名、5年生：14名、
4年生以下：3名 合計17名

平成26年9月28日

：レジフェア ATCホール

ブース訪問学生：6年生：0名、5年生：7名、
4年生以下：20名 合計27名

平成27年2月21日

：近畿厚生局主催近畿地区臨床研修病院説明会
ホテル大阪ベイタワー

ブース訪問学生：5年生9名、4年生以下4名
合計13名

スタッフ 輸血管理室長：川上 学
中央臨床検査部：内野高裕



1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

i) 担当技師

認定輸血検査技師である内野が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

ii) 責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

iii) 輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヶ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績（平成26年度）

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	2,502単位
自己血	64単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	173単位
③血漿交換療法におけるFFP	40単位
④アルブミン	4,397.5単位
濃厚血小板	6695単位

*FFPおよびアルブミンの使用量は、適正とされる基準

FFP/RCC比 = $(② - ③) / ② = 0.05 < 0.54$

アルブミン/RCC比 = $④ / ① = 1.75 < 2$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RCC 36単位、FFP 30単位、PC 0単位

3) 平成26年度における変更点

i) 血液製剤オーダーの電子化

平成26年5月より新電子カルテ導入に伴って血

液製剤のオーダーが電子カルテでのオーダーに変更された。

ii) 輸血前の血液型検査について

検体とり違えに伴う異型輸血の危険性を軽減する目的で、異なる時点の2検体で二重チェックを行うこととした。

iii) 輸血後感染症の血液検査

輸血施行3ヶ月後に輸血後感染症の血液検査を受けることが推奨されているが、現在までの実施率は低い。実施率向上を目的として、「輸血後感染症の血液検査に関する説明書・同意書」を作成した。輸血を行った後に担当医がこの文書（検査時期を明記）を患者に渡して説明を行い、3ヶ月後に患者が受診した際にこの文書を主治医に渡し、主治医が電子カルテで検査のオーダーを行うシステムに変更した。

iv) 緊急輸血への対応

「緊急輸血マニュアル」を作成し、以下の点を明記した。

- ①緊急度（準緊急、緊急、危機的）を明確にする。
- ②緊急輸血への対応として従来から院内に常備しているO型(+)、A型(+)のRBCをそれぞれ10単位、6単位に増やした。
- ③O(+), A(+)以外の血液型においては、状況に応じてABO異型適合血を用いる。
- ④血液型未確定の場合は、状況に応じてO(+) RBCを用いる。

4) 今後の予定

i) 輸血療法マニュアルの改訂

現在の運用に沿うべく、全面改訂を行う。

ii) 輸血同意書の改訂

輸血後感染症の血液検査の実施率向上を目的として、改訂を行う。

4. その他

i) 輸血教育講演会（年1回）

平成27年1月15日に（元）大阪大学医学部附属病院輸血部 検査技師（主任）・押田真知子さんを講師にお迎えし、実施した。

化学療法室

スタッフ 室 長：中川雅史

看護師：畠山明子（がん化学療法看護認定看護師）、大島千春



1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、抗癌作用を期待してのホルモン剤投与、骨転移に対するビスフォスホネート投与、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤など専用療室として運用、外来化学療法加算を算定している。特に、外科・乳腺外科・婦人科の症例は、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者・家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は自宅で起こった副作用の対処に随時電話相談を受け、速やかに対応をしている。

毎月1回は院内の看護向けに勉強会を開催し、知識と技術の向上を図っている（表1）。

2. 診療実績（図1・2・3・表2）

化学療法室利用者件数は23年から緩やかに減少傾向をみとめたが、26年度は、総数で3,374件 内点滴抗がん剤投与2,525件と増加した。外来化学療法加算ベースでは、血液内科の1,206件（47.7%）を筆頭に、乳腺外科、一般外科、婦人科、総合内科、耳鼻科、消化器内科、皮膚科、泌尿器科の順になった。皮膚科、総合内科の集計には、乾癬や関節リウマチに対する生物学的製剤の投与が含まれている。昨年度より乳がんや前立腺がんのホルモン療法は点滴加算が算定できなくなった一方、新規点滴抗がん剤の承認等により実数の増加に至ったものと思われる。

また、癌患者指導管理料加算が算定可能となったことを受け、新たな取り組みを行った。具体的には、加算1は医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書により提供した場合に算定、加算2は医師または看護師が心理的不安を軽減するための面接をおこなった場合に算定、加算3は医師または薬剤師が抗悪性腫瘍剤の投薬または注射の必要性等について文書により説明を行った場合に算定可能となるものである。患者に説明を行う場合には、事前に主治医と化学療法専門看護師と病棟・外来と連携を図り、できるだけ上記の要件を満たし算定が可能となるように努めた結果、表2に示す実績であった。

表1 平成26年 化学療法看護 勉強会

開催月	内容	参加人数
5月	大腸癌内服抗がん剤の看護 ロンサーフ	11
6月	ベットサイドのリスクマネジメント（過敏症・血管外漏出）	15
7月	新薬 アドセトリスの安全な投与と看護	6
8月	肺癌化学療法を勉強する アリムタ	9
9月	内服抗がん剤 アフェニトールの口内炎ケア	8
10月	腫瘍崩壊症候群の基礎知識と初期サイン、看護のポイント	15
3月	前立腺癌 化学療法の看護 ジェブタナ	14

図1 利用件数の年次推移

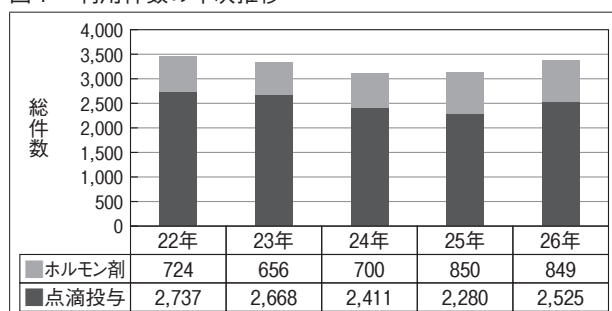


図2 電話相談、面談件数

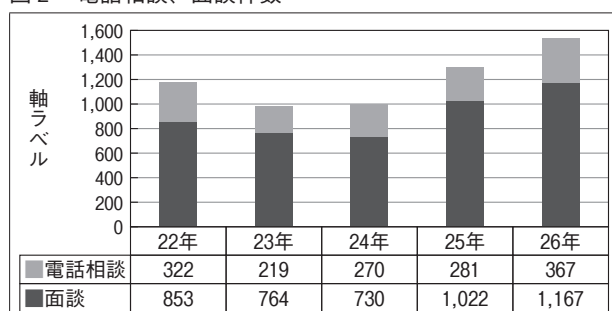


図3 平成26年 科別化学療法加算算定件数

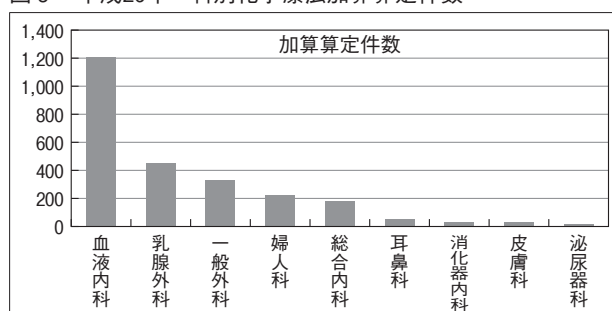


表2 がん患者指導管理加算算定件数

がん患者指導管理料1	56件
がん患者指導管理料2	48件
がん患者指導管理料3	21件

スタッフ リハビリテーション室長：松井 稔

理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄吾、
向井 葵、白川 桂、安達幸恵、岸本大、泉本亮二

作業療法士：杉本扶美



1. 診療内容

各診療科からのリハビリ依頼、身体機能の向上を目標に、理学療法士と作業療法士が連携し合いながら最良のリハビリテーション医療を提供してきた。リハビリテーションの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・がん患者さんを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器疾患は関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、運動器の悪性腫瘍、運動器不安定症などの患者さんが対象となり、平成26年度の年間実績は19,802件あった。脳血管疾患は脳梗塞、脳出血、多発性神経炎（ギランバレー症候群等）、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの脳血管疾患の患者さんが対象となり、平成26年度の年間実績は2,177件あった。呼吸器疾患は肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、食道癌、胃癌、肝臓癌、咽・喉頭癌等の手術前後の呼吸機能訓練を要する呼吸器疾患の患者さんが対象となり、平成26年度の年間実績は1,400件あった。がん患者さんのリハビリテーションはがんやがんの治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動器の低下や生活機能の低下予防・改善することを目的とした患者さんが対象となり、平成26年度の年間実績は551件あった。

急性期の患者さんだけでなく、長期入院患者さんに対しても継続的なリハビリを行い、ADLの維持・改善を目標に実施した。

休日リハビリを継続的に実施し、休日による身体能力の低下を防止するために、早期リハビリ対象患者さんを中心にベットサイドでの早期離床を促した。

地域連携として6月から訪問リハビリを開始し、在宅での運動指導やADLの状況確認、家屋調整などを行いながら、高いQOLの保持に努めた。退院後の生活について不安を抱えている入院患者さんに対しては退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境確認や整備などの退院前訪問指導を行い、退院がスムーズに行えるよう支援した。

予防領域におけるリハビリの重要性を積極的に啓蒙し、糖尿病・内分泌センターからの糖尿病患者さんに対する運動機能の評価を行ったり、糖尿病精査入院では個々に応じたオーダーメイドの運動指導を行いながらその普及に努めた。

チーム医療においては、リハビリカンファレンスの定期的な開催や緩和ケアカンファレンスへの参加、糖尿病ふれあい教室での「運動療法について」のセッション担当、女性骨盤底センターからの骨盤底筋運動の指導を行い、他職種との連携を図りながらリハビリとしての専門性を発揮した。

リハビリの質向上においては、NST回診や糖尿病回診に同行したり、勉強会にも参加し、最新の情報収集を行いながら知識向上に努めた。

院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、会得した技能や知識を伝達講習してスタッフ間で共有した。学術活動においては積極的に発表し情報発信を行った。

リハビリ養成校から学生を積極的に受け入れ、臨床での実習を通じて後輩の育成に努めるとともに、養成校との密な連携を図りながら、実習教育活動の体制を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料

3. 業績

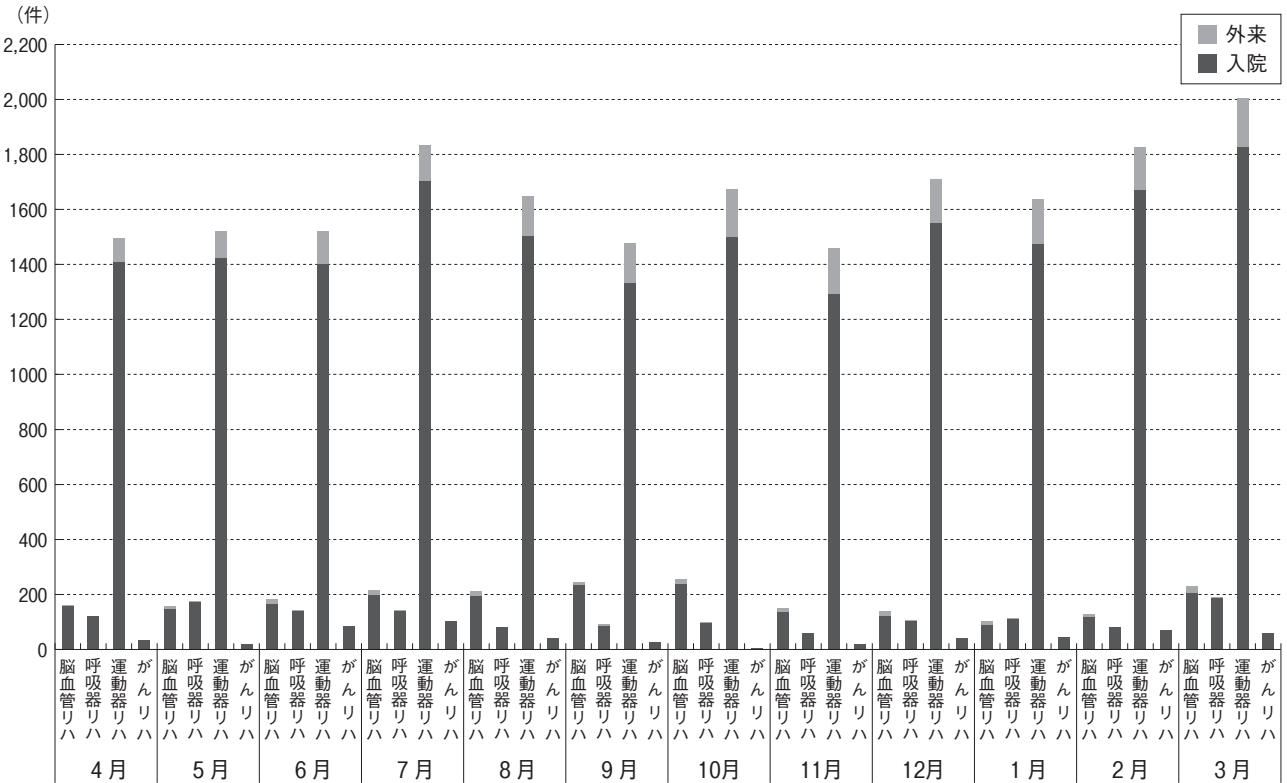
論文・著書

1. Mugita M, Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Inaoka M, Funato T: Effectiveness of ultrasound-guided transversus abdominis plane block and rectus sheath block in pain control and recovery after gynecological transumbilical single-incision Laparoscopic surgery. Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology, 41:627-632, 2014.

研究会発表

1. 麦田盛穂: 糖尿病精査・教育入院における理学療法士の取り組み, 第7回糖尿病ライフセミナー, 11月, 2014, 大阪.

図1 平成26年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ件数



	4月				5月				6月				7月			
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ
入院	159	121	1,408	36	147	174	1,424	21	166	141	1,402	84	197	140	1,702	103
外来	3	0	86	0	11	2	95	0	16	1	117	0	19	1	132	0

	8月				9月				10月				11月			
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ
入院	195	81	1,504	42	233	87	1,334	26	239	96	1,499	5	135	60	1,294	18
外来	15	1	145	0	12	4	142	0	18	1	176	0	15	0	167	0

	12月				1月				2月				3月			
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ
入院	122	105	1,549	40	89	110	1,474	45	117	80	1,669	70	206	187	1,826	61
外来	15	2	161	0	13	4	161	0	13	0	157	0	22	2	178	0

中央臨床検査部

スタッフ 部長：小瀬戸昌博、技師長：水口洋一

(1) 検体Ⅰ部門（責任者：吉田隆則）：生化学・免疫、血液・凝固、輸血
吉田隆則、天野精子、内野高裕、倉本訓子、松谷憲一、玉川雄一、
（池田久美）

(2) 検体Ⅱ部門（責任者：藤田育子）：細菌、病理、外来（一般）

水口洋一、坂本美智代、藤田育子、角田道久、大嶽雄也、小林美香、石倉果林、片山愛里

(3) 生理部門（責任者：大西 龍）：循環器、超音波、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻科

大西 龍、藤井ゆう子、古川浩司、柳川友加、森本 梓、大澤由布子、福田志穂美、
渡辺温子（中尾やす子）、（吉岡睦）

予防医学センター配属：篠田和子、大黒慶子、近藤直子、徳山由佳

(4) 臨床工学部門

加藤千尋、三木和美、岡崎浩也



1. 検査体制

中央臨床検査部は臨床検査部門と臨床工学部門を有し、下記各部門に編成し業務の共有化、効率化に取り組んでいる。

●臨床検査部門

○検体Ⅰ部門【生化学、免疫、血液、凝固、（輸血）】

○検体Ⅱ部門【細菌、病理、外来（一般）】

○生理部門【超音波、循環器、肺機能、脳波、
筋電図、耳鼻科】

臨床検査部門では、全体で宿日直、採血を担当し、また各種チーム医療にも参加している。

●臨床工学部門

○臨床工学部門【機器管理、透析、心カテ、手術室、他】

2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、

日本医師会・大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会の精度管理調査に40年間にわたり参加し、常に優秀な成績を収め続けている。

検査の迅速報告に対しても、検体到着後30分以内（生化学検査）での結果報告を目指し取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、時間外緊急検査の充実に取り組んでいる。

輸血検査から血液製剤管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応している。

3. 業績

論文・著書

1. 大嶽雄也, 石倉果林, 水口洋一, 城光寺 龍, 石田英和, 小西登: 乳腺oncocytic carcinomaの1例. 日臨細学会誌, 53:396-400, 2014.

平成26年度 検査件数

※4月と5月以降の統計項目は異なります。

検査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来検査	尿	17,057												17,057
	糞便	1,542												1,542
	尿		2,126	2,360	2,429	2,322	2,558	2,721	2,299	2,705	2,457	2,636	1,927	26,540
	便		1,345	1,727	1,645	1,631	1,512	1,752	1,416	1,395	1,066	1,245	1,311	16,045
	迅速抗原		98	80	55	21	64	68	148	406	555	268	232	1,995
	計	18,599	3,569	4,167	4,129	3,974	4,134	4,541	3,863	4,506	4,078	4,149	3,470	63,179
化学検査	化学・血清	153,758												153,758
	尿化学	1,101												1,101
	リコール髄液	148												148
	生化学		154,458	172,939	175,855	179,025	184,876	201,048	176,840	199,015	197,773	188,425	207,432	2,037,686
	輸血	135	221	180	192	118	189	232	180	230	224	182	210	2,293
	止血	2,839	2,111	2,794	2,771	2,368	2,505	2,744	2,595	3,007	3,014	2,634	3,232	32,614
	計	157,981	156,790	175,913	178,818	181,511	187,570	204,024	179,615	202,252	201,011	191,241	210,874	2,227,600
細菌検査	一般細菌	5,767												5,767
	抗酸菌	288												288
	一般細菌		545	579	637	529	568	638	535	530	610	549	680	6,400
	抗酸菌		93	108	95	85	87	129	101	103	125	97	144	1,167
	迅速		163	126	97	82	77	71	116	162	141	111	116	1,262
	計	6,055	801	813	829	696	732	838	752	795	876	757	940	14,884
血液検査	血色素量他	44,438												44,438
	特殊検査	31												31
	一般検血		16,462	16,629	16,971	16,532	16,949	18,040	15,535	17,508	16,933	16,257	18,234	186,050
	その他		13	21	16	14	13	20	18	16	19	18	15	183
	計	44,469	16,475	16,650	16,987	16,546	16,962	18,060	15,553	17,524	16,952	16,275	18,249	230,702
合 計		227,104	177,635	197,543	200,763	202,727	209,398	227,463	199,783	225,077	222,917	212,422	233,533	2,536,365

生理検査関係件数

A. 脳波関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度累計
脳波	17	18	15	12	10	13	23	10	23	14	18	19	192	229
筋電図他	14	7	11	20	22	19	19	17	12	21	23	23	208	100
計	31	25	26	32	32	32	42	27	35	35	41	42	400	329

B. 超音波検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度累計
甲状腺	39	17	26	40	45	33	43	35	44	34	44	40	440	412
乳腺	2	3	2	3	4	4	2	4	5	3	0	3	35	41
腹部	363	308	315	337	330	347	323	264	306	321	377	416	4,007	3,535
造影・その他	0	1	0	0	4	1	3	1	3	3	1	3	20	25
計	404	329	343	380	383	385	371	304	358	361	422	462	4,502	4,013

C. 生理検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度累計
心電図	845	728	762	784	758	764	860	725	798	901	941	1,005	9,871	10,047
トレッドミル	18	13	12	14	16	8	6	13	9	9	9	9	136	238
負荷心筋シンチ	7	4	4	4	3	4	2	1	5	9	9	7	59	36
持続心電図	21	17	18	13	15	14	23	20	15	20	14	17	207	266
心エコー	194	183	178	215	198	198	178	175	193	183	201	235	2,331	2,546
末梢血管エコー	31	34	27	32	30	28	24	22	27	24	23	32	334	1,110
肺機能	148	135	142	208	164	152	179	180	163	196	186	213	2,066	1,967
ABI	80	54	83	69	84	67	78	80	80	83	87	76	921	725
計	1,344	1,168	1,226	1,339	1,268	1,235	1,350	1,216	1,290	1,425	1,470	1,594	15,925	16,935

D. 平衡機能検査

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
平衡機能検査	76件	57件	87件	91件	58件	60件	68件	72件	78件	25件	60件	92件	824件	976件
聴力機能検査	146	178	161	137	151	146	129	123	120	122	162	156	1,731	1,928
その他	4	2	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	10	25
計	226	237	248	228	209	208	197	195	198	147	224	248	2,565	2,929

[耳鼻咽喉科]

中 央 放 射 線 部

スタッフ 部長：前田宗宏、担当部長兼技師長：在津裕明
 石垣直也、村川靖弘、森本光雄、川畑孝司、長澤浩造、新谷泰正、
 藤丸泰一、山田純子、中農智絵、伊泉希望、芝 瑞貴



1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。

また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 機器

CT	2台（320列・16列）
MRI	1台（1.5T）
RI	2台
リニアック	1台
一般撮影	2台
X線TV	2台
乳房撮影	1台
骨塩定量	1台
アンギオ	1台
結石破碎	1台
ポータブル	2台
外科用イメージ	2台

4. その他

第1種放射線取扱主任者	1名
健診マンモグラフィ認定技師	4名
核医学専門技師	1名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	2名
臨床実習指導教員	1名
診療放射線技師実習施設指導者	10名

3. 平成26年度 検査件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	833	792	822	978	818	913	892	837	914	879	850	959	10,487
MRI	374	343	369	406	355	389	424	361	401	380	406	443	4,651
RI	42	41	41	45	31	43	49	41	47	57	55	40	532
単純X線	1,765	1,509	1,731	1,858	1,604	1,632	1,906	1,672	1,890	2,075	1,883	2,098	21,623
MMG	96	95	104	126	98	116	135	109	96	110	77	92	1,254
リニアック	10	4	10	15	7	6	8	13	5	14	10	15	117

血管系IVR 76例・非血管系IVR 43例

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：道清 勉（外科部長兼任）
副 部 長：出口暁子

非常勤スタッフ：松村寿美、大平百合子



1. 診療内容

栄養管理室では、生活習慣病をはじめとする食事療法を必要とする多くの疾患の個別食事指導を中心に、入院患者さまには栄養管理計画書の作成を行い、食事提供を通して栄養管理をすることで疾患の改善目的で栄養治療を行っている。

また、栄養サポートチームを通じて、低栄養の改善、食事内容の見直しや栄養補給法について、個々に対応したチーム医療を行っている。

外来（在宅）の患者さまでは、食事療法の継続が重要なために個別食事指導の継続的な指導も行っている。

ラウンド回数：46回

・NST勉強会：26年11月14日「栄養管理の基本」

講師：居平Dr 参加者：47名

7) 患者サービスとして新しい取り組み

癌 化学療法治療者限定に選択食の導入を行なった。
昼食と夕食において実施する。

（8月4日より開始）

月	8	9	10	11	12	1	2	3	計
食	46	162	186	142	31	47	94	189	897

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で入院個別指導および外来個別指導を、糖尿病センターで外来個別指導と集団栄養指導を行った。

2) 病棟体制（表2）

各病棟を担当制として、自己の受け持ち病棟の対象者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

4月～6月はスタッフの入れ替わりにより、スタッフ数の減少による指導件数も減数となる。

1) 外来個別食事指導実績（表3）

糖尿病センターでの指導件数を含む。

2) 入院個別食事指導実績（表3）

3) 集団食事指導件数（表3）

4) 診療科別個別指導実績（表4）

5) 入院食事提供実績（表5）

6) NST活動実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	12	12	16	22	8	16	16	9	17	21	29	15	193

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会

日本静脈経腸栄養学会

日本褥瘡学会

日本栄養改善学会

日本栄養士会

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士

大阪糖尿病療養指導士

介護支援専門員

健康運動指導士

調理師

5. 業績

研究会発表

1. 出口暁子：第31回平成26年度糖尿病協会患者対象糖尿病料理教室の調理実習指導担当受託、大阪糖尿病協会顧問栄養士会、11月、2014、大阪。

2. 出口暁子、道清 勉：癌 化学療法に伴う食欲低下改善目的のため 選択食導入による効果と今後の課題、第19回大阪府栄養士会研究発表会、3月、2015、大阪。

表 1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	松村	出口	松村	大平	3名
午後	松村	出口	大平	大平	3名

表 2 担当病棟

病棟	3階	4階西	4階東	5階西	5階東	6階西	6階東
担当	松村	大平	大平	松村	出口	出口	出口

表 3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	平均
外来個別	42	48	52	45	42	41	44	45	39	39	36	46	519	43	450	38
DMセンター	87	76	73	85	89	71	92	68	95	70	82	66	954	80	877	73
DM透析予防	7	10	16	10	13	16	9	11	10	16	15	18	151	13	80	7
入院個別	80	65	74	75	83	73	98	73	84	81	78	114	978	82	833	69
集団	12	8	7	10	8	4	13	6	5	8	14	13	108	9	83	7
合計	228	207	222	225	235	205	256	203	233	214	225	257	2,710	226	2,323	194

疾患別個別栄養指導件数（集団指導含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	平均
胃腸病	4	8	15	11	7	8	11	7	5	8	4	7	95	80	43	4
肝臓病	7	8	15	10	7	15	14	18	10	11	10	10	135	11	73	6
糖尿病	150	134	134	142	150	118	149	129	146	126	144	156	1,678	140	1,431	118
腎臓病	5	9	6	9	7	5	6	3	6	5	8	6	75	6	83	7
高血・心臓・高脂	39	30	40	33	42	48	54	31	47	49	34	51	498	42	515	43
肥満症	4	3	2	1	2	1	1	0	2	1	2	1	20	2	12	1
消化器	0	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	14	1	20	2
膵臓食	7	5	1	7	11	4	7	2	9	4	7	9	73	6	45	4
その他		0	1	1	0	1	0	4	2	1	1	3	14	1	17	1
計	216	199	215	215	227	201	243	197	228	206	211	244	2,602	217	2,239	186

表4 診療科別個別栄養指導実績（DMセンター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	27	24	26	21	26	29	35	18	25	21	19	23	294	24.5
消化器内科	19	22	31	23	17	23	29	20	19	23	20	21	267	22.3
総合内科	38	28	33	36	42	31	32	30	34	28	49	62	443	36.9
血液内科	0	2	0	2	1	1	0	2	0	1	1	2	12	1.0
精神科	0	3	0	3	5	3	2	3	2	3	1	1	26	2.2
消化器外科	5	4	5	1	8	9	8	7	9	5	6	6	73	6.1
整形外科	2	1	4	3	3	1	3	1	2	1	2	4	27	2.3
皮膚科	5	2	3	3	5	6	6	10	5	6	4	9	64	5.3
泌尿器科	6	2	0	2	1	1	4	0	4	1	2	5	28	2.3
産婦人科	15	21	19	21	11	7	15	17	9	12	6	15	168	14.0
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
耳鼻咽喉科	0	1	2	3	0	2	0	0	0	1	0	2	11	0.9
神経内科	5	3	3	1	4	0	3	5	8	10	1	9	52	4.3
その他	0	0	0	1	2	1	2	5	6	3	3	1	24	2.0
合計	122	113	126	120	125	114	139	118	123	115	114	160	1,489	124.1

表5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
常食	7,142	7,664	7,908	9,249	8,772	9,281	8,070	7,765	9,046	8,370	7,681	8,805	99,753	10,516
軟菜食	4,750	5,319	4,557	3,683	7,274	4,605	4,525	5,031	4,129	3,854	4,112	5,031	56,870	65,888
特食	7,670	7,226	7,653	10,505	5,022	6,843	7,356	7,229	8,381	8,401	8,617	8,616	93,519	72,725
合計	19,562	20,209	20,118	23,437	21,068	20,729	19,951	20,025	21,556	20,625	20,410	22,452	250,142	243,829
調乳本数	1,810	2,142	1,968	2,058	2,606	2,488	2,202	2,408	2,326	2,258	2,048	3,026	27,340	28,783

錦会〈糖尿病患者会〉 6月21日…市民糖尿病公開セミナー

11月28日…錦会総会及試食会 参加人数 7人

1月30日…ランチ&セミナー 参加人数 試食25人 講演会32名

スタッフ 薬剤部長：畑中勝義

薬剤部長代理：野村浩英

薬剤師：池田久雄、乾有希子、吉岡 亮、平田貴宏、宮麻紀子、牧 秀美、
瀧川奈央、六車裕一、千原亜紀子、京由美子、前田優磨（5月～12月）、

パート薬剤師：辻 俊美、中野静香、松元麻美

事務員：岩城淳子



1. 診療内容

当薬剤部は調剤、病棟業務を主とし、医薬品の適正使用、チーム医療へ参画に取り組んできた。昨年に引き続き1病棟に1薬剤師を配置し週20時間以上の病棟業務を行った。院内の医薬品について医薬品安全管理責任者を配置し院内での医薬品安全管理の講演を行い、DIニュースを定期的に発行するなど薬剤の適正使用を図っている。糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などチーム医療にも参加し医薬品の安全使用を図った。

経済効果の取り組みとしてジェネリック薬品の導入を推進し数量ベースで60%の使用率を目標とした。結果（H26年10月～H27年3月）ジェネリック薬品使用率は67.4%であった。引き続きジェネリック薬品使用率の向上を図る。

癌化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請レジメンの承認審査並びに登録、オーダ内容の確認、抗癌剤の混注などにより癌化学療法上の安全性の確保に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は増減なくほぼ前年度並になっている。薬品購入金額は対前年比96.6%、3,300万円の減額となった。平成26年5月新電子カルテ入れ替えに伴い、処方オーダシステムの運用、薬品マスターファイル管理、レジメン管理システムの構築を行った。

医療外業務として薬学部学生 of 病院実務実習を受け入れた。期間・人数は、1期3ヶ月間に4名を受け入れ、3期で合計12名であった。

2. 業務体制

1) 人員配置

人員：薬剤師15名（パート3名を含む）、事務員1名

配置：調剤・製剤業務7名、薬剤管理指導業務7名

治験管理室（事務局）1名

薬品管理 事務員1名

2) 病棟体制

薬剤師7名を配置。

薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施している。

3) 薬剤部内体制

薬剤師8名、事務員1名を配置

調剤業務5名、製剤室1名、DI（薬品情報室）1名

治験管理室1名、薬品管理1名（事務員）

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数 131枚/日（外来注射処方を含む）

入院処方箋枚数 179枚/日

服薬指導件数 552件/月（薬剤管理指導業務）

抗癌剤調製件数 268件/月

2) 院内学術活動（講演）

市民健康セミナー

（ご存じですか？～お薬の正しい飲み方～）

市民健康セミナー

（解熱剤使用上の注意（成人・小児））

院内感染対策教育講演（消毒薬について）

医療安全講演会（医薬品安全管理について）

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）12通

薬ニュース2通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会認定薬剤師 2名

がん薬物療法認定薬剤師 2名

感染制御認定薬剤師 1名

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 1名

日本糖尿病療養指導士 2名

5. 業績

学会発表

- 野村浩英、宮麻紀子、松元麻美、六車裕一、牧 秀美、平田貴宏、吉岡 亮、乾有希子、池田久雄、畑中勝義：口腔内疼痛に対するジクロフェナック含嗽（院内製剤）の有用性評価. 第24回日本医療薬学会年会ポスター発表, 9月, 2014, 名古屋.

研究助成・治験・臨床研究等

（臨床研究）

- エチゾラムの母乳中薬物濃度測定（乾有希子）
- バルプロ酸の血漿中薬物濃度測定（乾有希子）
- バルプロ酸の母乳中薬物濃度測定（乾有希子）

薬剤関係件数

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	1,489	2,242	2,400	3,020	2,744	2,866	2,895	2,657	3,102	3,050	2,581	2,998	32,044	21,320
			件数	2,175	3,003	3,280	4,146	3,940	4,074	4,135	3,668	4,261	4,255	3,787	4,199	44,923	22,834
		1日当り	枚数	62	125	109	144	125	143	145	133	155	153	129	150	1,572	1,042
			件数	91	167	149	197	179	204	207	183	213	213	189	210	2,202	1,116
	入院	総数	枚数	4,537	4,560	5,100	5,950	5,271	5,461	5,572	5,249	6,076	5,653	5,485	6,057	64,971	54,827
			件数	8,255	8,137	8,584	10,411	9,046	9,437	9,715	8,880	10,496	9,741	9,879	10,575	113,156	99,681
		1日当り	枚数	151	147	170	192	170	182	186	175	196	182	196	195	2,143	1,809
			件数	275	262	286	336	292	315	324	296	339	314	353	341	3,733	3,288
注射	入院	総数	枚数	7,145	16,792	19,235	22,271	18,991	16,333	19,885	19,489	22,481	22,480	19,426	22,264	226,792	74,708
		1日当り	枚数	238	542	641	718	613	544	641	650	725	725	694	718	7,450	2,444

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	438	424	516	549	534	454	528	462	568	555	604	635	6,267	7,310
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	187	155	157	177	165	188	187	142	160	184	181	182	2,065	2,075
(入院化学療法)	67	108	62	121	119	120	134	90	89	89	65	81	1,145	1,022
TPN調製件数	54	63	0	8	5	0	15	15	0	67	64	19	310	524

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計	
麻薬処方箋	外来	内 用	0	2	5	0	3	0	2	0	1	2	0	1	16	7
		外 用	1	2	5	3	4	3	3	2	3	2	1	2	31	51
		注 射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	内 用	82	52	80	91	92	63	44	76	63	71	29	56	799	1,238
		外 用	14	24	23	22	24	32	31	24	37	26	16	20	293	453
		注 射	177	177	205	207	251	147	206	185	237	191	172	199	2,354	1,985

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
製 剤	件数	318	394	431	580	309	487	406	365	424	314	326	366	4,720	5,871
無菌製剤	件数	155	161	228	177	159	215	185	151	214	159	206	157	2,167	2,517

[薬剤部]

治 験 管 理 室

スタッフ 室長：立花 功

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子（看護師）

水越由佳子（看護師・兼任）

西本 泉（薬剤師 平成26年8月～平成27年3月）

事務局：瀧川奈央（薬剤師）、橋本由美（事務）



1. 業務内容

治験管理室では、治験の事務局として、製薬会社や日生病院各診療科への治験打診、日生病院治験審査委員会業務手順書の改訂、製造販売後調査・医師主導研究のCRCマニュアルの作成、外部CRC対応マニュアル及びCRC業務マニュアルの改訂を行っている。

平成26年度は、月1回の治験管理室会議を開催し、依頼者／医療機関共有「施設選定～契約までのチェックリスト」を作成し業務の効率化を図った。日生病院治験審査委員会標準業務手順書、外部CRC対応マニュアル及びCRC業務マニュアルを改訂した。また大阪医薬品協会治験推進プロジェクトに参加して治験に関する最新情報を入手し、日生病院での治験促進に努めた。

2. 業務実績

1. 治験審査委員会（IRB）13回開催

倫理委員会 10回開催

2. 年間治験実施件数 20件（前年度からの継続実施16件、平成26年度新規受託4件）

3. 製造販売後調査 新規契約 27件

4. 臨床研究 倫理委員会申請件数 27件

平成25年度から年間治験実施件数は20件以上と伸びている（図1）。一方、治験被験者数や臨床開発モニター（CRA）への対応時間は、平成22年度から右肩上がりで増加しており（図2）、治験管理室の業務量、役割が増している。

3. 業績

学会発表

1. 山口崇臣, 厚々瀬芳, 榎本恭子, 大村美幸, 岡田正彦, 佐野敬子, 竹澤正行, 谷口真理子, 信谷宗平, 本田富得, 森藤由香, 松岡悦子: 実施医療機関/治験依頼者統一チェックリストの評価と拡充. 第35回日本臨床薬理学会学術総会, 12月, 2014, 松山.

図1 治験・臨床研究等実施状況

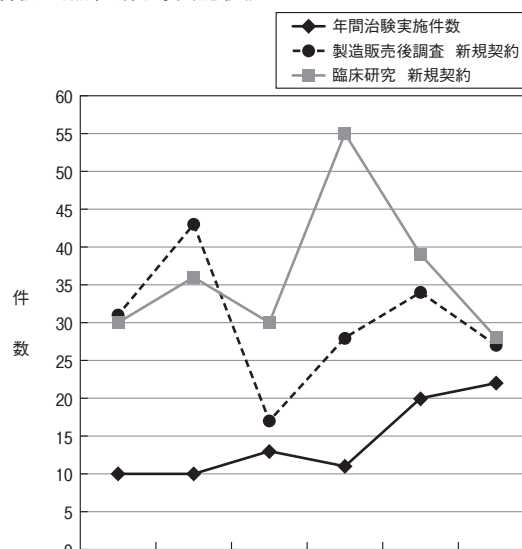
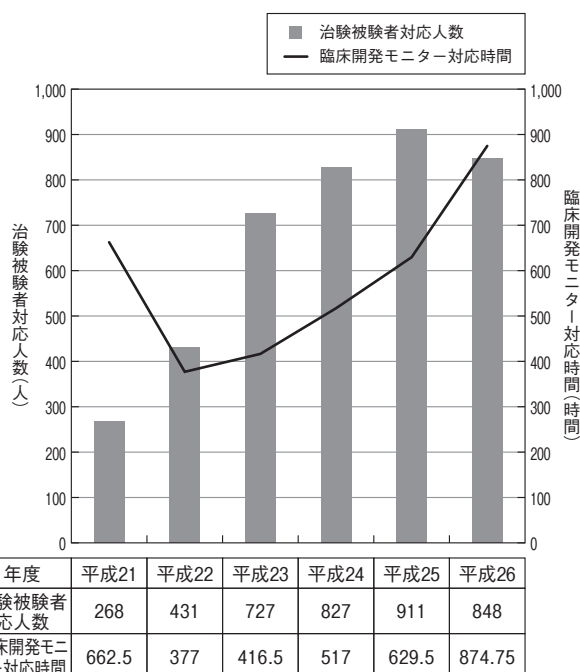


図2 治験被験者対応人数・臨床開発モニター対応時間



スタッフ 室 長：藤田征巳（副院長、産婦人科部長）
副室長：町田恵子（医療安全管理者、副看護部長）
室 員：石坪健治（医事専門部長）



1. 概要

平成18年医療法、薬事法の改正により、病院に対し医療安全対策の充実が求められた。

当院は、平成12年「医療安全管理委員会」が組織され、本委員会が中心となり、質の高い医療の提供を目指し、日常診療の点検、インシデント・アクシデント事例の共有と対策の立案を行ってきた。また、「医療安全管理マニュアル」を作成し、医療安全に対する意識の向上に努め、専従の医療安全管理者を配置し、組織横断的に活動することで、医療安全管理の組織風土醸成に寄与してきた。

さらに、平成26年5月富士通の電子カルテへの移行に伴い、インシデント・アクシデントレポートシステムが導入された。レポート入力負担の軽減が図られ、患者認証システムにより、より安全性の高い医療が提供できるようになった。

2. 平成26年度活動計画

1) インシデント・レポートシステムの円滑な導入

2) 医療安全管理マニュアルの見直し

(1) 暴言・暴力マニュアルの見直し

3) 定期的な医療安全ラウンドの実施

(1) ラウンドチェックシートの作成

(2) 医薬品、医療機器、環境ラウンドを実施する。

(3) 時計合わせ活動の実施

4) 医療安全研修の企画・運営

3. 活動実績

1) インシデント・レポートシステムの運用は、5月の電子カルテ移行後、操作や手順に慣れる時期として、6月から開始した。運用開始前に、インシデント・レポートシステムの操作マニュアルを院内LANで全職員に配信したことで、スムーズな運用に繋がったと考える。

2) 医療安全管理マニュアルの見直し

・レポート取り扱い要領の見直し

・暴力対応マニュアルの見直し

・異状死ガイドラインの作成

・アナフィラキシー対応フローチャートの見直し

・患者本人確認マニュアルの作成

・口頭指示マニュアルの作成

・転倒・転落防止マニュアルの見直し

3) 定期的な医療安全ラウンドの実施

(1) ラウンドチェックシートは、医薬品・医療機器・環境ラウンド毎に作成した。

(2) 医薬品・医療機器・環境ラウンドの実施

医薬品ラウンドは、8月21日病棟の麻薬管理状況と施錠の確認、注射バイアルの開封日の記載漏れ確認、薬品冷蔵庫の温度確認を実施した。麻薬管理の施錠は2部署において鍵が差し込まれた状態と施錠していない状態があり、適切に管理するように指導した。注射バイアルの開封日の記載漏れは、冷蔵庫保管のインシュリンにあり、開封日の記載の徹底を依頼した。また、キシロカインEについては、日付の記載はあるものの年度不明のため廃棄を促した。温度管理は、適切に行われていたが、温度管理表のフォーマットの統一と実施を依頼した。中でも、食品などの混在、劇薬・普通薬の配置区分の明確化を課題とした。

第2回目は、外来部門の規制医薬品管理、処置薬の管理、救急カートの保守・管理状況を確認した。規制品医薬品管理については適切であった。但し、救急カートの担当薬剤師印の漏れがあるため押印の徹底を指導した。

医療機器ラウンドについては、7月24日院内に廃棄対象の3脚支柱台が残っていたため調査することとした。病棟・外来あわせて30本もあった。早急買い換え購入を依頼し全て置き換えた。酸素ボンベはボンベ立てに保管されているか、基本的なことではあるがコンセントの埃について委員会メンバーでラウンドを行った。酸素ボンベについては、ボンベ立てに保管されていたが、使用後のボンベについては床に横に寝かせていたり、ボンベのみを立てていたため適切に保管するように指導した。コンセント周辺の埃については、概ね清潔であったが、一部の部署については清掃の徹底を促した。委員から、電子カルテの電波不良とモニタ不足の意見が出たため、医療安全管理委員会とME室、シ

システム室と連携し調査した。電波不良に対しては、LANの変更により改善された。また、モニタ不足に対しても、LANの工事を行い、共通モニタを増設することで、モニタ不足は解消された。

環境ラウンドは、9月18日に行った。全般的に病棟廊下に物がたくさん置かれている。収納設備がないため難しい点もあるが、各部署整理・整頓に努めるよう指導した。

4月・5月は紙運用のレポート提出率は低かったが、6月からインシデント・アクシデントレポートシステムの運用が始まり大きな差はなかったが、年間比較では、平成27年、例年レポートの提出件数の少ない4・5月の提出件数は大きく増加した。これは、インシデント・アクシデントレポートシステム導入により、レポートの入力負担が軽減できたのではないかと考える。また、システム導入に伴い、病院職員の医療安全に対する意識が高まったと考える。しかし、レポート提出総数874件は、全国平均には及ばない。さらなる提出率アップと看護師以外の提出が少ないため、積極的な働きかけが必要と考える。

(3) 時計合わせ活動の実施

ラウンドの結果、代表時計と親時計の誤差がないか電波時計で確認したが全て誤差のない状態であった。

4. 医療安全研修の実績

全職員対象の研修会は2回企画、運営した。

平成26年9月26日(金) 17:15~18:30

テーマ: 訴訟、「トラブルに強いカルテの書き方」

講師: 医師 弁護士 長谷部圭司 先生

日頃から、医師、看護師の記録内容がコピー&ペーストが多く不適切な内容が見られた。また、記載内容の表現に誤解を招くようなケースが散見された。そこで、医師記録、看護記録はどうあるべきか、司法の立場から助言を頂けるように、当院の記録事例をもとに講義頂いた。身近によくある記録内容の不適切とされる法的根拠を含め、分かりやすく教えて頂いた。さらに、何をどのように書くべきか解説付きの講義で大好評であった。参加者数は、院内研修始まって以来の178名の参加であった。アンケート結果から良かった点として、具体的に分かりやすく、明日から活かすことが出来ると非常に満足と満足で80%を超える回答であった。医師、看護師からも訴訟などに備え知識の習得できる研修の要望が高かった。また当院でも、声の大き

い患者の対応に苦慮するケースやその記録はどのように書けばいいのか専門家に聞きたいとの要望に対応した研修内容であった。実施した事実のみを正確に記録することが重要であるが、そこに個人の感情や意見が無意識に文中に表現されているケースも見られ、今後の課題といえる。カルテ・看護記録は、患者情報を共有する道具であり、チームで共有し医療・看護の質を向上させるためにも、事実のみの記載が重要となる。今後、カルテ監査を診療録管理委員会と協力し、精度の高い記録をめざし実施していきたい。

平成27年2月24日(金) 17:15~

テーマ: 「モニタのアラームと安全管理」

講師: 日本光電(株) 安全管理部

萩田 清 先生

テーマ: 「医薬品の適正管理を考える」

講師: 医薬品安全管理者 野村浩英

薬剤部副部長

モニタのアラーム対応を懸念する事象、アラームに鈍感になっている状況や急変時のアラーム対応について改善する方向でテーマを選定した。改めて、モニタ設置の意義とアラームの対応について基本的な知識・技術の確認ができた。「医薬品の適性管理を考える」では、本年、抗菌剤と筋弛緩剤を間違えた事例報道について詳しく説明され、改めて医薬品の確認を徹底する必要性を痛感した。今回の参加者総数224名と過去最大の出席数であった。研修に対する評価は、非常に満足と満足が60%で、普通が32%であった。研修内容が基本的知識・技術の再確認であったため、満足度が低かったと考える。しかし中には、モニタの設定から装着状態が適切かどうか常にチェックし徹底できるように病棟で取り組みたいとの意見もあった。

今後の研修企画において、基本的な知識・技術の確認とトピックスを織り交ぜた内容の検討を図っていきたい。また、患者からの苦情、クレームが減らない中、コミュニケーションスキルアップ研修も引き続き必要と考える。チーム医療では、各職種がもつ複雑な技術が集約されて行われている。各々の職種の志向性の違いや、職域のすき間もしくは重なり、集団特性等によって、リスクやエラーを検出・指摘・訂正できない場合がある。

安全や質を担保するためには、コミュニケーションやリーダーシップ、意思決定、状況認識などの「ノンテクニカルスキル」の向上が重要となる。職種や経験の壁を越え、チームの一員としてこれらの能力を強化し、実践することが必要と考え企画・運営していきたい。

スタッフ 感染対策室長：小瀬戸昌博
 担当薬剤師：池田久雄
 担当検査技師：藤田育子
 担当看護師：大野典子（感染症看護専門看護師）



1. 活動内容

感染対策室は感染症の予防と感染が発生した場合でもその拡大防止を目標に院内の感染症発生や耐性菌検出を早期に察知し、各部門と連携し適正な治療と安全な療養環境が提供できるよう活動している。

具体的にはICT（Infection control team＝以下ICT）カンファレンスを開催し（1回/週）、感染症診療時の抗菌薬や検出微生物に関する情報を提供する。また、ICTラウンドを開催し（1回/週）、標準予防策や感染発生時の感染経路別予防策の実施状況の確認を行っている。

また感染対策加算Ⅰ認定施設として他病院も連携し情報提供や感染発生時の支援を行っている。

2. 活動体制

感染対策室には専従者が在籍するため感染症診療や感染防止に関する相談を常時受け付けICTメンバーへの連携や、必要時は院内感染対策委員会の臨時開催などが速やかに行えるような体制をとっている。

3. 活動実績

平成26年度感染対策室への相談件数171件であった（表1）。

表1 職種別相談件数（年間）

職種	医師・研修医	看護師	コメディカル	事務	退院等その他
件数	77	64	8	5	17

1) 感染症診療の支援

ICTの介入件数は148件（平成26年6月～平成27年3月）うち届け出抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択、中止に関する相談など抗菌薬使用に関する介入が127件であった。

2) 感染予防と発生時の対応

【集団感染の予防と制圧】

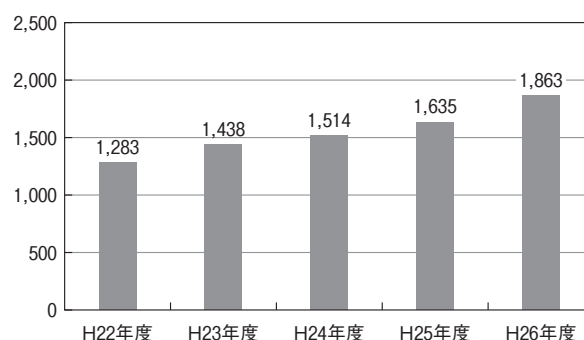
結核発生時の対応（発生届出数13件内入院患者10件）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（発生届出数1件）を含む耐性菌検出時の予防策の確認などを行った。結核においては院内での発生はなく、耐性菌においては孤発での院内感染事例はあるが集団感染事例は認めていない。季節性インフルエンザ流行期間に入院患者および職員が集団で罹患する事例が発生したが、関連部署および罹患職員との連携により早期に予防内服を開始する

などし、拡大することなく制圧できた。

【標準予防策徹底への取り組み】

手指衛生徹底への取り組みとして、感染リクナースと協同し各部署へ手指衛生材料の使用実績を情報提供した。

図 擦式手指消毒剤年間購入量



【地域連携施設における取り組み】

地域連携カンファレンスの開催（4回/年）、相互ラウンド（1回/年）を実施した。また、平成26年度より当院での教育講演に連携病院の参加を呼びかける新しい取り組みを開始した。

【パンデミック等への取り組みと院内教育】

第1回教育講演 7月15日

「抗生剤の適正使用」小瀬戸昌博

（感染対策室室長・院内感染対策委員長）128名参加

第2回教育講演 2月10日

「感染制御医からみた感染対策」林三千雄先生

（住友病院感染制御部部長）249名参加

今年度より「全職員で情報を共有すること」を目的としてDVD視聴を開始した。

平成26年度はデング熱の国内発生、エボラ出血熱の世界的流行をみとめ当院でも来院者への対応や診断について情報を関連部署に提供した。

4. 業績

論文・著書

- 大野典子, 藤田育子, 池田久雄, 平田貴宏: ICTにおける道しるべと判断基準－感染対策におけるコンフリクトマネジメント－, INFECTION CONTROL, 24, 3(224-233), 2015.

研究会発表

- 池田久雄:「施設での活動報告」, 第9回大阪感染制御薬剤師講習会, 2015, 3, 1.

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：船渡孝郎

部長：近石克也、(谷口史朗)、(石坪健治) 担当部長：佐々木芳紀

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：北村一美、瓜本恵美子

事務員：岡部由利、那須千里、森本洋子、西岡千幸、渡辺喜代美、岩切綾子

(2) 医療福祉相談グループ

医療ソーシャルワーカー：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）、

松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）、福庭加奈（社会福祉士）、清水美紗（社会福祉士）

※患者様サポートスタッフ：松本満康、圓田久美子（H26年5月～H27年1月）、福田絵夢（H27年2月～）



1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- 地域の医療機関からの診療・検査予約
- あったかサポートセンター経由の紹介患者受付
- 紹介患者の受診結果報告
- 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力（p.113参照）
- 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き
- 開放型病院登録医の共同診療時の対応
- 人間ドック、健診後受診患者および企業健診後

受診患者の診療・検査予約、受付

2) サービス広報

- 医療機関向け診療案内の発行
- 登録医への診療日程案内・情報提供
- 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行
- 市民健康セミナー等の開催、開催協力（p.117参照）
- 地域医療機関等の情報収集・調査
- ホームページの管理
- 図書・情報コーナーの管理
- ボランティアの受付・調整

■ 2014年4月～2015年3月

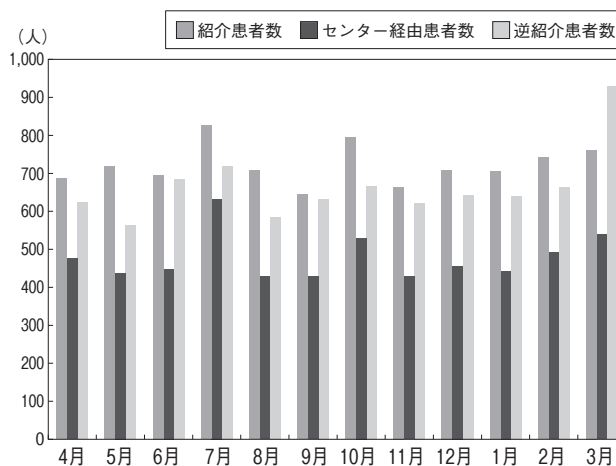
診療科別紹介数、あったかサポートセンター経由患者数

〈年間〉

科 別	紹介患者数* (救急車搬入患者含む)	センター 経由患者数	逆紹介 患者数
循環器内科・神経内科	451	282	594
消化器内科	670	521	575
総合内科	994	658	939
血液・化学療法内科	236	173	174
神経内科	192	98	194
精神科	152	135	266
小児科	175	92	225
外科	156	80	189
乳腺外科	147	100	160
整形外科	399	192	224
皮膚科	555	428	430
泌尿器科	341	186	341
産婦人科	1,614	943	1,588
眼科	254	182	289
耳鼻咽喉科	724	361	498
救急診療センター	573	68	129
放射線科	974	1,192	1,078
麻酔・緩和医療科	46	49	80
合計	8,653	5,740	7,973

※紹介患者数は初診算定数。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	686	718	696	826	707	644	794	664	709	706	742	761
センター経由患者数	476	437	448	633	429	428	530	429	456	443	492	539
逆紹介患者数	623	563	684	720	585	633	666	622	643	641	664	929

2. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

a. 相談援助総件数

平成26年度は、総数9,442件（1日平均38.4件、月平均786.8件）の相談を受けた。

b. 新規相談

平成26年度の新規相談は2,375件（昨年は2,191件）であった。紹介経路別にみると、看護師（582件）、医師（249件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が38.7%（昨年は37.6%）を占め、本人（444件）と家族（493件）からの相談が39.5%（昨年は40.8%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療

養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が40.6%と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、指定難病、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（18.6%）、無料・低額診療に関する相談援助（18.3%）、受診・受療に関する問題調整（9.3%）となった。

2) 地域活動

a. 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進

b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会へ参画による地域の高齢者施策等への貢献

c. 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、在宅生活を支援

■医療福祉相談グループ

〈相談取り扱い件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	77	87	46	89	48	61	92	52	27	35	41	85	740	917
神経内科	78	91	93	75	97	128	106	44	62	77	84	104	1,039	665
消化器内科	61	57	68	99	78	64	86	69	64	102	81	95	924	715
総合内科	182	151	132	106	174	180	153	119	119	126	159	140	1,741	1,951
血液・化学療法内科	78	86	51	61	60	32	15	30	48	51	99	52	663	606
神経科・精神科	57	59	86	34	35	56	80	83	65	35	48	45	683	666
小児科	15	7	7	19	16	18	46	68	65	13	21	23	318	553
消化器・一般外科	32	36	31	34	39	37	35	26	28	19	30	17	364	286
乳腺外科	6	1	1	5	1	2	4	8	4	2	1	6	41	118
整形外科	78	50	92	105	41	74	83	74	88	111	77	105	978	934
皮膚科	31	17	4	11	11	10	10	18	20	20	21	9	182	229
泌尿器科	28	7	6	36	26	36	17	20	35	16	38	31	296	515
産婦人科	3	11	25	21	4	21	17	22	27	10	24	28	213	260
眼科	2	0	4	6	0	1	4	5	2	11	10	13	58	40
耳鼻咽喉科	14	9	29	35	28	34	29	32	30	29	42	44	355	299
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	10	12
麻酔・緩和医療科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3	8
救急診療センター	4	6	9	37	32	17	21	12	14	33	19	73	277	134
その他	37	18	13	38	71	56	52	86	52	55	47	32	557	453
合 計	783	693	697	811	761	827	851	773	756	746	842	902	9,442	9,361

〈新規ケース紹介経路〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	24	6	0	19	4	1	20	5	1	32	9	1	21	7	0	27	7	1	31	5	1	54	10	2
家族	17	15	0	12	10	0	14	12	0	19	11	1	30	13	1	12	14	2	51	10	0	64	14	1
医師	7	15	0	7	11	0	4	11	0	7	24	0	4	18	0	7	8	0	4	10	0	9	10	0
看護師	7	34	0	6	28	0	10	38	0	8	39	0	3	33	0	4	47	0	14	41	0	6	37	0
その他院内職員	5	2	0	3	1	0	2	3	0	2	6	0	3	2	0	6	2	0	7	2	0	5	5	0
保健福祉関係機関	3	8	0	2	6	0	5	5	2	5	12	0	4	6	3	5	10	1	11	8	1	2	6	0
医療機関	7	1	2	4	4	0	2	1	0	11	2	1	9	0	2	7	1	0	5	2	0	2	1	1
福祉施設	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	8	7	0	14	12	1	15	7	0	5	9	0	5	8	1	7	7	0	5	6	1	8	5	1
その他	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
小計	79	88	2	69	79	2	73	82	3	91	112	4	79	88	8	76	98	4	129	84	3	150	88	5
総合計	169			150			158			220			175			178			216			243		

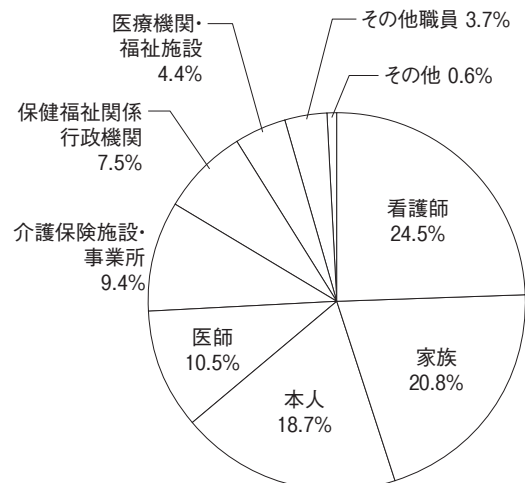
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	34	9	2	20	13	2	33	7	1	31	3	1	346	85	13	325	95	3
家族	34	14	1	23	15	0	16	15	0	24	24	4	316	167	10	357	106	7
医師	9	12	0	11	22	0	2	18	0	6	13	0	77	172	0	63	167	0
看護師	8	51	0	8	45	0	4	34	0	11	66	0	89	493	0	104	421	1
その他院内職員	4	2	0	2	9	3	3	2	0	4	1	1	46	37	4	33	35	0
保健福祉関係機関	7	8	0	9	7	3	10	11	1	4	12	0	67	99	11	78	86	7
医療機関	5	5	0	5	4	0	5	1	1	5	2	1	67	24	8	50	15	6
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	3	0	0
介護保険施設・事業所	8	10	2	9	11	2	9	10	0	15	16	0	108	108	8	99	110	3
その他	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	6	6	2	8	8	1
小計	109	111	6	87	127	10	82	98	3	102	137	7	1,126	1,192	57	1,120	1,043	28
総合計	226			224			183			151			2,375			2,191		

〈相談援助総件数（延べ数）〉

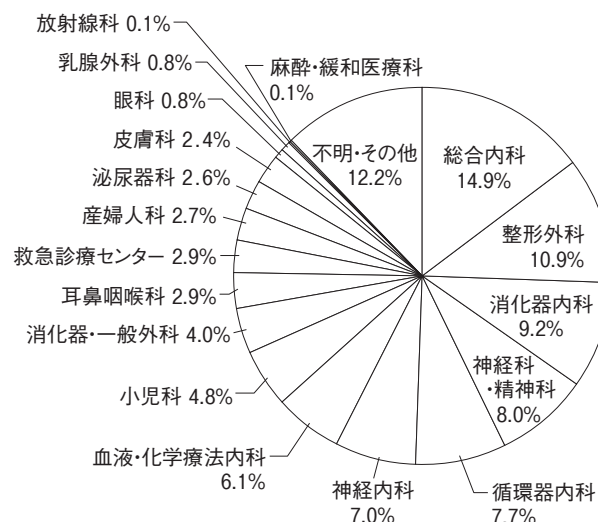
	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
循環器内科	740	917	1,526	1,545	1,406
神経内科	1,039	665	※	※	※
消化器内科	924	715	397	262	444
総合内科	1,741	1,951	1,303	1,107	968
血液・化学療法内科	663	606	493	369	281
神経科・精神科	683	666	540	409	307
小児科	318	553	221	28	14
消化器・一般外科	364	286	573	287	372
乳腺外科	41	118	50	30	90
整形外科	978	934	1,078	993	951
皮膚科	182	229	184	134	183
泌尿器科	296	515	279	278	229
産婦人科	213	260	370	49	108
眼科	58	40	38	41	69
耳鼻咽喉科	355	299	174	239	182
放射線科	10	12	4	0	5
麻酔・緩和医療科	3	8	26	2	24
救急診療センター	277	134			
不明・その他	557	453	225	69	91
合計	9,442	9,361	7,481	5,842	5,724

※平成22年度～24年度の神経内科は循環器内科に含む

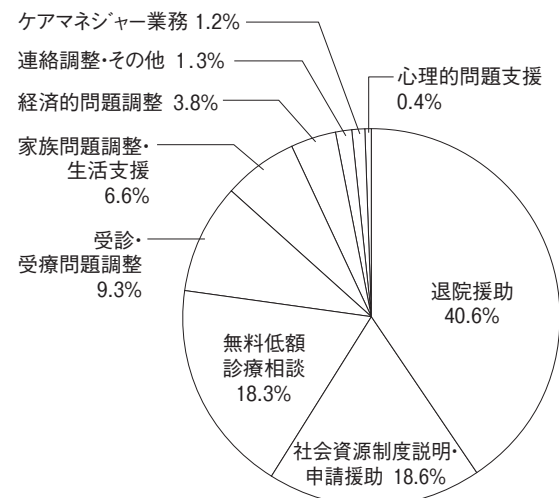
〈相談援助総件数（延べ数）〉



〈新規相談（診療科別）〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(378名)

(H27.3.31現在)

西 区	(医)天野医院	天野 良男
	(医)治生会 石村クリニック	石村 順治
	いとう消化器クリニック	伊藤 裕之
	いぬい小児科	乾 一郎
	井上外科	井上 俊明
	今岡内科胃腸科クリニック	今岡 渉
	近江眼科	近江 源次郎
	大谷クリニック	大谷 遷
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	耳鼻咽喉科 岸本医院	岸本 勝
	北川医院	北川 久能
	くとく内科	久徳 均
	九間クリニック	九間 祥一
	河野外科	河野 実
	(医)佐々医院	佐々 成紀
	佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	下條内科クリニック	下條 信雄
	杉本眼科	杉本 英之
	坪井眼科	坪井 俊児
	ながお医院	永尾 尚子
	(医)敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	(医)丹生医院	丹生 純一
	(医)長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	新町クリニック	濱田 和哉
	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医)フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	阿波座診療所	藤井 省治
	藤田外科・胃腸科	藤田 宗行
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	やまもとクリニック	山本 忍
	ゆあさ眼科医院	湯浅 武之助
	うつば診療所	横松 泰夫
	京町堀整形外科	牧野 正
	さかざきこどもクリニック	坂崎 弘美
	健クリニック	三木 基子
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	(医)ほのぼの会さかいクリニック	坂井 貴子
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	藤野歯科医院	藤野 明
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	(医)三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴
	奥町内科	奥町 富久丸
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	島野医院	島野 直人
	松浦内科クリニック	松浦 良和
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	藤本クリニック	藤本 聡
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
(医)銀杏会 銀杏会本町クリニック	野呂 義隆	
医療法人天方会 AMA Clinic	天方 義人	
西長堀医院	則武 正三	
王内科胃腸科クリニック	王 康義	
藤本クリニック 内科	井ノ本 美子	

西	(医)天野医院	天野 祥子	
	(医)名山会 上杉医院	上杉 雄二	
	(医)優昌会 本城整形外科	本城 昌	
	ISクリニック	糸原 房宣	
	みやざきクリニック	宮崎 裕子	
	慶生会クリニック大阪	栗田 隆	
	(医)佐々医院	佐々 成太郎	
	(医)佐々医院	佐々 仁美	
区	大阪きつがわ医療福祉生活協同組合医療生協なごほり通り診療所	蒲生 健	
	耳鼻咽喉科 さとうクリニック	佐藤 一雄	
	整形外科 おうクリニック	王 正道	
	福中クリニック	福中 道男	
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾	
港	藤本クリニック 内科	池田 昌人	
	生野内科クリニック	生野 善康	
	大沢診療所	大澤 理	
	大塚医院	大塚 颯宏	
	香山医院	香山 仁志	
	(医)誠昌会整形外科くにしげクリニック	國重 昌彦	
	塩見医院	塩見 啓二	
	(医)鈴木医院	鈴木 稔也	
	(医)龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘	
	土田クリニック	土田 茂	
	(医)三愛会 中山整形外科	中山 明	
	(医)天斗会 中山医院	中山 富雄	
	(医)前田診療所	前田 勉	
	やながクリニック	彌永 邦彦	
	(医)大和医院	大和 直久	
	(医)聖愛会山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞	
	古林内科	古林 芳範	
	宮岡クリニック	宮岡 哲郎	
	奥野クリニック	奥野 亜妃子	
	(医)西診療所	西 紀	
	いはら内科	井原 義二	
	笹尾医院	出雲谷 剛	
	金谷内科医院	金谷 英夫	
	北代診療所	北代 勇夫	
	区	北代診療所	北代 修司
		松浦診療所	新井 孝和
		(医)緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
北村医院		北村 雅哉	
坂元内科クリニック		坂元 一夫	
(医)ほのぼの会にいつクリニック		新津 建樹	
(医)頼医院		頼 明信	
義元診療所		義元 徳祥	
(医)喜馬外科		喜馬 秀樹	
野洲クリニック		野洲 武司	
(医)小嶋整形外科		小嶋 博司	
島崎診療所		島崎 久美子	
(医)大奈会 やすだ耳鼻咽喉科		安田 大作	
(医)堀井耳鼻咽喉科		堀井 睦	
谷内医院		石井 登志枝	
(医)信愛会大和診療所		大和 宗久	
西山眼科		西山 和夫	
みなと生協診療所		倉澤 高志	
金田クリニック		金田 眞一	
太田整形外科クリニック		太田 信彦	

港 区	大阪医院	大阪 正視
	やぎクリニック	八木 隆
	賀来医院	賀来 清高
	喜多クリニック 弁天町クリニック	喜多 紀人
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	岸医院	岸 良治
	溝口内科	溝口 理映子
	山田医院	山田 卓
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	しん眼科クリニック	秦 尚修
大 正 区	社会福祉法人秀生会ザイオン診療所	中山 秀雄
	(医)尚信会 整形外科 河村医院	河村 禎人
	医療法人財団悠久会 辻クリニック朝潮橋分院	辻 孝教
	(医)銀杏会 常松診療所	常松 静也
	(医)光風会 江口医院	江口 隆
	石村整形外科	石村 俊信
	柿原医院	柿原 幸司
	(医)邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	小正医院	小正 尚裕
	寒川医院	寒川 通洋
大 正 区	(医)健人会 弘田医院	弘田 俊行
	藤吉医院	藤吉 庸雅
	(医)松原皮膚科医院	松原 爲明
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	(医)得伊会中山診療所	中山 秀雄
	横山医院	横山 正博
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
大 正 区	北新会 藤原耳鼻咽喉科	藤原 隆行
	(医)良仁会 西村外科	西村 良彦
	船井医院	船井 俊彦
	加納レディスクリニック	加納 英男
	金城外科脳神経外科	金城 康夫
	五味クリニック	五味 正裕
	(医)明友会 安井整形外科クリニック	安井 明
	本山耳鼻咽喉科	本山 壮一
	(医)田辺耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	佐々木耳鼻咽喉科(休診)	佐々木 隆晴
大 正 区	一ノ名医院	一ノ名 正
	(医)久志会 黒川眼科	志水 一夫
	ひらいけ内科	平池 豊
	足立医院	足立 俊之
	本山診療所	本山 忠
	(医)秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	大阪製鐵恩加島診療所	辰巳 佳次
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	山北内科クリニック	山北 哲也
	山北内科クリニック	山北 直子
大 正 区	中村医院	中村 義弥
	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵
	(医)北村診療所	北村 彰英
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	アダチ眼科医院	郡 千栄
	大正ファミリークリニック	瓦林 佳子

大 正 区	マツオ整形外科	松尾 澄治
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合 大正民主診療所	鈴木 昇平
浪 速 区	井上医院	井上 薫
	竹中医院	竹中 秀裕
	(医)徳田クリニック	徳田 修
	(医)徳田クリニック	徳田 好勇
	橋村医院	橋村 直隆
	(医)檜山診療所	桧山 寛市
	本田クリニック	本田 秀明
	(医)薫鳳会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	(医)菱川クリニック	菱川 秀夫
	(医)佐藤会 佐藤医院	工藤 俊次郎
福 島 区	沢井眼科	澤井 貞子
	佐久間医院	佐久間 靖博
	かねだクリニック	金田 高次
	小池クリニック	小池 洋志
	有田医院	有田 繁広
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	えびす診療所	久保田 泰弘
	耳鼻咽喉科中村クリニック	中村 泰久
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	(医)泰人会 森川クリニック	山口 貴也
福 島 区	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	(医)入野医院	入野 宏昭
	笹岡医院	笹岡 英明
	(医)理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	川田医院	川田 信哉
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	(医)岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正
	江頭医院	江頭 明盛
	クダラ医院	百済 尊彦
	猿渡レディスクリニック	猿渡 善治
住 之 江 区	田仲循環器・内科医院	田仲 輝光
	林クリニック	林 為仁
	松下医院	松下 正幸
	森山眼科	森山 穂積
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	よこいクリニック	横井 秀保
	あおやま医院	青山 晃子
	福島アイクリニック	衆山 泰明
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	愛クリニック	上地 正雄
中 央 区 (東)	(医)桜峰会本場診療所	八尾 宜明
	野田診療所	小濱 譲次
	(医)成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	中村クリニック	中村 幸生
	くまだ内科・小児科クリニック	武田 徳弘
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	福島医療生活協同組合 吉野診療所	中西 功
	東口クリニック	東口 等
	岡村クリニック	岡村 弘光
	中島クリニック	中島 静一
中 央 区 (東)	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
	(財)洪庵記念会産婦人科くりにいこがた	緒方 高志
中 央 区 (東)	かただクリニック	堅田 明浩
	なかがわ 中之島クリニック	中川 晶

中 央 区 (東)	(医)西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供既製服健保組合健康管理室	間島 行春
	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	(一財)大阪府結核予防会相談診療所	増田 國次
	大林組大阪診療所	森島 豊彦
	日本生命健康管理所	藤岡 滋典
	日本生命健康管理所	石神 真人
	(医)政明会 春次医院	春次 智三郎
	塩野義製薬本社診療所	秋岡 壽
	みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター	廣部 一彦
	大阪ニット健康保険組合保健医療センター	藤井 宏
	柴田耳鼻咽喉科	柴田 重太郎
	医療法人 清樹会 清樹会クリニック	柏木 宗憲
	トミタクリニック	富田 忠宏
	(医)ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
	(医)紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医)高折医院	高折 和男
中 央 区 (南)	たがや内科	多賀谷 昌史
	藤井耳鼻咽喉科	藤井 春生
	本町 林クリニック	林 宏明
	(医)東迎会 東迎クリニック	東迎 高意
	(医)今川医院	今川 得之亮
	岩佐クリニック	岩佐 厚
	イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明
	大須賀内科	大須賀 康文
	小島クリニック	小島 昭重
	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
	(医)田中小児科医院	田中 祥介
	寺内クリニック	寺内 陽
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
	益田クリニック	益田 元子
	(医)山田医院	山田 隆造
	(医)岩佐診療所	岩佐 真人
	(医)福丸耳鼻咽喉科	福丸 昌宏
中 央 区 (南)	(医)宮武内科	宮武 明彦
	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
	ふじたクリニック	藤田 富雄
	(医)松本内科クリニック	松本 淳
	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 謙一
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 潤
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 航
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 知子
	安田クリニック	安田 光隆
	春木レディースクリニック	春木 篤
	双日大阪診療所	立花 功
	寺内クリニック	寺内 勇
	(医)アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	河合皮フ科医院	河合 公子

阿 倍 野 区	(医)湖崎会 湖崎眼科	湖崎 亮
	(医)柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
生 野 区	岸田内科	岸田 泰弘
	(医)協同診療所	稲次 征人
	鈴木クリニック	鈴木 隆男
	(医)湖崎会 湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
北 区	(医)ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	出田 和久
	南森町レディースクリニック	平井 光三
	小西統合医療内科	小西 康弘
	北中レディースクリニック	北中 孝司
北 区	(医)裕弘会 堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	志村ウィメンズクリニック	志村 研太郎
	(医)奥見診療所	奥見 敏彦
	栗栖医院	栗栖 孝臣
此 花 区	(医)小山医院	小山 貴子
	(医)小山医院	小山 高澄
	(医)木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	(医)板東医院	板東 博志
此 花 区	松井クリニック	松井 清明
	(医)徹生会 村上内科	村上 毅
	栗栖クリニック	栗栖 孝一
	谷本医院	谷本 尚穂
城 東 区	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	(医)森内科	森 滋喜
	大庭眼科医院	大庭 省三
	牧野レディースクリニック	牧野 滋
天 王 寺 区	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
	(医)良純会朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
	(医)金井産婦人科	金井 万里子
	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
西 成 区	夕陽丘 佐藤クリニック	佐藤 利彦
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
西 淀 川 区	(医)池田クリニック	池田 光慶
	小出内科神経科	小出 泰道
	腎・泌尿器科安本クリニック	安本 亮二
	(医)純和会 竹本診療所	八木 純
住 吉 区	高岡診療所	高岡 均
	辻診療所	辻 勝弘
	北野クリニック	北野 英基
	大和田診療所	藤原 久義
東 成 区	いせき整形外科	井石 聡
	桂診療所	桂 勇人
	山口クリニック	山口 時雄
	山田医院	山田 和彦
東 成 区	にしかわクリニック	西河 潤
	古武診療所	古武 敏彦
	大谷透内科	大谷 透
	切通眼科	切通 彰
東 成 区	山崎診療所	連 美知子
	(医)いながきレディースクリニック	稲垣 実
	中山医院	津久井 幾奴子

東成区	中山医院	津久井 伸一
東淀川区	タツミ医院	巽 壽一
平野区	元林産婦人科内科 日野レディースクリニック	元林 和彦 日野 晃治
淀川区	赤垣婦人科クリニック (医)医誠会 新大阪医誠会クリニック 希咲クリニック	赤垣 英子 谷 幸治 山分ネルソン祥興
旭区	うつのみやクリニック 梅ヶ崎クリニック	宇都宮 健弘 梅ヶ崎 圭吾

大阪府内

池田市	やまだクリニック 松崎産婦人科クリニック	山田 祥晴 松崎 昇
茨木市	大河内医院 秋岡・西代医院 (医)中尾内科クリニック マキレディースクリニック	大河内 寿一 秋岡 壽 中尾 誠 田中 善章
柏原市	益弘産婦人科クリニック	益弘 和雄
吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
豊中市	(医)槇野クリニック (医)上宮医院 (医)直原ウィメンズクリニック	槇野 淑子 上宮 正直 直原 廣明
東大阪市	(医)由仁会 岡本眼科 (医)近藤医院 永井医院	岡本 仁史 近藤 和秀 山崎 章子

東大阪市	田路医院 西岡ファミリークリニック 医療法人三慧会 IVF大阪クリニック 西岡医院 森産婦人科	田路 秀明 西岡 宏彰 福田 愛作 西岡 良泰 森 政雄
箕面市	数尾診療所 (医)平成会 平松産婦人科クリニック	数尾 展 平松 恵三
八尾市	きくちレディースクリニック	菊池 知之
堺市	小野産婦人科	小野 晃範
寝屋川市	森田医院	森田 真也
大東市	松下診療所	松下 和広
大塚市	たかはしクリニック	高橋 徹
高槻市	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉

大阪府外

奈良県	(医)田中泌尿器科医院生駒診療所 (医)久産婦人科・内科 宇山内科クリニック	田中 正己 久 靖男 宇山 宏和
兵庫県	(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之

日生訪問看護ステーション

スタッフ 管理者：水上洋子（保健師・介護支援専門員）
 常勤看護師：酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、山内祐子、小森奈緒子
 指定看護職員：丸山洋子（介護支援専門員）
 非常勤看護師：永田悦子、島添早苗（介護支援専門員）、笹内 舞
 久間田久美、加世田香代子、巽 陽子、青木絵里子



急速な高齢化の進展や独居家族等家族形態の変化により、医療ニーズは慢性疾患を中心とするものに変化し、住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し支える「地域完結型」の医療への転換が進められている。予防・治療・在宅までの一貫した医療サービスが提供できる急性期病院併設の訪問看護ステーションとして、西区を中心に隣接区において多職種と協働しながら医療・介護の拠点としての機能を発揮している。（表1）

1. 活動状況

1) 活動実績

- ①訪問看護利用者は月平均109名で、月平均訪問回数は830件であった。
- ②保険種別割合では、介護予防訪問看護12名(3.9回利用/人・月) 介護訪問看護65名(6.0回利用/人・月) 医療保険訪問看護32名(11.3回利用/人・月)であった。
- ③指示書発行医療機関別では、日生病院53名、他医療機関56名であった。入院治療終了後も安心して在宅療養が継続できるよう地域のかかりつけ医と連携している。（表2）
- ④6月から日生病院リハビリテーション室より、訪問リハビリテーションを開始（平均8回/月）した。
退院前の療養環境への指導、助言及び住み慣れた療養環境での生活機能及びQOLの維持に努めている。
- ⑤病院から在宅への円滑な移行支援のため、退院時共同指導は月平均5回実施した。また、院内外の看護師を対象とした退院支援研修や居宅介護支援事業所連絡会での研修会を実施した。

2) 安心した療養環境の整備

- ①医療依存度の高い療養者及び認知症・小児・精神・がん終末期等多様なニーズに対応し、緊急時や急変時に対応できるよう24時間体制を整備している。訪問看護利用者のうち、24時間対応体制及び緊急時訪問看護契約者は、月平均40名（医療保険16名、介護保険24名）であった。
- ②在宅支援診療所等24時間対応可能な在宅医との連携強化を図るとともに、日生病院での後方支

援の病床確保及び緊急時の受診体制の保障などにより、体調悪化時の不安の軽減を図っている。

- ③外来通院の状況に応じて、適切な診療科の受診援助や医療機関との連携、あったかサポートセンターとの連携により予約援助・医療情報の共有を図っている。

3) 訪問看護の普及及び教育機関としての活動

- ①看護学生の在宅実習や医療機関の看護師の実習の受け入れや、訪問看護事業の立ち上げや従事を希望する看護師の実習を行った。
- ②居宅介護支援事業所や地域住民への講習を行い、訪問看護の機能・役割について情報を発信し、普及に努めた。

表1 住居地別割合

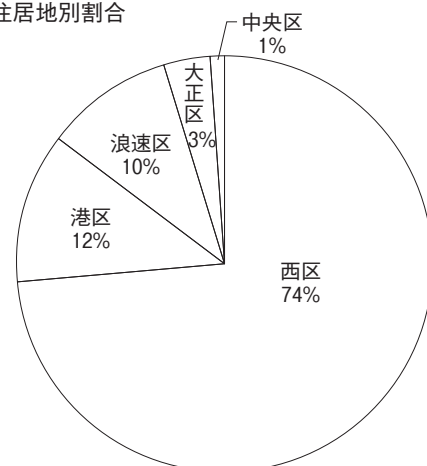
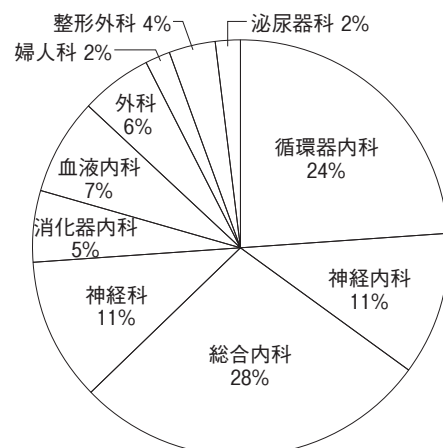


表2 日生病院診療科別指示書発行割合



日生ケアプランセンター

スタッフ 管理者：水上洋子（保健師・介護支援専門員）

常勤スタッフ：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）

松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）



急性期病院併設の施設として医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の居宅介護支援事業所との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重したケアプランの立案を行っている。

1. 活動状況

①がん末期や長期入院患者の在宅復帰や医療依存度の高いケースを引き続き担当し、ケアプラン契約者は月平均2名でケアプラン立案件数は月平均2件であった。

新規の相談に対し、対応困難な場合には、医療依存度及び在宅での生活状況に応じ、公平・中立性の高い適切な居宅介護支援事業所を選択し紹介した。

②入院から在宅療養へ円滑に移行できるよう、退院指導への関与や、「生活」を見据えた援助ができるよう病院看護師への退院支援の継続的な研修会を開催した。

③2ヶ月に1回の西区の居宅介護支援事業所連絡会への参加や、地域ケア会議、認知症高齢者の多職種連絡会への出席により、地域・施設内での情報の共有を図った。

看護部

スタッフ 副院長兼看護部長：芦田亨子
 副看護部長：東郷豊子、町田恵子
 統括看護師長：中西三季、前川明子
 副部長：北村一美（～6月）
 3階病棟看護師長：森 エミ
 4階西病棟看護師長：久留明子
 5階西病棟看護師長：鈴木八枝子
 6階西病棟看護師長：岩本真澄
 手術室看護師長：木下園子



4階東病棟看護師長：田畑文子
 5階東病棟看護師長：酒井亜紀子
 6階東病棟看護師長：阿部恭子
 外来統括看護師長：八尾みゆき

◆看護部の理念

（公財）日本生命済生会の基本理念『済生利民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

◆看護部基本方針

- 1) 患者様の生命の尊厳と人権を尊重し、心のこもった看護を提供します。
- 2) 患者様の生活環境を整え、安全で確実な看護を提供します。
- 3) 患者様の視点に立って業務改善や効率化をはかり、個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研さんに努め看護職の責務を果たします。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

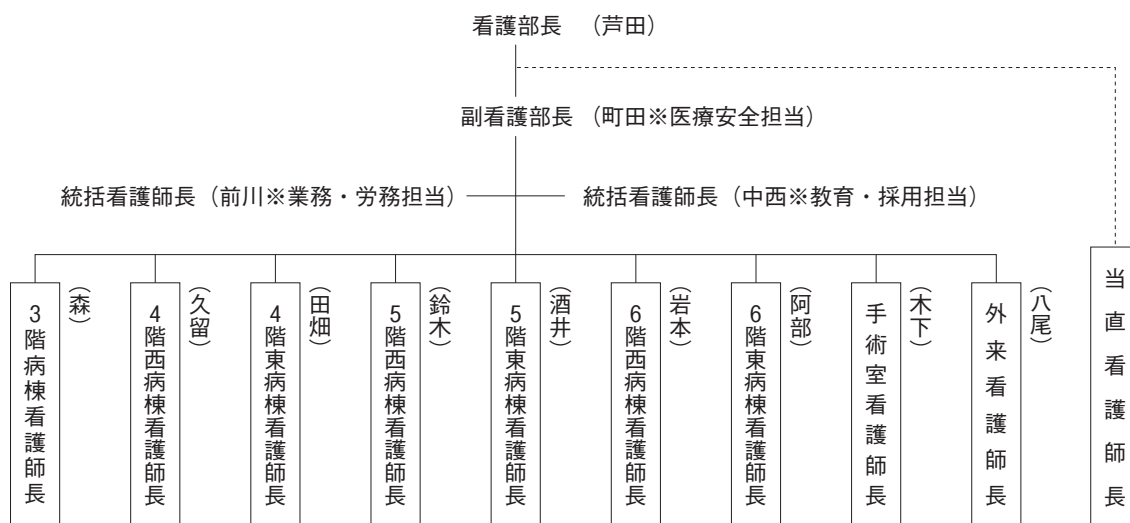
◆平成26年度看護部目標

スローガン：受け身からの脱却！！

- 1) 急性期病院としての機能が維持できるよう病院運営に参画する
- 2) 病院組織変革に対応した看護部組織を構築する
- 3) 看護提供方式・勤務体制を見直し、働き続けることができる職場づくりを推進する
- 4) リスク感性を高め、安全で質の高い看護の提供により患者満足度を上げる

上記目標を達成するため、看護師長会、次席師長会、看護部各委員会で情報共有・連携しながら活動した。

◆看護部組織図



◆ 看護部の概要

施設基準：入院基本料 7：1

看護体制：二交代制（夜勤時間15時間）

看護方式：固定チームナーシング

継続受け持ち制（ペアナース制）

◆ 看護職員数（平成26年 4 月 1 日現在）

看護 師：249名

助 産 師：25名

看護助手：18名

・大阪保健福祉専門学校（3年課程）	20名
5月～8月（母性看護学）	
・大阪府病院協会看護専門学校（3年課程）	33名
5月～3月（母性・成人看護学）	
・甲南女子大学（4年課程）	124名
5月～2月（成人看護学・総合実習）	
・梅花女子大学（4年課程）	54名
8月～9月（基礎看護学）	
・森之宮医療大学（4年課程）	2名
4月（主題実習）	

◆ 研修参加状況

1）院内研修（別表）

2）院外研修（別表）

・大阪府看護協会短期研修会

・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 2名

・認定看護師教育課程手術看護分野

（兵庫医科大学医療育成センター） 1名

3）学会発表 日本看護協会主催等 6名

◆ 看護体験受入れ

・大阪府主催一日看護体験 高校生 8名

◆ 看護フェア

5月9日

・身体測定、看護相談、アロマ・マッサージ
フットケア

◆ 日生看護研究会

・11月22日 8施設 109名参加

◆ 看護学生実習受け入れ

・大阪医専看護専門学校（4年課程） 178名

5月～3月（基礎・成人・老年看護学・統合）

◆ 病棟状況

部署	定床	平成26年度 患者数	病床 利用率	平均 在院日数	平成25年度 配置基準	勤務人員			平均 夜勤回数	備考
						深	準	日		
3階		45	48	79.9%	8.7	31	3	4	13	4.4
	新	15								
	計	60								
4西		46	47	78.9%	12.5	31	3	4	13	3.9
	別	14								
	計	60								
4東		51	44	87.2%	13	26	3	3	11	3.8
5西		44	40	90.9%	25.3	26	3	3	11	4.2
5東		49	43	88.2%	16	26	3	3	11	4.3
6西		44	40	82.7%	15.9	26	3	3	11	4.2
	小	8	3							
6東		27	23	73.5%	5.7	26	3	3	11	3.8
	未	7	2							
外来						39	19			
手術						18				
管理						6				
計	350	290	83.1%		255				4.1	

◆ 看護部委員会活動

1. 現任教育委員会 田畑文子

＜平成26年度目標＞

- 1) 看護部現任教育計画（STARナース育成プログラム）の企画運営と目標達成に向けた支援
- 2) 看護部現任教育プログラム（STARナース育成プログラム）の内容・認定について継続検討
- 3) IVナース（静脈注射院内認定制度）を構築し、安全・安心・確実な技術習得の支援
- 4) 看護師個々の多様なニーズに沿った専門性の高い研修や学会への参加の促進

＜活動内容＞

1) 院内研修

「経年別・役割別研修」として7コース（新人、2年目、3年目、4年目、5年目、臨地実習指導者、看護助手）、及び、「自己研鑽のための研修」5コース（糖尿病看護、がん看護、看護を語ろうジェネラルナース、わくわくスキルアップ、看護管理）、の合計12コースを企画運営した。

2) 院外研修

看護協会や各学会等主催の専門性の高い研修や学会の紹介・諸手続き支援を通し、院外研修や関連学会への参加を促進した。

また看護部活動の充実を図る目的で、看護部のリーダー層（師長・次席・委員会メンバー等）を対象に「看護診断」「PNS」「重症度、医療・看護必要度」等の院外研修への参加を企画し諸手続き支援を行った。研修後は看護師長会、次席会、各委員会、各看護単位で伝達会をもち、知識・情報を共有した。

1) 看護部継続教育実績（院内）

研修会名	年月	内容	参加者数
新人	4月1日（火） 2日（水）	オリエンテーション	18名
	4月3日（木）	医療安全、看護記録研修	17名
	4月4日（金） 5日（土）	宿泊研修	18名
	4月8日（火） 10日（木） 11日（金）	基礎看護技術演習	18名
	4月9日（水）	感染防止 感染経路別対策	18名
	4月15日（火）	部署別オリエンテーション	18名
	4月16日（水） 17日（木）	チーム作り研修	18名
	4月18日（金）	防災訓練 （阿倍野防災センター）	18名
	5月14日（水）	インスリン療法 輸液療法 医療ガス 看護必要度など	18名
	6月4日（水）	BLS 救急薬品 フィジカルアセスメント 心電図のよみかたなど	18名

研修会名	年月	内容	参加者数
新人	7月2日（水）	医療安全 ポジショニング・移送 業務計画立案など	18名
	9月17日（金）	問題解決思考法 看護倫理 ストレスマネジメントなど	17名
	10月8日（水）	医療安全 看護過程 輸血時の看護 スキンケアの基礎・褥瘡 予防など	17名
	12月3日（水）	がん看護 抗がん剤 人工呼吸器装着中の看護 人工呼吸器管理 問題解決法フォローアップなど	17名
	1月21日（水）	看護記録・看護過程	14名
	3月19日（水）	1年の振り返り発表	13名
2年目	6月11日（水）	メンバーシップの役割に ついて	13名
	8月6日（水）	看護倫理	13名
	10月1日（水）	ケーススタディ	12名
	1月7日（水）	コミュニケーション	11名
	2月4日（水）	1年の振り返り	11名
3年目	6月18日（水）	リーダーシップとは	16名
	8月13日（水）	ケーススタディⅡ	16名
	10月29日（水）	新人・後輩指導に必要な コミュニケーション	16名
	1月16日（金）	プリセプターシップについて 新人看護師との関わり方	14名
	2月10日（火）	看護過程の展開事例検討発表会	14名
4年目	6月25日（水）	クリティカルシンキング	10名
	7月9日（水）	PDCAサイクル	10名
	11月20日（金）	アサーティブコミュニケーション	10名
	1月27日（水）	自己の課題と取り組み 成果提出	10名
5年目	5月21日（水）	5年間の振り返りについて	9名
	6月17日（火）	継続看護	9名
	8月	継続看護（在宅研修）	9名
	11月12日（水）	看護倫理	8名
	2月5日（木）	看護観の発表	8名
臨地実習 指導者	7月16日（水）	看護教育課程 実地指導の原理と役割	5名
	8月20日（水）	若者気質・学生の関わり かた・効果的な指導事例	5名
	1月14日（水）	指導観の発表	5名
糖尿病 看護	7月23日（水）	糖尿病のセルフケア支援 について 症例検討	9名
	9月3日（水）	糖尿病患者の運動療法に ついて 糖尿病患者の職位療法に ついて	17名

研修会名	年月	内容	参加者数
糖尿病看護	11月5日(水)	モデルを使用した体験学習 合併症 自己注射指導	16名
がん看護	9月18日(木)	がん告知を受けた患者の 心理的支援	27名
	10月22日(水)	がんの進行に伴う症状と 緩和について	27名
	12月10日(水)	がん患者の病期に応じた 療養先の選択	129名
看護を 語ろう！ ジェネラル ナース	5月28日(水)	オリエンテーション 模擬事例の紹介	14名
	7月30日(水)	「放射線療法を受けている 下咽頭癌患者の看護」 「挿管困難時に使用される デバイスについて」	14名
	9月24日(水)	「悲観的な発言が多い末期 患者の看護」 「線維筋痛症、うつ病患者 の看護」	14名
	11月26日(水)	「転倒を繰り返す患者の 看護 転倒予防の方法」 「緊急帝王切開術後に育児 技術がスムーズにできなかった 事例」	14名
	1月28日(水)	「問題行動のある患者への 医師の対応」 「痛みを伴う尿道カテーテル 交換を必要とするGH単独欠損症 患者に在宅療養指導を行って」	14名
わくわく スキル アップ	9月16日(火)	慢性期看護	38名
	11月10日(月)	モニター心電図	74名
	11月20日(木)	自分も相手も大切にしたい 自己主張・アサーティブ コミュニケーション	42名
	12月17日(水)	急性期看護	55名
看護管理	5月29日(木)	昇格者研修	2名
	8月9日(土)	クレーム・院内暴力への 組織対応	36名
中途 採用者	6月26日(木)	4月入職者フォローアップ	6名
	11月26日(木)	8月、9月入職者 フォローアップ	4名
	2月3日(火)	10月入職者 フォローアップ	4名
	3月11日(水)	1月、2月入職者 フォローアップ	4名
看護助手	4月10日(木)	中途採用者研修	2名
	7月7日(月)	医療制度の概要 個人情報保護 看護助手の役割	18名
	8月4日(月)	医療安全管理 感染対策・標準予防策 日常生活援助 環境整備	18名

研修会名	年月	内容	参加者数
看護助手	12月1日(月)	医療制度の概要及び病院 組織の理解 守秘義務 感染対策・標準予防策	21名

2) 看護部継続教育実績(院外)

成人看護 (大阪府看護協会)	平成26年4月	摂食・嚥下障害のある患者の 看護の基礎と実際を学ぶ①	2名
成人看護 (大阪府看護協会)	平成26年4月	褥瘡ケア	1名
看護研究 (大阪府看護協会)	平成26年5月	看護研究と倫理・論文支援	1名
糖尿病看護 (大阪府看護協会)	平成26年5月	糖尿病患者と家族の理解	1名
感染看護 (大阪府看護協会)	平成26年6月	組織で取り組む感染管理①	1名
地域看護 (大阪府看護協会)	平成26年6月	病棟看護師としてできる退 院支援・調整	1名
老年看護 (大阪府看護協会)	平成26年7月	高齢者の理解と認知症患者 の看護①	2名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成26年7月	論理的な問題解決手法	1名
助産 (大阪府看護協会)	平成26年7月	助産師の実力アップ	1名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成26年7月	看護管理と質評価	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成26年8月	救急看護2 演習②	1名
心のケア (大阪府看護協会)	平成26年8月	心のケア一般病院で対応す る精神症状のある患者の理 解とケア	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成26年8月	フィジカルアセスメントの 基礎(講義)	3名
共通 (大阪府看護協会)	平成26年9月	フィジカルアセスメントの 基礎(演習)②	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成26年9月	フィジカルアセスメントの 基礎(演習)③	2名
共通 (大阪府看護協会)	平成26年10月	災害活動における初期治療 支援活動②	1名
がん看護 (大阪府看護協会)	平成26年10月	がん放射線療法を受ける	2名
医療安全 (大阪府看護協会)	平成26年10月	危険予知トレーニング	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成26年10月	フィジカルアセスメント (応用編 演習)③	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成27年1月	コーチング・コミュニケー ション②	2名

3) 看護部 長期及びその他の研修

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府看護協会	5月26日 ～7月23日	2014年度 第1回 大阪府保健師助産師看護師実習指導者研修講習会	6階東鍋本美穂
大阪府看護協会	9月16日 ～11月14日	2014年度 第2回 大阪府保健師助産師看護師実習指導者研修講習会	5階西戸田陽子
S-QU研究会	6月29日	看護必要度評価者院内指導者研修	岩崎由希子 久留明子 柱本明子 川端千里 磯崎真優 青地美香 酒井亜紀子
大阪府看護協会	8月28日	「医療安全推進のための標準テキスト」の効果的な活用方法	町田恵子 岩本真澄 久留明子
関西看護医療大学看護診断研究センター	9月7日	第11回看護診断セミナー学ぼう！臨床で使える看護診断！中範囲理論の理解と看護診断過程－	芦田亨子 町田恵子 前川明子 木村由美 久留明子 八尾みゆき 戸田陽子 大西まゆり 島千佐子 坂上麻弥
大阪府看護協会	9月8日	大阪府立急性期総合医療センター災害訓練	湯峯里恵 湯浅賀容子 鈴木あかね
大阪府看護協会	10月21日	新入会に対する研修	新人17名
大阪府看護協会	11月9日	サードレベル公開講座「看護現象学」から考える看護管理者としての必須条件	田畑文子
大阪府看護協会	11月14日	オンデマンド配信一般病棟における認知症ケアの質の向上のための看護管理者の役割	田畑文子 木村由美 三好優子 篠部 郁
大阪府看護協会市西支部共催研修会	平成27年 1月27日	知っていますか？特定行為研修の概要と実際「特定疾患にかかわる看護師の研修制度～感染管理分野における活動～」	六車御幸
医療情報システム研究会	平成27年 2月7日	看護業務を支援する情報システム（パート28）「看護と情報システムの未来に向けたシナリオ現状と精度と次世代技術」	阿部恭子 鈴木八枝子 森 エミ 木下園子 酒井亜紀子 田畑文子 高熊俊恵
梅花女子大学	平成27年 2月19日	人間関係とアドラー心理学	芦田亨子 中西三季 久留明子 西川由佳子

◆業績

論文・著書

1. 松岡典子, 坪内由理, 木村ちはる, 川瀬俊子, 木村冬美, 森 エミ: 長期にわたり外来で輸血を必要とする血液疾患患者の思い. 第44回 日本看護学会論文集: 成人看護Ⅱ, 31-34, 2014.

学会発表

1. 小山佐知子, 宇垣政江, 大藤弘美, 藤岡英悟, 本庄郁子, 今田泰介, 石河 純, 川原玲子: 予後予測困難ながん患者への人工呼吸管理と精神的支援. 第19回日本緩和医療学会学術集会, 6月, 2014, 神戸.
2. 上久保沙由里, 中村美香, 吉田望美, 河野千鶴, 酒井亜紀子: 経産婦の子どもの立ち会い分娩に対する思い. 第45回日本看護学会ヘルスプロモーション, 8月, 2014, 熊本.
3. 杉原美紀, 青地美香, 平野愛美, 長谷亜紀, 三好由紀子, 阿部恭子: 病棟看護師による円滑な退院支援の検討. 第45回日本看護学会慢性期看護, 9月, 2014, 徳島.
4. 岡本夏波, 小野晴加, 景山雅美, 里井景子, 山下徳美, 岩本真澄: 血液疾患患者の採血を通じた病気の受け止めに関する一考察. 第45回日本看護学会慢性期看護, 9月, 2014, 徳島.
5. 出上美智留, 磯崎真優, 近明日美, 姉川友里江, 下井孝子, 田畑文子: 誤嚥性肺炎を繰り返す患者を介護する家族の食事援助の実態. 第45回日本看護学会慢性期看護, 9月, 2014, 徳島.
6. 吉井明子, 堤 早苗, 門林聡美, 廣田優子, 小山佐知子, 八尾みゆき: 下咽頭痛再建術後の嚥下障害に対する食事援助. 第45回日本看護学会急性期看護, 9月, 2014, 徳島.
7. 梶谷久美子, 丸岡 綾, 河村理香, 森 エミ: 冠動脈形成術を繰り返し受けている患者が抱く思い. 第2回大阪府看護学会, 12月, 2014, 大阪.

研究助成・治験・臨床研究等

(臨床研究)

1. 40歳未満成人2型糖尿病患者の通院行動に対するヘルスリテラシーの影響 (角南ちえ子)
2. 平成26年度看護研究について (中西三季)

2. 看護部記録委員会 鈴木八枝子

<平成26年度目標>

- 1) 看護記録マニュアルを全面的に見直し改訂する
- 2) 看護記録監査基準を見直し、質的監査を施行する
- 3) 電子カルテ新システムへの移行に伴い、入力支援のためのマスタ整備、記載基準を作成する
- 4) 院内研修への参画

<活動内容>

平成26年度は、5月に電子カルテ新システムへの移行が計画されていたため、旧システムとの捜査・運用の違いからどんな問題が生じるか整理・確認しながら活動を進めた。看護記録として必要な記載基準（要件）を洗い出し、「看護記録マニュアル」改訂を進めた。新システムの「看護計画マスタ」、「看護指示マスタ」、「経過表マスタ」の内容を確認し、整備した。

システム稼働後に不具合が見つかった際、現場の意見を反映すると同時に共有するためのツールとして“申請手順”を作成し、各部署からのリクエストを受けてメンテナンスを行った。なかでも身体抑制と転倒転落の記録についてはマニュアルに基づいた記載ができるようにフォームを統一した。

従来から行ってきた「記録監査」の見直しを行い、内容を“質的監査”と“形式監査”に分類した。監査基準も改訂し、毎月、監査率を部署毎に委員メンバーが調査している。

院内研修では記録委員会として研修企画・運営に参画し、新人・3年目に向けて「看護記録・看護診断・看護過程」について講義を行った。

3. 看護部経営改善委員会 酒井亜紀子

<平成26年度目標>

- 1) 「重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修」受講者による伝達講習を全病棟看護師が受講する。
- 2) 病棟看護師が、重症度、医療・看護必要度を理解でき、適性に評価できるよう支援する。
- 3) 診療報酬点数表のうち、看護師の実践でできる項目の洗い出しと算定漏れをなくすための方策を検討し、実施する。

<活動内容>

- 1) 「重症度、医療・看護必要度」について

「(公財)日本生命済生会付属日生病院 重症度、医療・看護必要度取り扱い内規」「重症度、医療・看護必要度監査チェック用紙」の作成を行った。「重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修 受講者による伝達講習」の受講者による伝達講習を5回、事例を用いての記録を学ぶためのフォローアップ研修を4回、病棟看護師に行った。

監査用紙を用いての監査を定例化した。

①管理者（師長または次席）：看護師長会の協力の下、毎日16時半から1例を抽出し、監査用紙にもとづいて監査した。

②委員会：毎月の定例会で1例について監査用紙にもとづいて監査した。

監査数100事例中、評価と監査の結果が一致した数30件、不一致70件であった。結果を報告・共有することで、看護記録記載内容の漏れが減少し、結果として平成26年7月より重症者の割合が18%となった。

- 2) 診療報酬の理解の促進について

診療報酬の説明を村上医事担当部長より受け、看護師の実践で算定できる項目を抽出した。

- 3) 平成26年度看護部経営改善研修実施について

(1)「重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修 受講者による伝達講習」

平成26年7月17日、7月23日、7月24日、

7月25日、7月31日

参加者153名

(2)「重症度、医療・看護必要度フォローアップ研修」

平成26年8月26日、9月8日、10月24日、

11月11日

参加者119名

4. 看護の質改善委員会 八尾みゆき

<平成26年度目標>

- 1) 患者満足度調査を行い、看護の質改善に活かす
- 2) 看護の質に関する継続的に収集する項目を決定し、調査・分析する。

<活動内容>

- 1) 患者満足度調査について

ケアの質評価はドナベディアンモデルを参考に検討を進めた。アウトカム指標のひとつとして「退院時患者アンケート」を実施することにした。アンケート項目の検討には、インターネットに公開されている他施設のアンケート内容や日本看護協会「DINQL」、聖路加国際病院「QI」等、参考文献を参考資料として活用し、検討を重ねた。実際に患者に適用は次年度の課題として継続する。

- 2) 看護の質評価に関するデータの明確化

各看護単位でどのようなケアが実施されているか、確認することに取り組んだ。清潔ケアが看護計画通り適正に行われているか、という点に注目し、1週間の実践状況を調査した。その結果、ADLの低い患者に対する清潔援助（特に口腔ケア）が不足しているということがわかった。

5. 看護業務基準・手順委員会 森 エミ

<平成26年度目標>

- 1) 接遇マニュアルの作成・実施・評価
- 2) 接遇強化週間の定着と分析
- 3) 看護業務基準の見直し・検討
- 4) 看護手順の見直し・検討
- 5) 看護管理マニュアルの見直し・検討

<活動内容>

1) 接遇マニュアルについて

接遇マニュアル「星子ちゃんの日」を作成し、看護師の一日に沿って期待する接遇内容を明確にした。周知・徹底するために、各委員会メンバーが各看護単位で、毎月ひとつの項目（テーマ）を決めて実践・定着できるよう工夫した。毎月のテーマを掲示することや朝のミーティングで声掛けし、併せて“接遇チェックシート”を活用して評価を行った。

2) 看護業務基準について

以前、次席師長会が中心となって作成した「疾患別看護基準」を時代の変化に沿ったものとなっているか、実施すべき看護ケア内容が明確になっているか、の視点で検討した。専門性を考慮し、各看護単位に振り分け、検討・見直しに取り組んだ。

3) 看護手順について

医師の指示により実施する看護技術のうち、侵襲を加える恐れの高いものを優先して見直した。「注射」「浣腸」「(男性)導尿」の看護手順を医療安全の視点で全面的に見直し、注意事項を図示・併記する様式に変更し再作成した。

出来上がった手順は、手順通り実施することの必要性や手技を徹底するために、委員会だけでなく看護師長会を通して情報提供し、その後各看護単位で学習会やミーティングで周知・確認してもらった。

4) 看護管理マニュアルについて

委員会メンバーは日々のリーダー業務を担当するため、看護管理業務を行うに当たってわかりにくいことや明確にしてほしいこと等、課題について検討した。実際の検討は看護師長会メンバーを中心に検討を進めた。

◆ 専門・認定看護師連絡会

感染症看護専門看護師 大野典子

感染症看護専門看護師として、感染防止に関わる教育やアウトブレイク時の対応などを院内外で行った。

今年度は院内で電子カルテの変更という大きな変革の年であったがそのシステムを有効に活用できるようICT記録の充実に取り組んだ。看護に関わるものとしては感染症報告用紙を廃止し複数の人が関わっていた業務を効率化することができた。

がん化学療法看護認定看護師 畠山明子

2014年11月、がん看護専門看護師資格を取得した。従来の認定看護師としての活動だけでなく、がん告知・病状説明の場に同席し、患者・家族の意思決定支援を積極的に行った。がん患者指導管理料Ⅰを56件。心理社会的な問題を抱えるがん患者家族の支援であるがん患者指導管理料Ⅱを34件行った。また、訪問看護との連携を図り在宅療養に向けた調整、療養中のアドバイスを行った。更には病棟カンファレンス、医師からの治療に伴う症状緩和、療養の方針に関する相談など専門看護師としての実践・調整の役割を行っている。

がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子

認定看護師として、院外院内において看護師や患者家族へがん性疼痛の看護についての指導と緩和ケアチームの一員としての役割遂行を行うことを目標に活動を行った。緩和ケアチーム介入患者とその他病棟、外来患者に対して鎮痛薬、レスキュー薬の使い方の指導や生活指導などをして日常生活が少しでも維持できるように支援した。院外では、がん患者の症状緩和について講義を看護師などに行った。

糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子

糖尿病治療では他の分野同様に薬剤の開発が進んでいる。平成26年度も、院内で糖尿病ケアナースの会を通じて、新しい薬説明会や、測定機械の新機種導入に伴い説明会を行い、知識の共有に努めた。平成27年度においては、新たな知識の共有と共に、患者さんが安心して治療を受けられるよう、アクシデント・インシデント予防に医師やコ・メディカルを巻き込んで介入していきたい。

皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子

毎週火・金曜日に創傷・ストーマ・失禁の3領域で活動した。

創傷においては1回/2週の褥瘡回診に参加し、褥瘡対策及び褥瘡治療の検討・評価を行った。褥瘡回診対象外の患者にも治癒促進や予防的ケアの指導を行った。また、褥瘡発生率・有病率低下を目指して体圧分散性能の高いエアマットレスとポジショニング枕を新規導入した。ストーマにおいては、失われた排泄機能を代償できる能力を習得し、真のストーマの受容を目指して支援した。オストメイトが退院後も安心して日常生活が送れるよう、活動日に合わせて外来診察を行った。失禁においては、不適切なスキンケアによって排泄物付着による接触性皮膚炎を悪化させているケースが多く、スキンケアの指導を行った。

スタッフ センター長：中村秀次

副センター長：湯川雅彦（内視鏡センター長）

予防医療部長代行：鈴木真優美

担当部長：住谷 哲

常勤医師：泉由紀子、高島周志、小豆澤深雪、藤岡滋典（特任顧問）、

佐藤文三（特別顧問）、船渡孝郎（顧問）、尾上昌世（産婦人科兼務）



1. 平成26年の概要

人間ドック受診者総数は10,239名に達し、引き続き大きな伸びを示し、始めて1万名を突破した（表1）。定期健診受診者も33,885名と前年度より増加した。健診精査内科受診者数は、専門診療科への紹介率の向上により減少し、1,574名となった。

健診の質の向上を図り、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査を徹底するとともに、午前3診体制を週2日から開始し、協会けんぽを対象とした午後健診を週2日実施した。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制、月2回のレディースデイ2診体制を維持し、午後の乳がん検診も引き続き実施した。メンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を図るとともに、7月より精神科医師による週1回のコンサルテーションを開始し、メンタルサポート体制を強化した。契約数も着実に増加している。また、常に運営体制を見直し、待ち時間の短縮に努力するとともに、受診者アンケートを毎日実施して、毎週検討を行いCSの向上に努めている。受診者のリピート率の向上を目指しているが、26年度は67.6%と軽度上昇した。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として26施設、入所者約2,660名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を実施した。

労働安全衛生分野における産業医の重要性の高まりを踏まえ、近隣企業への産業医受託体制を強化し、今年新たに済生会職員数名の認定産業医を養成し、嘱託産業医として受託した。

学術活動として、恒例の「ニッセイ産業医セミナー」を5月（第11回「勤労者の為の生活習慣病対策」、特別講演：下村伊一郎教授）と27年2月（第12回「職場におけるメンタルヘルス対策」、特別講演 岡田邦夫教授）に開催し、それぞれ339名、430名の産業医、日生病院登録医の参加を得た。学会活動として人間ドック学会に3題発表した。更に、各医師が専門領域の学会でも発表した。

26年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で

12.2%、50.5%となり、昨年度より増加し、要治療率は10%を越え、要精密検査率も5割を超えた。年代別、性別の要治療率、要精密検査率を表2に示す。女性より男性で高い傾向となり、40歳未満では要治療7%であるが、40歳以上では要治療は12%以上となり、50歳代で13.2%を示した。要精密では男性では40歳以上では5割を超え、60歳以上で64%に達した。女性では要精密は40代以上では40%台であるが、60歳以上では58%となった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。眼科疾患（眼底異常）が男女とも1位となり、男性の受診者の31.5%、女性で25.1%に認められた。男性では生活習慣病の高血圧が2位に入り21.1%を占め、脂質異常症、糖尿病が3、4位で14～15%に認められ、生活習慣病が上位を占めた。また、脂肪肝を含む肝機能障害は5位に入り、12.7%に認められた。女性では、婦人科疾患が2位で20.4%に認められ、3位の乳腺異常の19.3%と合わせて、女性特有の疾患の異常が約40%に認められた。潜血尿が大部分を占める腎尿路系疾患は18.8%と4位であった。生活習慣病の脂質異常症は男性よりやや低い14.2%で5位に入った。高血圧、糖尿病は昨年同様上位5項目よりはずれた。

精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は30名（0.3%）であった。この内21名（70%）が早期癌であった（表4）。あったかサポートセンターとの連携強化により、D1、D2判定者で健診精査内科および日生病院各診療科に紹介された患者は大幅に増加し、2,964名に達した（表5）。健診精査内科以外では、消化器内科、眼科、乳腺外科、婦人科、泌尿器科が上位を占めた。院外も含めた再検率は38.1%と、昨年よりわずかに上昇した。要治療要精検者の把握と再検率のアップが今後の課題である。

2. 業績

学会発表

- 鈴木真由美, 田村慶朗, 住谷 哲, 中村秀次, 立花 功: COPD 診断者における末梢血中白血球数に対する喫煙の影響について, 第54回日本呼吸器学会, 4月, 2014, 大阪.
- 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 三上高司, 伊藤 翔, 田中 智: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと肝線維化マーカーとの関連性, 第50回日本肝臓学会総会, 5月, 2014, 東京.
- 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周志, 鈴木真由美, 藤岡滋典, 小豆澤深雪, 佐藤文三, 中村秀次: 血清TSHレベルに及ぼす喫煙の影響について-人間ドック受診者における検討-, 第55回

人間ドック学会大会, 9月, 2014, 福岡.

4. 泉由紀子, 高島周志, 鈴木真由美, 住谷 哲, 藤岡滋典, 笠山宗正, 佐藤文三, 中村秀次, 網野信行, 市原清志:人間ドックデータを用いたTSH基準値と性差, 年齢による変化の検討, 第55回人間ドック学会大会, 9月, 2014, 福岡.
5. 高島周志, 小豆澤深雪, 鈴木真由美, 泉由紀子, 住谷 哲, 藤岡滋典, 阪井理恵, 篠田和子, 佐藤文三, 中村秀次:人間ドック

クで発見された大腸癌症例における各種検査値の検討. 第55回人間ドック学会大会, 9月, 2014, 福岡.

研究助成・治験・臨床研究等 (臨床研究)

1. 対照検討を目的とした、人間ドック受診者を対象とした成人下垂体機能低下症QOL尺度を用いたアンケート調査 (住谷 哲)

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数

	H26年度	対前年	備考
	名	%	
定期健康診断	33,828	105%	
人間ドック (日帰り)	6,603	128%	標準コースの 人間ドック
人間ドック (生活習慣病)	3,417	106%	協会けんぽなどの 簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	219	147%	
人間ドック 合計	10,239	120%	

表3 性別による要治療・要精密検査の上位5項目
(日帰り人間ドック受診者)

No.	男性			No.	女性		
	要治療・ 要精密検査項目	%	人数		要治療・ 要精密検査項目	%	人数
1	眼科疾患	31.5%	979	1	眼科疾患	25.1%	774
2	高血圧症	21.2%	662	2	婦人科疾患	20.4%	475
3	脂質異常症	15.2%	476	3	乳房疾患	19.3%	470
4	糖尿病	14.6%	457	4	腎・尿路疾患	18.8%	597
5	肝機能障害	12.7%	396	5	脂質異常症	14.2%	452

※各検査項目の数値・判定より抽出 (センター医師による判断)
要治療・要精密検査項目は治療中Eを含む
%は検査項目受診数/5項目総受診者数×100

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目
と要精密検査項目の頻度

	要治療項目 (治療中を含む) (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	8.7%	26	5.7%	23	7.0%	49
40～49歳	14.0%	147	10.8%	126	12.3%	273
50～59歳	14.0%	133	12.4%	120	13.2%	253
60歳以上	13.7%	114	12.2%	79	13.0%	193
総計	13.4%	420	10.9%	348	12.2%	768

表4 悪性疾患の発見率

	人数 (名)	占率
癌診断者	30 (早期21)	0.30%

乳癌10名、胃癌6名、前立腺癌4名
肺癌3名、大腸癌2名、腎癌2名
膵癌、直腸NET、膀胱癌各1名

表5 要治療・要精密検査判定者の紹介先
(日帰り人間ドック受診者)

有所見者数 4,309人
再検査確認数 1,641人
再検率 38.1%

健診精査内科	358人
消化器内科	345人
内視鏡センター	46人
眼科	296人
乳腺外科	145人
産婦人科	123人
泌尿器科	108人
総合内科	93人
糖尿病センター	1人
循環器内科	76人
耳鼻科	26人
皮膚科	11人
神経内科	3人
血液内科	3人
外科	3人
放射線科	2人
整形外科	1人
禁煙外来	1人

	要精密項目 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	49.0%	146	39.5%	160	43.5%	306
40～49歳	50.9%	534	42.1%	492	46.2%	1,026
50～59歳	55.0%	524	43.5%	419	49.2%	943
60歳以上	64.7%	539	58.0%	376	61.8%	915
総計	55.6%	1,743	45.4%	1,447	50.5%	3,190

※健診システム (タック) より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1 (要治療)、
D2 (要精密) を抽出
%は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数×100
総計の%は性別総計数/全受診者数×100

1. 診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科	新入院患者紹介	(週1回)
	症例検討会	(週1回)
	勉強会	(1回/1～2週)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
	3病院合同勉強会 (大阪鉄道・南大阪・日生病院)	(年2～3回)
消化器内科	症例検討会	(週1回)
	消内・放射線科合同カンファレンス	(週1回)
	内視鏡カンファレンス	(月2回)
	抄読会	(月2回)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
総合内科	症例検討会・抄読会	(週各1回)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	糖尿病療養指導チーム勉強会	(月1回)
	糖尿病ケアカンファレンス	(月1回)
	OIDカンファレンス	(年2回)
	肺覧会	(年1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
血液・ 化学療法内科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月2回)
	血液標本検討会	(適宜)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
神経内科	新入院患者紹介	(週1回)
	症例検討会・抄読会	(週1回)
	内科合同カンファレンス	(月1回)
	内科・地域合同症例検討会	(年1回)
神経科・ 精神科	薬物療法勉強会	(月2回)
	大阪中央症例検討会	(随時)
	病院精神科医・産業医 メンタルケア研究会	(年2回)
	あわぎ神経精神病診連携懇話会	(年3回)
小児科	勉強会	(週1回程度)
	入院症例検討会	(平日)
	小児科外来勉強会	(年数回)
	周産期カンファレンス	(週1回)
	新生児管理カンファレンス	(月1回)
消化器・ 一般外科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月1回)
	死亡症例検討会	(随時)
	学会報告	(随時)
乳腺外科	症例検討会	(週1回)
	乳腺外科ケアカンファレンス	(月1回)
	抄読会	(月1回)
	手術統計	(年1回)
	死亡症例検討会	(随時)
	学会報告・CPC	(随時)
	NST勉強会・抄読会	(随時)
整形外科	抄読会	(週1回)
	手術症例検討会	(週1回)
	リハビリ検討会	(月2回)
	整形病棟勉強会	(年2～3回)
	リサーチカンファ、及び学会報告会	(年数回)
皮膚科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(月3回)
	3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院)	(月1回)
	大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	(年1回)

部(科)名	教育・研修項目	
泌尿器科	症例検討会	(週1回)
	抄読会	(週1～2回)
	海外学術集会検討会	(年20回程度)
産婦人科	症例検討会・抄読会	(週1回)
	ケアカンファレンス・ モーニングカンファレンス	(週1回)
	画像カンファレンス	(週1回)
	周産期カンファレンス	
	ニッセイ内視鏡研究会	(年1回)
眼科	ニッセイ病診連携懇話会	(年1回)
	外来勉強会	(年4回)
	病棟勉強会	(年1回)
	西区病診連携の会	(年1回)
	あわぎ病診連携懇話会	(年1回)
耳鼻咽喉科	日生・住友病院合同勉強会	(年4回)
	術前カンファレンス	(週1回)
	西区病診連携の会	(年2回)
	勉強会	(年数回)
放射線科	産婦人科画像カンファレンス	(週1回)
	消化器科画像・IVRカンファレンス	(週1回)
	研修医画像勉強会	(不定期)
麻酔・ 緩和医療科	ペイン症例検討会	(週1回)
	麻酔症例検討会	(週1回)
	緩和ケアカンファレンス	(月2回)
病理診断科	外科術後カンファレンス	(週1回)
	CPC	(月1回)
	大阪病理研究会	(年2回)
	日本病理学会近畿支部学術集会	(年4回)
がん治療 センター	化学療法カンファレンス	(月1回)
女性骨盤底 センター	合同カンファレンス	(週1回)
救急診療 センター	救急カンファレンス	(週1回)
臨床研修部	抄読会	(月1回)
	化学療法室	化学療法カンファレンス (月1回)
	リハビリ	リハビリ検討会 (月2回)
	テーション室	糖尿病療養指導チーム勉強会 (月1回)
		医療技能職勉強会 (年1回)
中央臨床 検査部	中検勉強会	(月1～2回)
	医療技能職勉強会	(年1回)
	栄養管理室	厨房内ミーティング及教育 (毎日)
		栄養士勉強会 (月1回)
		献立勉強会 (月1回)
薬剤部	栄養管理室ミーティング	(年4回)
	糖尿病QOL向上勉強会	(年4回)
	大阪病院給食研究会	(月1回)
	新薬説明会	(週1回)
	薬剤部研修会	(月1回)
治験管理室	有害事象検討会	(年4回)
	患者支援カンファレンス	(週1回)
	治験・臨床研究講演会	(年1回)
	あったか サポート センター	患者支援カンファレンス (週1回)
		緩和ケアカンファレンス (月2回)
事務部門	医療福祉施設MSW研修会	(年5回)
	医療技能職勉強会	(年1回)
	勉強会	(月1回)
	診療情報管理室	診療情報管理室勉強会 (年数回)
	医師サービス部	健保改正勉強会 (年1回)
予防医学 センター	予防医学センター勉強会	(月2回)
	あわぎ産業医セミナー	(年1回)

2. 全体教育

日本医師会生涯教育講座カリキュラム

〈総合内科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月9日(木)	14時00分～16時00分	別館4階 役員会議室	関節リウマチに対する生物学的製剤 の使用法	小瀬戸昌博 (総合内科)

〈消化器内視鏡センター〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月16日(木)	14時00分～16時30分	透視室 (放射線科)	ERCP/EST	湯川雅彦 (消化器内視鏡センター)

〈循環器内科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月23日(木)	14時00分～15時30分	生理検査室	循環器領域エコー教育 (心エコー、頸動脈エコー、下肢静脈エコー)	岡部太一 (循環器内科)

ニッセイ医学セミナーUpdate

開催月日	テ ー マ	講 師	
平成26年5月9日	心房細動治療の新しいガイドライン (2013年改訂版) 新しい抗凝固薬(NOAC)の位置付けを中心に	循環器内科 部長	岡部太一
平成26年6月6日	ステロイド療法Update －副作用とその対策を中心に－	院長 総合内科	笠山宗正
平成26年7月4日	パーキンソン病の診断と治療について	神経内科 部長	浅野彰彦
平成26年8月1日	新型インフルエンザ等対策ガイドライン －水際対策、蔓延防止、医療体制他－	看護部 専門部長 感染症看護専門看護師	大野典子
平成26年9月5日	大腸癌とその治療について	消化器・一般外科 担当部長	藤井 眞
平成26年10月3日	子宮頸癌の健診、ワクチン、診断治療について	副院長 産婦人科 部長	藤田征巳
平成26年11月7日	肺癌の現状 疫学から治療まで	予防医学センター 医療部 部長代行	鈴木真優美
平成26年12月5日	血小板減少を来す疾患	血液・化学療法内科 担当部長	川上 学
平成27年1月9日	放射線科はこんなことをしています	放射線科 部長 放射線技師	前田宗宏 新谷泰正
平成27年2月6日	神経科・精神科のこれからの診療プロジェクト (アルツハイマー病)	神経科・精神科 部長	高橋 励
平成27年3月6日	泌尿器癌の薬物療法Update	副院長 泌尿器科 部長	黒田昌男

ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー

開催月日	テ ー マ	講 師	
平成26年10月31日	COPDの基礎知識	総合内科	田村慶朗
平成27年1月29日	日生病院での整形外科救急疾患について	整形外科	友永真人
平成27年2月20日	消化管出血の診断と治療	消化器内科	居平典久

1 年目研修医オリエンテーション

日程	依頼項目	講 師
平成26年 4 月 1 日	院長話、研修医の就業規則、健康診断、その他	院長、事務管理部総務人事G
	プログラムの説明など	臨床研修部 三木部長
	ローテーション説明	臨床研修部 三木部長
平成26年 4 月 2 日	電子カルテ基本操作	情報システムG
	ローテーション決定、その他	臨床研修部 三木部長
平成26年 4 月 3 日	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 町田副看護部長
	ローテーション科での研修開始	各診療科
平成26年 4 月 4 ・ 5 日	看護部と一泊研修（舞洲研修）	
平成26年 4 月 7 日	各ローテーション科で研修開始	各診療科
	カルテ記載、病歴管理、文献検索など	診療情報管理室
	保険診療について	医事業務G
平成26年 4 月 8 日	採血、ポンプなど	看護部
平成26年 4 月 9 日	感染防止	感染症看護専門看護師 大野
平成26年 4 月10日	カテーテル、吸引・吸入など	看護部
	ローテーション科で研修	各診療科
平成26年 4 月11日	注射、点滴など	看護部
平成26年 4 月14日	ローテーション科で研修	各診療科
	薬剤処方	薬剤部
	栄養指導	栄養管理室
平成26年 4 月15日	ローテーション科での研修	各診療科
	病診連携	あったかサポートセンター 地域医療サービスG
	医療福祉相談Gの利用について	あったかサポートセンター 医療福祉相談G
平成26年 4 月16日	ローテーション科での研修	各診療科
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査部
平成26年 4 月17日	ローテーション科での研修	各診療科
	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査部
平成26年 4 月18日	ローテーション科での研修	各診療科
	腹部超音波検査など	中央臨床検査部
平成26年 4 月21日	ローテーション科での研修	各診療科
	細菌検査、病理検査室	中央臨床検査部
	死亡診断書・剖検	病理：城光寺医師
平成26年 4 月22日	ローテーション科での研修	各診療科
平成26年 4 月23日	急性腹症について	消化器・一般外科 道清部長
平成26年 4 月28日	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
	抗菌薬適正使用	臨床研修部 三木部長
平成26年 4 月30日	放射線科オーダー・その他	放射線科
	救急診療	救急診療センター 今田医師

実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
総合内科	大阪大学	H26.7.28～H26.8.1	3名
		H26.6.9～H26.6.20	1名
		H26.6.23～H26.7.4	1名
血液・化学療法内科		H26.7.7～H26.7.18	2名
皮膚科		H26.11.4～H26.11.14	2名
		H26.9.8	2名
		H26.9.22	2名
泌尿器科		H26.9.1～H26.9.12	1名
		H26.9.29～H26.10.3	1名
血液・化学療法内科	兵庫医科大学	H26.5.12～H26.5.23	1名
神経内科	大阪医科大学	H26.5.12～H26.6.6	1名
眼科	銀海学園 日本眼鏡技術専門学校	H26.7.22～H26.8.15	1名
リハビリテーション室	福田学園大阪リハビリテーション専門学校	H26.4.7～H27.4.25	1名
	関西医科専門学校	H27.1.13～H27.1.29	1名
	大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校	H27.1.26～H27.2.20	1名
	大阪保健医療大学	H27.2.2～H27.2.13	1名
	大阪医専	H27.2.16～H27.2.21	1名
	関西医療学園専門学校	H27.2.23～H27.3.14	1名
中央臨床検査部	大阪滋慶学園 大阪医療技術学園専門学校	H26.7.1～H26.9.12	2名
放射線科	大阪物療大学	H26.5.12～H26.6.27	2名
		H26.9.8～H26.9.30	2名
		大阪行岡医療専門学校	H26.6.1～H26.10.31
栄養管理室	大手前栄養学院専門学校	H26.8.4～H26.8.8	2名
		H27.1.26～H27.2.6	3名
	羽衣国際大学	H27.3.2～H27.3.13	2名
薬剤部	大阪薬科大学	H26.5.1(早期体験学習)	10名
		H26.5.12～H26.7.27	2名
		H26.9.1～H26.11.16	1名
	京都薬科大学	H26.5.12～H26.7.27	1名
		H26.9.1～H26.11.16	1名
	武庫川女子大学	H26.9.1～H26.11.16	1名
		H27.1.7～H27.3.24	2名
	神戸学院大学	H26.5.12～H26.7.27	1名
	神戸薬科大学	H26.9.1～H26.11.16	1名
	摂南大学	H27.1.7～H27.3.24	1名
	兵庫医療大学	H27.1.7～H27.3.24	1名
看護部	大阪医専(4年課程)	H26.5.7～H27.3.13	178名
	大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校(3年過程)	H26.5.13～H26.8.27(母性看護学)	20名
	大阪府病院協会看護専門学校(3年課程)	H26.5.13～H27.3.13	33名
	甲南女子大学(4年課程)	H26.5.12～H27.2.12	124名
	梅花女子大学(4年課程)	H26.8.26～H26.9.11	54名
	森ノ宮医療大学(4年課程)	H26.4.14～H26.4.24	2名
	大阪府立大学大学院	H26.5.12～H26.6.6(感染看護)	1名
	山梨県立大学	H26.9.8～H26.9.12(感染看護)	1名
診療情報管理室	大阪医専	H26.6.9～H26.6.20	1名

講演会・研修会

【院内職員対象】

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成26年4月22・24日	電子カルテ説明会	情報システムG	別館講堂
平成26年5月13・14日	TQM研修会 人材育成研究所 立川義博		別館講堂
平成26年7月11日	救急診療センター講演会 「救急診療センターの過去・現在・未来」 救急診療センター長 三木俊治、中川 厚	救急診療センター	別館講堂
平成26年9月26日	医療安全講演会 「訴訟・トラブルに強い、カルテ・看護記録の書き方」 北浜法律事務所（医師・弁護士） 長谷部圭司	医療安全管理委員会	別館講堂
平成26年10月3日	予防医学センター対象BLS講習会	ACLS委員会	予防医学センター
平成26年11月4日	第27回-2 院内感染対策委員会 教育講演会 「エボラ出血熱の現状と課題」 「抗生剤の適正使用」 中央臨床検査部 部長 小瀬戸昌博	感染対策委員会	別館講堂
平成26年12月8日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 「病院医療ガス設備の基礎と災害対策について」 「医療用ガスの取り扱い方」 エア・ウォーター防災株式会社 株式会社馬場酸素 岩谷産業株式会社	医療ガス安全管理委員会	別館講堂
平成26年12月16日	保険診療に関する講習会 「適時調査の対象について」 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	別館講堂
平成27年1月15日	輸血療法講演会 「輸血検査の目的とABO不適合輸血防止対策」 前大阪大学医学部附属病院 輸血部 大阪医療技術学園専門学校 非常勤講師 神戸常盤大学 非常勤講師 押田真知子	輸血療法委員会	別館講堂
平成27年1月23日	クリティカルパス講演会 「はじめてのクリニカルパス」 社会医療法人若弘会 若草第一病院 院長 日本クリニカルパス学会 理事 山中英治	クリティカルパス委員会	別館講堂
平成27年2月3日	TQM大会 人材育成研究所 立川義博		別館講堂
平成27年2月13日	人権研修会 「記録から考える患者さんの権利と義務」 北浜法律事務所（医師・弁護士） 長谷部圭司	教育委員会 看護部 総務人事G	別館講堂
平成27年2月24日	医療安全研修会 Ⅰ「モニタのアラームと安全管理」 日本光電株式会社 安全管理部 萩田 清 Ⅱ「医薬品の適正管理を考える」 医薬品安全管理者 野村浩英	医療安全管理委員会	別館講堂
平成27年2月27日	接遇研修会 「いたわりの気持ちに 微笑をそえて」 株式会社メディセオ 南大阪ALC 庶務グループ 紀野富子	看護部 日新会 教育委員会 総務人事G	別館講堂
平成27年2月28日	看護研究発表会	看護部	別館講堂
平成27年3月3日	研修医発表会 1年目研修医研修成果発表	臨床研修部	別館講堂

【医療関係者対象】

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成26年4月3日	第7回 緩和ケア講演会 「医療用麻薬の適正使用と乱用防止 ーオピオイド関連の最新情報ー」 星薬科大学 薬品毒性学教室 教授 鈴木 勉	がん治療 センター 緩和ケアチーム	別館講堂
平成26年5月10日	第11回 あわぎ産業医セミナー テーマ：「勤労者のための生活習慣病対策」 Ⅰ 講演 「産業医のための2型糖尿病治療UpToDate」 総合内科 森田真也 「働く世代における生活習慣病の現状と対応」 総合健診クリニック ニッセイ予防医学センター 藤岡滋典 Ⅱ 特別講演 「産業医のための内臓脂肪症候群の病態と対策」 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 教授 下村伊一郎	予防医学 センター	中之島 センタービル (リーガロイヤル NCB)
平成26年6月21日	第3回 あわぎ産婦人科病診連携懇話会 Ⅰ 情報提供 「月経困難症の最近の話題」 日本新薬株式会社 関西学術部 Ⅱ 病院だより 「内膜症嚢胞の術後再発予防に関する検討（中間報告）」 産婦人科 副部長 橋本奈美子 「子宮外妊娠の治療の現況～保存療法（MTX療法）か 手術療法か～」 産婦人科 吉見佳奈 Ⅲ 診療所だより 「当院で行っているPCO患者の治療」 おおつかレディースクリニック 院長 大塚志郎 「医事紛争あれこれ」 平松産婦人科クリニック 院長 平松恵三		ANA クラウン プラザ ホテル
平成26年7月15日	感染防止対策病院連合同カンファレンス 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 Ⅰ 第27回 院内感染対策委員会 教育講演会 「抗生剤の適正使用」 中央臨床検査部 部長 小瀬戸昌博 Ⅱ 分科会（職種別）	感染対策 委員会	別館講堂
平成26年7月19日	第15回 あわぎフォーラム ・開放型病院運営委員会 ・開放型病院登録医総会 Ⅰ 「非侵襲的検査で心臓を診る ～320列 Area Detector CT の実力～」 循環器内科 部長 岡部 太一 Ⅱ 「ロコモティブシンドローム～その病態と対策～」 整形外科 部長 松井 稔 特別講演 「整形外科の歴史と最先端医療」 大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学（整形外科） 吉川秀樹		リーガロイヤル ホテル
平成26年7月27日	第16回 ICLSコース	ACLS委員会	別館講堂

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成26年9月11日	あわぎ脳卒中予防フォーラム Ⅰ クリニカルカンファレンス ～心房細動にともなう脳卒中予防を考える～ 1. 症例提示 循環器内科 田中 克 2. 症例提示 神経内科 部長 浅野彰彦 Ⅱ 特別講演 「心房細動を伴う脳卒中の予防と治療の戦略」 国立循環器病研究センター 脳血管内科 部長 豊田一則		ホテル モントレ グラスミア 大阪
平成26年9月27・ 28日	日生病院緩和ケア研修会 PEACEに基づくがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会		別館講堂
平成26年11月1日	あわぎ肝疾患病診連携懇話会 Ⅰ 特別講演 「C型慢性肝炎の最新治療 －インターフェロンフリーの経口治療も含めて－」 消化器内科 部長 中村秀次 Ⅱ 一般講演 「当院におけるC型肝炎治療の現況と今後」 消化器内科 副部長 村本 理		三井ガーデン ホテル 大阪淀屋橋
平成26年11月2日	第4回 あわぎ産婦人科内視鏡研究会 Ⅰ 腹腔鏡基本手技講義・製品説明 Ⅱ ラボ ・腸手操り ・器具の基本操作 ・卵管線状切開 ・体腔内縫合 ・トラブルシューティング ・リンパ節郭清 ・子宮の輪状切開、縫合 ・子宮全摘		Covidien Japan Advanced Training Center 静岡県 富士宮市
平成26年11月8日	あわぎクリニカルカンファレンス Ⅰ 講演1 「血圧変動を考慮した降圧療法」 循環器内科 徳岡孝仁 Ⅱ 症例報告 「原発性胆汁性肝硬変の経過中に出現した 血小板減少と貧血の一例」 血液・化学療法内科 加藤るり 「低身長・肥満・抑うつ・高血圧を主訴に紹介された 15才男性の一例」 総合内科 宇都佳彦 「若年性の腎血管性高血圧にPTRAを実施した一例」 循環器内科 吉川秀人 「睪頭部に腫瘤形成を認めた自己免疫性睪炎の一例」 消化器内科 伊藤 翔 「進行性の麻痺を生じた脳梗塞の一例」 神経内科 佐藤智彦 Ⅲ 講演2 「パーキンソン病治療の進歩」 神経内科 部長 浅野彰彦 Ⅳ 情報交換会		ホテル セントレジス 大阪

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成26年11月22日	第5回 ニッセイ看護研究会 テーマ：「根拠がわかれば看護がかわる」 Ⅰ「まだまだ知らない！？認知症」 神経科・精神科 木藤友実子 Ⅱ「食えることと、食べることが引き起こす肺炎」 感染症看護専門看護師 大野典子 Ⅲ「認知症のがん患者の疼痛コントロールについて」 がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子	看護部	別館講堂
平成26年11月27日	あわぎ眼科病診連携懇話会 Ⅰ「当院眼科診療の紹介」 眼科部長 島袋幹子 Ⅱ「治療に苦慮した糖尿病角膜症の2症例」 眼科 横山洵子 Ⅲ「感染症角膜炎、表層角膜移植術を施行した角膜混濁の1症例」 眼科部長 島袋幹子		別館4F 役員会議室
平成27年1月15日	あわぎ消化器・一般外科病診連携懇話会 Ⅰ「当院消化器・一般外科診療の紹介」 消化器・一般外科 部長 道清 勉 Ⅱ「イレウスの分類と診断」 消化器・一般外科 部長 道清 勉 Ⅲ「イレウスの外科治療」 消化器・一般外科 担当部長 藤井 眞		別館4F 役員会議室
平成27年1月25日	第17回 日生 ICLCコース	ACLS委員会	別館講堂
平成27年1月30日	第8回 緩和ケア講演会 「慢性便秘の診断と治療」 横浜市立大学医学部肝胆脾消化器病学教室 主任教授 中島 淳	がん治療 センター 緩和ケアチーム	別館講堂
平成27年2月10日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 Ⅰ 第28回 院内感染対策委員会 教育講演会 「感染制御医から見た院内感染対策」 住友病院 感染制御部長 林 三千雄 Ⅱ 分科会（職種別）	感染対策 委員会	別館講堂
平成27年2月14日	第12回 ニッセイ産業医セミナー テーマ：「職場におけるメンタルヘルス対策」 Ⅰ 講演 「一次予防に活かすストレスチェックの実際」 ニッセイ予防医学センター 臨床心理士 谷 玲子 「産業精神診療の要約例-どのように分類し対応するか」 神経科・精神科 部長 高橋 励 Ⅱ 特別講演 「ストレスチェックの義務化に伴う産業医の対応」 プール学院大学教育学部教育学科 教授 健康・スポーツ科学センター長 岡田邦夫	予防医学 センター	中之島 センタービル (リーガロイヤル NCB)

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成27年3月4日	第6回 専門・認定看護師実践報告会 テーマ：「聞いてください！私たちの看護」 I 「始まりの始まり」 ～糖尿病の扉の前に立つ方への新たな取り組み～ 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子 II 「ストーマ近接部に皮下転移を来し、管理に苦渋した患者の外泊への取り組み」 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子 III 「疼痛コントロールに難渋した患者のケア」 がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子 IV 「医療関連感染から患者を守るための身体アセスメント」 感染症看護専門看護師 大野典子 V 「診断時からの緩和ケア」 ～どのような私であれば良き支援者でいられるか～ がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師 畠山明子	看護部	別館講堂
平成27年3月5日	あわぎ精神・神経 病診連携懇話会 I 「日生病院神経科・精神科紹介」 神経科・精神科 部長 高橋 励 II 「高齢者の精神疾患と薬物療法」 特定医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山病院 森本一成		別館4F 役員会議室
平成27年3月12日	あわぎ糖尿病病診連携懇話会 I 基調講演 「糖尿病診療における早期介入の重症性」 ～「ウイークエンド糖尿病精査入院」から見える事～ 糖尿病・内分泌センター 部長 住谷 哲 II クリニカルカンファレンス 「SGLT2阻害薬における長期処方例について」 トミタクリニック 院長 富田忠宏 「インスリン導入にむけてのひと工夫-DAWN研究を参考に～」 なかじまちあき内科クリニック 院長 中嶋千晶		リーガロイヤル
平成27年3月24日	あわぎ抗凝固療法勉強会 I 「各種抗凝固薬のプロファイルについて」 ～服薬指導・患者さんに気を付けて頂く点～ 国立循環器病研究センター 薬剤部 和田恭一 II 「心原性脳塞栓症の予防戦略について」 ～当院のNOAC1200例使用経験より～ 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 不整脈科 宮本康二		別館講堂
平成27年3月28日	あわぎ消化管病診連携懇話会 I 「当院におけるピロリ除菌の現状」 消化器内科副部長 居平典久 II 「ピロリ菌・胃潰瘍・胃癌 最近の話題」 消化器内科担当部長 湯川雅彦		スイス南海 大阪

【一般・患者対象】

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成26年5月9日	看護フェア ・身体測定（身長、体重、血圧、体脂肪等） ・アロママッサージ ・フットケア相談 ・乳幼児のミルク相談	看護部	1Fホール
平成26年6月21日	平成26年度 第1回 ニッセイ市民健康セミナー 演題 「糖尿病と目の病気」 第一部 Ⅰ「糖尿病と目の病気」 眼科 島袋幹子 Ⅱ「正しいお薬の飲み方知ってます？」 薬剤部 瀧川奈央 Ⅲ「糖質のはなし」 栄養管理士 出口暁子 第二部 アマチュア落語 桂文喬主宰落語研究会のみなさん	あったかサポートセンター 糖尿病・内分泌センター 日生病院 糖尿病患者会「錦会」共催	別館講堂
平成26年7月25日、 8月1日	ニッセイ夏休みこども医療体験2014 ・見学体験：看護部、リハビリテーション室、健診センター、 中央検査部、放射線部、薬剤部、眼科 ・実 習：内視鏡下手術、あかちゃん沐浴、AED等		院内各部
平成26年11月12日	ニッセイいい皮膚の日 Ⅰ ミニコンサート Ⅱ「高齢者の皮膚トラブル」 皮膚科 溝口奈穂 Ⅲ「頭皮のケア」 「ステロイド外用剤の上手な使い方」 皮膚科看護師 丸岡 綾 Ⅳ 医療相談、看護相談	皮膚科 あったかサポートセンター	1 Fホール
平成26年11月12・ 13日 (花乃井中学校) 平成26年11月20・ 21日 (堀江中学校)	花乃井中学校及び堀江中学校からの職場体験学習 ・佐藤名誉院長実習 ・病院見学：栄養管理室、診療情報管理室、情報システム室、 電気室 ・実 習：中央放射線部、リハビリテーション室、看護部、 薬剤部、中央臨床検査部		院内各部
平成26年11月20・ 21日	ニッセイ糖尿病フェア テーマ：糖尿病とがんの気になる関係 ・血糖値・HbA1c測定 看護師 ・服薬相談 薬剤師 ・栄養相談、低糖質食事案内 管理栄養士 ・頸動脈エコー体験 検査技師 ・座ってできる簡単体操 理学療法士 ・医師相談 医師 ウィークエンド糖尿病検査入院のご案内	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	1 Fホール
平成26年11月29日	市民公開講座 西部大阪肝疾患地域連携会、福島区・此花区・西区・港区医師会、関西電力病院、JCHO大阪病院、JCHO大阪みなと中央病院、日生病院 共催 テーマ：肝臓病を知る Ⅰ「肥満と脂肪肝」 関西電力病院 消化器肝胆膵内科部長 染田 仁 Ⅱ「C型肝炎治療の新たな展開」 JCHO大阪病院 消化器内科担当部長 内藤雅文 Ⅲ「肝硬変の治療」 日生病院 消化器内科部長 中村秀次 「患者さんの疑問に答えるQ & A」		大阪大学 中之島センター

年月日	講演会・研修会	主 催	場 所
平成26年12月6日	平成26年度 第2回 ニッセイ市民健康セミナー Ⅰ「長びく咳とぜんそく」 副院長兼総合内科部長 立花 功 Ⅱ「こどもの病気に関する親の関わり方」 小児科部長 中西康詞 Ⅲ「解熱剤の使用上の注意（成人・小児）」 薬剤部 牧 秀美	あったかサポート センター	別館講堂
平成27年1月30日	ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー Ⅰ 昼食会 「ヘルシー中華お弁当を試食してみよう」 Ⅱ 講演会 「お家で実践！～宅配食を使った血糖コントロール～」 株式会社ファンデリー MFD事業部 栄養管理士 逸見純子 「糖尿病の最近の話題」 糖尿病・内分泌センター部長 糖尿病患者会「錦会」顧問医 住谷 哲	糖尿病・内分泌 センター あったかサポート センター	別館講堂
平成27年3月14日	第1回 ニッセイ認知症医療介護セミナー Ⅰ「高齢者を取り巻く現状と課題」 ニッセイ基礎研究所 生活研究部 准主任研究員 山梨恵子 Ⅱ「認知症の予防と治療」 神経科・精神科部長 高橋 励	あったかサポート センター 総合企画部 ニッセイ基礎 研究所 共催	別館講堂

3. 日生医学賞・日生医学奨励賞

日生医学賞

所属	氏名	受賞内容
血液・化学療法内科	川上 学 (医師)	HLA半合致造血幹細胞移植に合併した下肢の不可逆性末梢神経障害にネララビンが関与した可能性の論文報告

日生医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
総合内科	森田真也 (医師)	2型糖尿病患者における糖尿病血管合併症の予知マーカーとしてのグリコアルブミン（GA）およびHbA1cの役割についての検討
神経科・精神科	丸山加奈 (臨床心理士)	無菌室治療に伴い生じる精神症状についての精神医学的検討（予備的検討）

4. 院長特別表彰・月間MVP賞

院長特別表彰

所属	氏名	主な受賞理由
血液・化学療法内科	石河 純 (医師)	病理解剖実施の推進
整形外科	友永真人 (医師)	入院患者診療および整形外科救急診療体制の構築
総合内科	宇都佳彦 (医師)	救急疾患患者を含む内科診療の充実
5階東病棟	酒井亜紀子 (看護師)	看護部内研修実施による7:1看護体制の安定的確保
リハビリテーション室	—	訪問リハビリテーションの新たなスタートによる地域在宅医療の充実
事務管理部 (情報システムG)	小池恒仁 (事務員)	効率的かつ効果的な病院運営のための独自システム開発
ニッセイ予防医学センター	篠田和子 (臨床検査技師)	人間ドック受診者1万名体制構築

月間MVP賞

受賞月	所属	氏名	主な受賞理由
平成26年9月	消化器内科	田中 智 (専攻医)	当直業務における救急搬送の積極的受入れ
平成26年10月	整形外科	友永真人 (医師)	整形外科当直時の整形外科救急患者受入標榜を提案 骨折等患者の受入れ増に貢献
平成26年11月	小児科	中西康詞 (医師)	9月からの常勤医1名体制のなかで、10～11月は昨年を大きく上回る入院診療実績をマーク
平成26年12月	皮膚科	東山眞里 (医師)	多数の外来患者の診療や、「いい皮膚の日」「あったかクリスマスコンサート」で中心的に活躍
平成27年1月	救急診療 センター	三木俊治 (医 師) 石井誠剛 (専攻医) 田中庸弘 (専攻医)	1月の救急車搬送数が過去最大となる中、患者トリアージを行い、救急患者受入れ体制を充実
平成27年2月	3階西病棟	—	2月の救急車搬送入院患者や予定外入院患者の多数受入れ
平成27年3月	内科外来	八尾みゆき (看護師) 安藤圭子 (看護師) 新部里美 (看護師)	3月の救急外来患者に多数対応 また時間外室の運営・レイアウト変更において中心的に活躍

5. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	5月6日(火祝) 10:00～17:00	中西康詞	小児科担当
		1月11日(日) 10:00～17:00	中西康詞	小児科担当
	中央急病診療所	11月8日(土) 15:00～22:00	三木俊治	内科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30～	池原千衣子	※健診対象者増加のため、 健診日程が増えています
		奇数月 第4水曜日 13:30～	池原千衣子	
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	8月6日(水) 13:45～	大山寛毅	
		1月7日(水) 13:45～	大山寛毅	
西区民まつり 「健康のつどい」	西区民センター	10月19日(日) 9:00～15:00	笠山宗正	医師会の健康相談コーナー等
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	3月7日(土) 13:30～15:30	木藤友実子	「認知症等高齢者支援地域連携 事業」の市民対象の講演会

6. ボランティアの活動

	主 な 内 容
4 月	・ ボランティア保険加入 (年度更新) ・ 大阪市ボランティア・市民活動センター「COMBOネット」登録
5 月	・ ボランティア茶話会開催 (5/14)
7 月	・ ホスピス緩和ケアボランティア研修会 (7/3)
8 月	・ 大阪ボランティア協会登録
9 月	・ 定例公演研修会 (9/7)
10 月	・ 日本病院ボランティア総会参加 (10/30)
11 月	・ 平成26年度ボランティア総会出席 (11/10) ・ インフルエンザ予防接種 (任意) ・ 健康診断 (任意)
3 月	・ 2014年度定例研修会参加「病院ボランティアのこともう一度考えてみませんか」(3/20)

(概要)

- ・ 平成13年ボランティア導入
- ・ メンバー7名 (月～金 各日2名ずつ活動)
- ・ 活動内容: 初診・再診手続き、患者移送 (車椅子移送)、診察・検査等場所の案内、移動図書の管理、手話通訳

7. CS・ES推進取組

CS・ES推進委員・事務局設置	各所属より任命。54名の体制で運営
CS・ESニュース	各月の入会式や主な取組みを告知
朝のあいさつNo.1活動	・「済生利民」の実践。「あいさつ日本一」を目指し元気に患者様など来院客をお迎えし、職員同士のコミュニケーションを高めるべく全職員が実施（毎月、正面玄関、職員通用口、予防医学センター前を2～3週間実施） ・“あいさつNo.1”標語の募集、優秀作品賞表彰。 優秀作品は全所属に掲示
「患者様の声」への対応	・患者様から出されたご要望等の共有化と迅速対応
職員間の「ありがとうの声」 患者様、人間ドック受診者 からのお褒めの言葉	・「ありがとうの声カード」を活用して他職員へ感謝 ・外来、病棟、予防医学センター等から頂いたお褒めの言葉の共有化
CS向上取組み	・「サービス向上ホットライン」の運営開始（H26/4） ・事務職員の外来案内実施（H26/4） ・夏期期間中救急隊へのおしほり提供（H26/7） ・時間外室前、眼科前、産婦人科室内待合の椅子リニューアル ・金融コンシェルジュの告知方法の見直し（H26/7） ・患者様アンケート実施（H26/8・H27/2） ・「日生病院あったかさサポート通信『SaiseiRimin』（済生利民）」No.2～4の発刊 ・入院給食における化学療法治療のための代替食実施 ・1F入口、あったかさサポートセンター内の掲示見直し（H26/11） ・正面玄関付近駐輪場の整備・段差解消（H26/7） ・面会票・面会札ルール徹底（H26/11） ・採血室バーコード読取処理による会計待ち時間短縮（H26/12） ・CSマスター表彰
登録医等医療機関への対応	・日本生命済生会90周年の告知と訪問活動（H26/7） ・年末訪問活動（H26/12）
ES向上取組み	・福利厚生制度（職員向け優遇制度）の告知（H26/10） ・日本生命Presentsみらいフェス♪コンサート（H26/10） ・済生会ボウリング大会（H26/11） ・日本生命野球部社会人選手権大会応援（H26/11）

8. 院内行事

〈平成26年〉

4月1日	・新入職員入会式（原則各月第1水曜日）
4月1日	・進発式
4月4日	・看護部・臨床研修部新人宿泊研修（～4月5日）
4月19日	・緩和ケア講演会
4月22日	・新電子カルテ説明会（4月22日、4月24日）
5月1日	・監査法人トーマツによる会計監査（～5月20日）
5月7日	・新電子カルテシステム稼働
5月9日	・医学セミナーUpdate（～3月6日迄全11回）
5月9日	・看護フェア
5月10日	・あわぎ産業医セミナー
5月13日	・TQM研修会（～5月14日 講師：人材育成研究所 立川義博先生）
5月23日	・定時理事会
6月2日	・外来診察室数拡大、午後診察の受付時間延長
6月11日	・定時評議員会
6月11日	・理事会・評議員会報告会、TQMキックオフ
6月21日	・ニッセイ市民健康セミナー（6月21日、12月6日）
6月21日	・あわぎ産婦人科病診連携懇話会
6月22日	・大阪乾癬友の会（梯の会）、総会（6月22日、12月7日）
7月1日	・日本生命済生会創立90周年記念式典、日生稲荷神社・日生白玉神社神事
7月11日	・救急診療センター講演会
7月15日	・消防・防災訓練（7月15日、12月2日）
7月15日	・院内感染対策教育講演会（7月15日、11月4日、2月10日）
7月19日	・あわぎフォーラム（特別講師：大阪大学 吉川秀樹教授）
7月19日	・開放型病院運営委員会
7月19日	・開放型病院登録医総会
7月25日	・夏休みこども医療体験2014（7月25日、8月1日）
7月27日	・日生病院ICLSコース（7月27日、1月25日）
8月24日	・無料乳がん検診
9月9日	・公益法人認定法に基づく大阪府立入検査
9月11日	・あわぎ脳卒中予防フォーラム
9月26日	・医療安全講演会（9月26日、2月24日）
9月27日	・日生病院緩和ケア研修会（～9月28日）
10月16日	・下期進発式、日生医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
10月31日	・ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー（10月31日、1月29日、2月20日）
11月1日	・あわぎ肝疾患病診連携懇話会
11月2日	・ニッセイ産婦人科内視鏡研究会
11月8日	・自然に学ぶ・自然に遊ぶ 健康キッズ（共催：ニッセイ緑の財団）
11月8日	・あわぎクリニカルカンファレンス
11月11日	・ボウリング大会（11月11日、11月20日）
11月12日	・ニッセイいい皮膚の日
11月13日	・花乃井中学校からの職場体験学習（～11月14日）
11月14日	・フォーラム「医療の改善活動」全国大会発表（～11月15日）
11月19日	・篤志解剖者慰霊祭
11月20日	・ニッセイ糖尿病フェア（～11月21日）
11月20日	・堀江中学校からの職場体験学習（～11月21日）
11月22日	・ニッセイ看護研究会
11月27日	・あわぎ眼科病診連携懇話会
11月28日	・糖尿病患者友の会「錦会」総会



11月29日	・市民公開講座
12月8日	・医療ガスの安全な取扱研修会
12月16日	・保険診療に関する講習会「適時調査の対策について」
12月19日	・ニッセイあったかクリスマスコンサート
〈平成27年〉	
1月5日	・新年互礼会
1月15日	・輸血療法講演会
1月15日	・あわぞ消化器・一般外科病診連携懇話会
1月23日	・クリティカルパス講演会
1月23日	・無料低額診療事業調査
1月26日	・大阪市保健所立入検査
1月30日	・ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー
1月30日	・緩和ケア講演会
2月3日	・TQM大会
2月13日	・人権研修会
2月14日	・ニッセイ産業医セミナー（旧：あわぞ産業医セミナー）
2月27日	・接遇研修会
2月28日	・看護研究発表会
3月3日	・研修医発表会
3月4日	・専門・認定看護師実践報告会
3月5日	・あわぞ精神神経病診連携懇話会
3月7日	・日生病院医局OB・OG会
3月12日	・あわぞ糖尿病病診連携懇話会
3月14日	・ニッセイ認知症医療介護セミナー（共催：ニッセイ基礎研究所）
3月24日	・臨時評議員会、定時理事会（平成27年度事業計画・予算）
3月24日	・あわぞ抗凝固療法勉強会
3月28日	・あわぞ消化管病診連携懇話会



糖尿病教室	火～金曜日
母乳外来	月～金曜日
マタニティービクス アフタービクス ベビービクス マタニティーヨガ	毎週／火曜日・木曜日
両親学級	毎週／土曜日
大阪乾癬患者友の会「梯の会」	学習会・定例総会勉強会 年／2回 患者懇談会 年／3回 会報発行 年／4回 幹事会 毎月
糖尿病患者友の会「錦会」	総会 年／1回 患者懇談会 随時 ランチセミナー 年／1回

9. 広報関係（新聞、雑誌記事 他）

(1) ニッセイ夏休みこども医療体験 [平成26年8月7日付 毎日新聞]



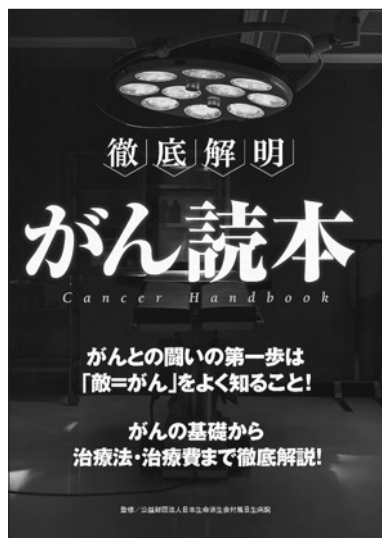
〈毎日新聞社許諾済み〉

(2) 金融コンシェルジュ

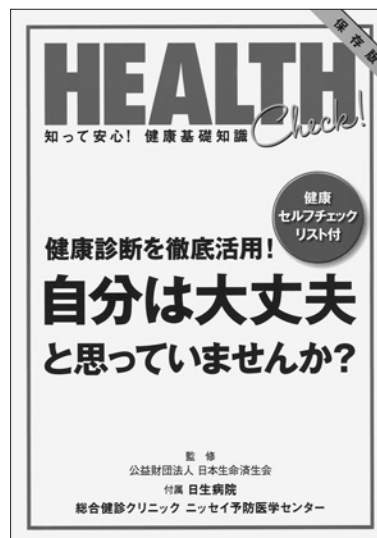
- ・平成27年3月12日付 日本経済新聞
- ・平成26年8月18日号 「AERA」 に当院の取り組みが掲載

(3) 日本生命顧客向けツールの監修

- ① 徹底解明がん読本 [A4 18ページ] (発行部数：64万部) 写真①
- ② 健康手帳(男性版) [A6 33ページ] (発行部数：23万部) 写真②
- ③ 健康手帳(女性版第2弾) [A6 34ページ] (発行部数：14万部) 写真③



写真①



写真②



写真③

公益財団法人 日本生命済生会付属

日 生 病 院 年 報

公第3巻（通算第14巻） 平成27年12月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院 年報WG

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 〒550-0012 大阪市西区立売堀6丁目3番8号

T E L 06 (6543) 3581 (代表)

<http://www.nissay-hp.or.jp>